



Sun™ Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire™ ハイエンドシステム のための追補マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3994-10
2005 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、AnswerBook2、docs.sun.com、OpenBoot、Sun Management Center、Sun Fire、および Sun Fireplane は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

| | |
|-----|--|
| 原典: | Sun Management Center 3.5 Version 6 Supplement for Sun Fire High-End Systems Part No: 819-0417-10 Revision A |
|-----|--|



目次

はじめに xxiii

1. 概要 1

2. インストールと設定 3

Sun Fire ハイエンドシステムに固有のパッケージ 4

ネットワークポートの設定 5

Sun Management Center の主な機能と対応する節 6

インストールプロセス 8

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新 9

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのアンインストール 9

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定 9

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード 10

Sun Management Center の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ 10

サーバーマシンの選択 12

サーバーマシンのサーバーレイヤー 12

システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムドメインのエージェントレイヤー 12

ワークステーションまたはネットワークに対するコンソールレイヤーと基本ヘルプ 13

Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールするレイヤー 13

Sun Management Center のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール 14

Sun Management Center のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定 15

- ▼ システムコントローラで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 16
- ▼ ドメインで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 24
- ▼ サーバマシンで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する 26

「エージェント更新」による複数ホストの更新 27

エージェント更新プロセスを起動する前に 27

- ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する 28

エージェント更新プロセスの使用 28

エージェント更新でサポートされる構成 28

- ▼ Sun Management Center アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 28
- ▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 32

CLI によるソフトウェアのアンインストール 33

- ▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 33
- ▼ Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする 35

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 37

- ▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する 37

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了 38

- ▼ サーバとエージェントを停止する 39
- ▼ コンソールを終了する 39

| | |
|--|----|
| Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータの変更 | 40 |
| ▼ セットアップスクリプトを再実行する | 40 |
| Sun Management Center の Web インタフェース | 42 |
| インストールログファイルとセットアップログファイル | 43 |
| 3. セキュリティーアクセス権の設定 | 45 |
| グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項 | 45 |
| スーパーユーザーのアクセス権 | 46 |
| ネームサービススイッチ | 47 |
| ネットワークネームサービス | 47 |
| Sun Management Center のグループ | 48 |
| ▼ Sun Management Center ユーザーグループにユーザーを追加する | 49 |
| System Management Services のグループ | 50 |
| ▼ smsconfig コマンドを使用して SMS グループにユーザーを追加する | 51 |
| Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールの使用に必要な権限 | 53 |
| PDSM 操作に必要な SMS グループ権限 | 53 |
| プラットフォーム表示に対するアクセス権 | 54 |
| ドメイン表示に対するアクセス権 | 54 |
| 1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限 | 55 |
| 4. Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクト | 57 |
| Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの複合オブジェクト | 57 |
| ▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する | 60 |
| ▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する | 62 |
| Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトの更新 | 62 |
| ▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する | 63 |
| ▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する | 64 |

- ▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする 64
- Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクト 66
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する 66
- 5. Sun Fire ハイエンドシステムの詳細ウィンドウ 69
 - 「ハードウェア」タブの表示 70
 - ハードウェアの概要 70
 - 物理表示 71
 - 論理表示 71
 - Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ 71
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要を表示する 72
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示をする 75
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示をする 77
 - Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウ 79
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要を表示する 80
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示をする 81
 - ▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示をする 83
 - Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウ 84
 - ▼ システムコントローラのハードウェアの概要を表示する 85
 - ▼ システムコントローラの物理表示をする 86
 - ▼ システムコントローラの論理表示をする 90
- 6. Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール 93
 - プラットフォーム用モジュールの使用不可 94
 - Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールの属性 95
 - Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールのアラーム規則 96
 - プラットフォーム構成リーダーモジュール 96

| | |
|---------------------------|-----|
| プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能 | 97 |
| プラットフォーム構成リーダーの属性 | 98 |
| システム | 98 |
| センタープレーン | 100 |
| 拡張ボード | 102 |
| センタープレーンサポートボード | 103 |
| システムコントローラ | 104 |
| システムコントローラの周辺装置 | 105 |
| ファントレー | 106 |
| 電源装置 | 107 |
| CPU ボード | 108 |
| HPCI ボード | 110 |
| HPCI+ ボード | 112 |
| WPCI ボード | 115 |
| MaxCPU ボード | 117 |
| HPCI カセット | 119 |
| Paroli カード | 121 |
| プロセッサ | 121 |
| メモリーバンク | 123 |
| DIMM | 124 |
| ドメイン | 124 |
| 不明なコンポーネント (構成部品) | 126 |
| 障害イベントテーブル | 127 |
| 検出オブジェクトテーブル | 127 |
| プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則 | 128 |
| ボード電流規則 (scBCurrt) | 128 |
| ボード電源規則 (scBPower) | 129 |
| ボード温度規則 (scBTemp) | 129 |

| | |
|--------------------------------|-----|
| ボード電圧規則 (scBVolt) | 130 |
| ドメイン停止および記録停止規則 (scStop) | 130 |
| HPCI カセット規則 (scHPCId) | 131 |
| フェイルオーバー状態規則 (scFoStat) | 131 |
| OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBUru1) | 132 |
| OK/FAIL 規則 (scOkFail) | 133 |
| ON/OFF 規則 (scOnOff) | 133 |
| POST 状態規則 (scPOST) | 134 |
| 電源装置遮断器規則 (scBreakr) | 134 |
| システムボード DR 状態規則 (scDrStat) | 135 |
| システムボードのテスト状態規則 (scBTest) | 135 |
| ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt) | 136 |
| ドメインのバス構成規則 (scBusCfg) | 138 |
| 障害イベント規則 (faultEventRuleProc) | 139 |
| ドメイン構成リーダーモジュール | 139 |
| 構成が多数の外部ディスクからなる時の注意事項 | 140 |
| ▼ agent-stats-d.def ファイルを編集する | 141 |
| ▼ ドメインのアラーム属性を変更する | 141 |
| ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔 | 142 |
| ▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する | 142 |
| ドメイン構成リーダーの属性 | 142 |
| システム | 143 |
| CPU/メモリーボード | 143 |
| 入出力ボード | 144 |
| WPCI ボード | 145 |
| MaxCPU ボード | 145 |
| HPCI カード | 146 |
| Paroli カード | 147 |

| | |
|----------------------------|-----|
| プロセッサ | 148 |
| メモリーコントローラ | 148 |
| メモリーバンク | 149 |
| DIMM | 150 |
| ディスクデバイス | 151 |
| テープデバイス | 152 |
| ネットワークインタフェース | 152 |
| WCI | 153 |
| ドメイン構成リーダーのアラーム規則 | 154 |
| CPU 状態規則 (scCPUStatus) | 154 |
| DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt) | 154 |
| ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt) | 155 |
| POST 状態規則 (scPOSTStatus) | 155 |
| 状態検査規則 (scStateCheck) | 156 |
| テープエラー数規則 (scTpeErrCnt) | 156 |
| リンクの状態規則 (scLnkSt) | 157 |
| リンクの妥当性規則 (scLnkVld) | 157 |
| SC 構成リーダーモジュール | 158 |
| SC 構成リーダーの属性 | 159 |
| システム | 160 |
| SC ボード | 160 |
| プロセッサ | 161 |
| メモリーモジュール | 162 |
| PCI デバイス | 162 |
| ディスクデバイス | 163 |
| テープデバイス | 164 |
| ネットワークインタフェース | 165 |
| SC 構成リーダーのアラーム規則 | 166 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| ボード電圧規則 (cpBrdVolt) | 166 |
| CPU 状態規則 (cpCPUStatus) | 166 |
| CPU 温度規則 (cpCPUTemp) | 167 |
| ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt) | 167 |
| テープエラー数規則 (cpTpeErrCnt) | 168 |
| プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュール | 168 |
| プラットフォーム表示 | 170 |
| プラットフォーム情報 | 171 |
| プラットフォームのスロット 0 のボード | 171 |
| プラットフォームのスロット 1 のボード | 172 |
| プラットフォームの空きスロット | 172 |
| 拡張ボード | 173 |
| 電源装置 | 174 |
| ファントレー | 174 |
| ドメイン X 表示 | 174 |
| ドメイン X の情報 | 175 |
| ドメイン X のスロット 0 のボード | 175 |
| ドメイン X のスロット 1 のボード | 176 |
| ドメイン X の空きスロット | 177 |
| 動的再構成 (DR) モジュール | 178 |
| SC 監視モジュール | 178 |
| SC 監視属性 - SC デーモンプロセス | 180 |
| SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc) | 181 |
| SC 状態モジュール | 182 |
| SC 状態属性 | 183 |
| SC 状態のアラーム規則 (rscstatus) | 184 |
| プラットフォームおよびドメインログファイルの表示 | 184 |

7. システムコントローラからのプラットフォーム/ドメインの状態管理 185

| | |
|---------------------------|-----|
| 前提条件 | 185 |
| サポートされるコンポーネント | 186 |
| PDSM がサポートする SMS のコマンド | 186 |
| システムコントローラからのプラットフォーム管理操作 | 187 |
| プラットフォーム情報の表示 | 188 |
| ボードの追加 | 188 |
| ▼ ボードを追加する | 188 |
| ボードの削除 | 189 |
| ▼ ボードを削除する | 189 |
| ボードの移動 | 190 |
| ▼ ボードを移動する | 190 |
| ボードまたは周辺装置の電源オン | 191 |
| ▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする | 191 |
| ボードまたは周辺装置の電源オフ | 191 |
| ▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする | 191 |
| 状態の表示 | 192 |
| ▼ 状態を表示する | 192 |
| システムコントローラからのドメイン管理操作 | 194 |
| システムコントローラからのドメイン情報の表示 | 194 |
| ボードの追加 | 195 |
| ▼ ボードを追加する | 195 |
| ボードの削除 | 196 |
| ▼ ボードを削除する | 196 |
| ボードの移動 | 197 |
| ▼ ボードを移動する | 197 |
| ボードの電源オン | 198 |
| ▼ ボードの電源をオンにする | 198 |
| ボードの電源オフ | 199 |

- ▼ ボードの電源をオフにする 199
- ボードのテスト 200
- ▼ ボードをテストする 200
- ドメインのタグの追加/変更 201
- ▼ ドメインのタグを追加または変更する 201
- タグの削除 202
- ▼ ドメインのタグを削除する 202
- キースイッチ位置の変更 203
- ▼ キースイッチ位置を変更する 203
- アクセス制御リストの設定/変更 204
- ▼ アクセス制御リストを設定または変更する 204
- ドメインのリセット 205
- ▼ ドメインをリセットする 205
- 状態の表示 205
- ▼ 状態を表示する 206
- DR 操作に失敗した場合の対処方法 206
- 8. ドメインからの動的再構成 (DR) 209
 - 前提条件 209
 - DR モジュール 210
 - DR の属性 211
 - 接続点 212
 - CPU/メモリー 212
 - 入出力 213
 - WPCI 214
 - cPCI/hPCI カード 215
 - SCSI 216
 - 空きスロット 217
 - MaxCPU 218

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 動的接続点 | 218 |
| CPU コンポーネント | 219 |
| メモリーコンポーネント | 220 |
| 入出力コンポーネント | 221 |
| SCSI コンポーネント | 222 |
| ドメインからの DR 操作 | 223 |
| サポートされている <code>cfgadm</code> のオプション | 224 |
| ドメインからのドメイン情報の表示 | 224 |
| ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認 | 224 |
| ボードの割り当て | 225 |
| ▼ ボードを割り当てる | 225 |
| ボードの割り当て解除 | 226 |
| ▼ ボードを割り当て解除する | 226 |
| システムボードのアタッチ | 227 |
| ▼ システムボードをアタッチする | 227 |
| システムボードのデタッチ | 228 |
| ▼ システムボードをデタッチする | 228 |
| ボードの接続 | 229 |
| ▼ システムボードを接続する | 229 |
| ボードの切断 | 230 |
| ▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する | 230 |
| ▼ SCSI ボードを切断する | 231 |
| ボード、コンポーネント、メモリーの構成 | 232 |
| ▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する | 232 |
| ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除 | 233 |
| ▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する | 233 |
| ▼ メモリーを構成解除する | 234 |
| ボードの電源オン | 235 |

| | | |
|----|---|-----|
| ▼ | ボードの電源をオンにする | 235 |
| | ボードの電源オフ | 236 |
| ▼ | ボードの電源をオフにする | 236 |
| | ボードのテスト | 237 |
| ▼ | ボードをテストする | 237 |
| | 状態の表示 | 238 |
| ▼ | 状態を表示する | 238 |
| | | |
| A. | CLIによるインストールと設定 | 241 |
| | CLIによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール | 241 |
| | CLIによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定 | 242 |
| | システムコントローラの設定 | 242 |
| | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定 | 245 |
| | | |
| | 用語集 | 247 |
| | | |
| | 索引 | 255 |

図目次

| | | |
|--------|---|----|
| 図 2-1 | インストールプロセス図 | 8 |
| 図 2-2 | Sun Fire ハイエンドシステムでの新規インストールと設定 | 11 |
| 図 2-3 | プラットフォームエージェントのポート番号の設定 | 17 |
| 図 2-4 | 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ | 19 |
| 図 2-5 | CP1500 システムコントローラのエージェントの設定 | 21 |
| 図 2-6 | CP2140 システムコントローラのエージェントの設定 | 22 |
| 図 2-7 | サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定 | 23 |
| 図 2-8 | ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ | 25 |
| 図 2-9 | 「ジョブの管理」パネル | 29 |
| 図 2-10 | 「新しいタスク」パネル | 30 |
| 図 4-1 | Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例 | 61 |
| 図 5-1 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要 | 73 |
| 図 5-2 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示 - 正面 | 76 |
| 図 5-3 | プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面 | 77 |
| 図 5-4 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示 | 78 |
| 図 5-5 | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要 | 80 |
| 図 5-6 | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示 - 正面 | 82 |
| 図 5-7 | ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面 | 83 |
| 図 5-8 | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示 | 84 |
| 図 5-9 | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェアの概要 | 86 |

| | | |
|--------|--|-----|
| 図 5-10 | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの物理表示 - 正面 | 87 |
| 図 5-11 | CP1500 システムコントローラ上面の物理表示 | 88 |
| 図 5-12 | CP2140 システムコントローラ上面の物理表示 | 89 |
| 図 5-13 | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP1500) の論理表示 | 91 |
| 図 5-14 | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP2140) の論理表示 | 92 |
| 図 6-1 | プラットフォーム構成リーダーモジュール | 97 |
| 図 6-2 | ドメイン構成リーダーモジュール | 140 |
| 図 6-3 | SC 構成リーダーモジュール | 159 |
| 図 6-4 | プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール | 170 |
| 図 6-5 | SC 監視モジュール | 179 |
| 図 6-6 | SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている) | 183 |
| 図 8-1 | DR の機能 | 211 |
| 図 8-2 | 「デタッチ」確認ボックス | 228 |
| 図 8-3 | 「切断」パネル | 230 |
| 図 8-4 | 「メモリーの構成解除」パネル | 234 |
| 図 8-5 | 「ボードのテスト」パネル | 237 |
| 図 8-6 | ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合) | 239 |
| 図 8-7 | ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合) | 239 |

表目次

| | | |
|-------|--|-----|
| 表 1-1 | Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール | 2 |
| 表 2-1 | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center パッケージ | 4 |
| 表 2-2 | Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス | 5 |
| 表 2-3 | インストールと設定、アンインストール、更新作業 | 6 |
| 表 2-4 | Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールするレイヤー | 13 |
| 表 3-1 | デフォルトの Sun Management Center 管理グループ | 48 |
| 表 3-2 | デフォルトの SMS 管理グループ | 50 |
| 表 3-3 | Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールと管理グループ | 53 |
| 表 3-4 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権 | 54 |
| 表 3-5 | Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権 | 54 |
| 表 4-1 | Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン | 58 |
| 表 5-1 | 詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュール | 69 |
| 表 5-2 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報 | 74 |
| 表 5-3 | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源 | 74 |
| 表 5-4 | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要 | 81 |
| 表 5-5 | Sun Fire ハイエンドシステムの SC のハードウェアの概要 | 86 |
| 表 6-1 | Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要 | 93 |
| 表 6-2 | プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン | 95 |
| 表 6-3 | プラットフォーム構成リーダー - システム | 98 |
| 表 6-4 | プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン | 100 |

| | | |
|--------|--------------------------------------|-----|
| 表 6-5 | プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード | 102 |
| 表 6-6 | プラットフォーム構成リーダー - センタープレーンサポートボード | 103 |
| 表 6-7 | プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ | 104 |
| 表 6-8 | プラットフォーム構成リーダー - コントローラ周辺装置 | 106 |
| 表 6-9 | プラットフォーム構成リーダー - ファントレー | 107 |
| 表 6-10 | プラットフォーム構成リーダー - 電源装置 | 108 |
| 表 6-11 | プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード | 109 |
| 表 6-12 | プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード | 110 |
| 表 6-13 | プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード | 112 |
| 表 6-14 | プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード | 115 |
| 表 6-15 | プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード | 118 |
| 表 6-16 | プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット | 120 |
| 表 6-17 | プラットフォーム構成リーダー - Paroli カード | 121 |
| 表 6-18 | プラットフォーム構成リーダー - プロセッサ | 122 |
| 表 6-19 | プラットフォーム構成リーダー - メモリーバンク | 123 |
| 表 6-20 | プラットフォーム構成リーダー - DIMM | 124 |
| 表 6-21 | プラットフォーム構成リーダー - ドメイン | 125 |
| 表 6-22 | プラットフォーム構成リーダー - 不明なコンポーネント | 126 |
| 表 6-23 | プラットフォーム構成リーダー - 障害イベントテーブル | 127 |
| 表 6-24 | プラットフォーム構成リーダー - 検出オブジェクトテーブル | 127 |
| 表 6-25 | プラットフォーム構成リーダー - ボード電流規則 | 128 |
| 表 6-26 | プラットフォーム構成リーダー - ボード電源規則 | 129 |
| 表 6-27 | プラットフォーム構成リーダー - ボード温度規則 | 129 |
| 表 6-28 | プラットフォーム構成リーダー - ボード電圧規則 | 130 |
| 表 6-29 | プラットフォーム構成リーダー - ドメイン停止および記録停止規則 | 130 |
| 表 6-30 | プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット規則 | 131 |
| 表 6-31 | プラットフォーム構成リーダー - フェイルオーバー状態規則 | 132 |
| 表 6-32 | プラットフォーム構成リーダー - OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 | 132 |
| 表 6-33 | プラットフォーム構成リーダー - OK/FAIL 規則 | 133 |
| 表 6-34 | プラットフォーム構成リーダー - ON/OFF 規則 | 133 |

| | | |
|--------|-----------------------------------|-----|
| 表 6-35 | プラットフォーム構成リーダー - POST 状態規則 | 134 |
| 表 6-36 | プラットフォーム構成リーダー - 電源装置遮断器規則 | 135 |
| 表 6-37 | プラットフォーム構成リーダー - システムボードの DR 状態規則 | 135 |
| 表 6-38 | プラットフォーム構成リーダー - システムボードのテスト状態規則 | 136 |
| 表 6-39 | プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則 | 136 |
| 表 6-40 | プラットフォーム構成リーダー - ドメインのバス構成規則 | 139 |
| 表 6-41 | ドメイン構成リーダー - システム | 143 |
| 表 6-42 | ドメイン構成リーダー - CPU/メモリーボード | 143 |
| 表 6-43 | ドメイン構成リーダー - 入出力ボード | 144 |
| 表 6-44 | ドメイン構成リーダー - WPCI ボード | 145 |
| 表 6-45 | ドメイン構成リーダー - MaxCPU ボード | 145 |
| 表 6-46 | ドメイン構成リーダー - HPCI カード | 146 |
| 表 6-47 | ドメイン構成リーダー - Paroli カード | 147 |
| 表 6-48 | ドメイン構成リーダー - プロセッサ | 148 |
| 表 6-49 | ドメイン構成リーダー - メモリーコントローラ | 149 |
| 表 6-50 | ドメイン構成リーダー - メモリーバンク | 149 |
| 表 6-51 | ドメイン構成リーダー - DIMM | 150 |
| 表 6-52 | ドメイン構成リーダー - ディスクデバイス | 151 |
| 表 6-53 | ドメイン構成リーダー - テープデバイス | 152 |
| 表 6-54 | ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース | 152 |
| 表 6-55 | ドメイン構成リーダー - WCI | 153 |
| 表 6-56 | ドメイン構成リーダー - CPU 状態規則 | 154 |
| 表 6-57 | ドメイン構成リーダー - DIMM エラー数規則 | 154 |
| 表 6-58 | ドメイン構成リーダー - ディスクエラー数規則 | 155 |
| 表 6-59 | ドメイン構成リーダー - POST 状態規則 | 155 |
| 表 6-60 | ドメイン構成リーダー - 状態検査規則 | 156 |
| 表 6-61 | ドメイン構成リーダー - テープエラー数規則 | 156 |
| 表 6-62 | ドメイン構成リーダー - リンク 状態規則 | 157 |
| 表 6-63 | ドメイン構成リーダー - リンクの妥当性規則 | 157 |
| 表 6-64 | SC 構成 リーダー - システム | 160 |

| | | |
|--------|-----------------------------------|-----|
| 表 6-65 | SC 構成リーダー - CP1500/CP2140 ボード | 161 |
| 表 6-66 | SC 構成リーダー - プロセッサ | 161 |
| 表 6-67 | SC 構成リーダー - メモリーモジュール | 162 |
| 表 6-68 | SC 構成リーダー - PCI デバイス | 163 |
| 表 6-69 | SC 構成リーダー - ディスクデバイス | 164 |
| 表 6-70 | SC 構成リーダー - テープデバイス | 165 |
| 表 6-71 | SC 構成リーダー - ネットワークインタフェース | 165 |
| 表 6-72 | SC 構成リーダー - ボード電圧規則 | 166 |
| 表 6-73 | SC 構成リーダー - CPU 状態規則 | 167 |
| 表 6-74 | SC 構成リーダー - CPU 温度規則 | 167 |
| 表 6-75 | SC 構成リーダー - ディスクエラー数規則 | 168 |
| 表 6-76 | SC 構成リーダー - テープエラー数規則 | 168 |
| 表 6-77 | PDSM モジュール - プラットフォーム情報 | 171 |
| 表 6-78 | PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 0 のボード | 171 |
| 表 6-79 | PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 1 のボード | 172 |
| 表 6-80 | PDSM モジュール - プラットフォームの空きスロット | 173 |
| 表 6-81 | PDSM モジュール - 拡張ボード | 173 |
| 表 6-82 | PDSM モジュール - 電源装置 | 174 |
| 表 6-83 | PDSM モジュール - ファントレー | 174 |
| 表 6-84 | PDSM モジュール - ドメイン X 情報 | 175 |
| 表 6-85 | PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 0 のボード | 176 |
| 表 6-86 | PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード | 176 |
| 表 6-87 | PDSM モジュール - ドメイン X の空きスロット | 177 |
| 表 6-88 | SC デーモンプロセス | 180 |
| 表 7-1 | PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド | 187 |
| 表 8-1 | CPU/メモリーボードの接続点属性 | 212 |
| 表 8-2 | 入出力ボードの接続点属性 | 213 |
| 表 8-3 | WPCI ボードの接続点属性 | 214 |
| 表 8-4 | cPCI/hPCI の接続点属性 | 215 |
| 表 8-5 | SCSI の接続点属性 | 216 |

| | | |
|--------|---------------------------------------|-----|
| 表 8-6 | 空きスロットの接続点属性 | 217 |
| 表 8-7 | Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの接続点属性 | 218 |
| 表 8-8 | CPU コンポーネントの動的接続点属性 | 219 |
| 表 8-9 | メモリーコンポーネントの動的接続点属性 | 220 |
| 表 8-10 | 入出力コンポーネントの動的接続点属性 | 221 |
| 表 8-11 | SCSI コンポーネントの動的接続点属性 | 222 |
| 表 8-12 | DR がサポートする <code>cfgadm</code> のオプション | 224 |

はじめに

このマニュアルでは、Sun Fire™ ハイエンドシステムに Sun Management Center ソフトウェアをインストールして設定する方法と、その使用方法を説明します。

- Sun Fire E25K
- Sun Fire E20K
- Sun Fire 15K
- Sun Fire 12K

UltraSPARC® IV および UltraSPARC IV に CPU/メモリーボードを持つシステムがサポートされます。

このマニュアルは、Sun Fire ハイエンドシステムを監視、管理するために、Sun Management Center ソフトウェアをインストールして使用する Sun Fire ハイエンドシステムのシステム管理者向けです。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center ソフトウェアおよびマニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版、英語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語版の画面です。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center ユーザーガイド』のあとにお読みください。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center ソ

ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center ユーザーガイド』では、Sun Management Center ソフトウェアの使用方法をそれぞれ説明しています。

注 – Sun Management Center の製品の最新情報については、Sun Management Center の Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

内容の紹介

第 1 章では、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center ソフトウェアの概要を説明しています。

第 2 章では、Sun Fire ハイエンドシステムに対する Sun Management Center ソフトウェアのインストール、セットアップ、起動、停止、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明しています。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。

第 3 章では、Sun Fire ハイエンドシステムで Sun Management Center を管理する際のセキュリティアクセス権の設定方法を説明しています。

第 4 章では、Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明しています。

第 5 章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有のプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインデータについて説明しています。これらのデータは、それぞれの詳細ウィンドウに表示されます。

第 6 章では、Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントで使用される各属性とアラーム規則を簡単に説明しています。

第 7 章では、プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールから 動的再構成 (DR) コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。PDSM モジュールは、SMS (System Management Services) のコマンドに依存しています。

第 8 章では、動的再構成 (DR) モジュールから DR コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。DR モジュールは、`cfgadm(1M)` コマンドに依存しています。

付録 A では、コマンド行インタフェース (CLI) を使用して Sun Management Center ソフトウェアをインストールし、設定する方法を説明しています。

用語集では、このマニュアル、および Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) で使用されている略語と頭字語をまとめています。

索引を利用すると、このマニュアルの説明箇所を簡単に見つけることができます。

各国語版のマニュアル

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 マニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語版の画面です。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

オープンソースについて

Sun Management Center 3.5 製品にはオープンソースのソフトウェアが付属しています。このリリースに付属するオープンソースソフトウェアのライセンス条件、帰属、および著作権情報についての詳細は『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

| シェル | プロンプト |
|-----------------------------|----------------------|
| UNIX の C シェル | <i>machine_name%</i> |
| UNIX の Bourne シェルと Korn シェル | \$ |
| スーパーユーザー (シェルの種類を問わない) | # |

書体と記号について

| 書体または記号* | 意味 | 例 |
|------------------|--|---|
| AaBbCc123 | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。 | .login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail. |
| AaBbCc123 | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。 | % su Password: |
| <i>AaBbCc123</i> | コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。 | rm <i>filename</i> と入力します。 |
| 『 』 | 参照する書名を示します。 | 『Solaris ユーザーマニュアル』 |
| 「 」 | 参照する章、節、または、強調する語を示します。 | 第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。 |
| \ | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | % grep `^#define \ XV_VERSION_STRING` |

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

| 用途分類 | タイトル |
|---|---|
| Sun Management Center に関する注意事項、制限時間、問題点 | Sun Management Center ご使用にあたって |
| Sun Management Center のインストールと構成 | Sun Management Center インストールと構成ガイド |
| Sun Management Center の使用方法 | Sun Management Center ユーザーガイド |
| 概要 | Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要 |
| SMS および SMS DR に関する注意事項、制限事項、問題点 | System Management Services (SMS) ご使用にあたって |
| SMS のインストールと設定 | System Management Services (SMS) インストールマニュアル |
| SMS 管理 | System Management Services (SMS) 管理者マニュアル |
| SMS リファレンス | System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル |
| Sun Fire ハイエンドシステムでの DR | Sun Fire High-End and Midrange Systems Dynamic Reconfiguration User Guide |
| ハードウェア | Sun Fire E25K/E20K システム サービスマニュアル Sun Fire 15K/12K システム サービスマニュアル |
| luxadm | 特記事項: luxadm ソフトウェア |

マニュアル、サポート、トレーニング

| Sun のサービス | URL | 説明 |
|-----------|---|---|
| マニュアル | http://jp.sun.com/documentation/ | PDF と HTML マニュアルをダウンロードする。印刷マニュアルを注文する。 |
| サポート | http://jp.sun.com/support | テクニカルサポートを受ける。パッチをダウンロードする。 |
| トレーニング | http://jp.sun.com/training/ | Sun のコースについて情報を入手する。 |

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Management Center 3.5 バージョン 6 Sun Fire ハイエンドシステムのための追補マニュアル, Part No. 819-3994-10.

第1章

概要

Sun Management Center ソフトウェアは、Java™ ソフトウェアプロトコルと SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して、Sun の製品とそのサブシステム、コンポーネント、周辺装置の統合および総合的な大規模の管理機能を提供する、拡張可能な開かれたシステム監視および管理アプリケーションです。

『Sun Management Center ユーザーガイド』には、Sun Management Center のアーキテクチャーを理解するための定義と説明、および図が掲載されています。コンソール、サーバー、エージェント、ドメイン、モジュールの対話の仕組みについて不明な点がある場合には、適宜参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアは、Sun Fire ハイエンドプラットフォーム、システムコントローラ、ドメインに対するサポート機能を提供します。今回のリリースでサポートされている Sun Fire ハイエンドシステムのモデルは次のとおりです。

- E25K
- E20K
- 15K
- 12K

UltraSPARC® IV および UltraSPARC IV に CPU/メモリーボードを持つシステムがサポートされます。

Sun Fire ハイエンドプラットフォームの場合、ハードウェアの構成情報はシステムコントローラ (SC: 現在の CP1500 または CP2140) と各プラットフォームドメインの両方に置かれます。Sun Fire ハイエンドシステムのハードウェア構成情報、プロセス監視、管理機能は、表 1-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュールによって提供されます。

表 1-1 Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール

| エージェントモジュール | 説明 |
|---------------------------|--|
| プラットフォーム構成リーダー (PCR) | Sun Fire ハイエンドシステムプラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します。 |
| プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) | プラットフォームおよびドメインの管理と、プラットフォーム全体のシステムボードの大域的な動的再構成 (DR) を可能にします。 |
| ドメイン構成リーダー (DCR) | Sun Fire ハイエンドシステムドメインのハードウェア構成情報を提供します。 |
| 動的再構成 (DR) | 1 つのドメインのボードを一度に動的に再構成することを可能にします。 |
| SC 構成 リーダー | Sun Fire ハイエンドシステム内のシステムコントローラに関するハードウェア構成情報を提供します。 |
| SC 監視 (SCM) | Sun Fire ハイエンドシステムのアクティブなシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。 |
| SC の状態 | Sun Fire ハイエンドシステム上のシステムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを判定します。 |

インストールと設定

この章では、Sun Management Center のウィザードを使った、Sun Fire ハイエンドシステムに対する Sun Management Center ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、再インストール、再構成方法を説明します。

Sun Management Center ソフトウェアは、以下で構成されています。

- Sun Management Center の基本部分と基本的なサポート機能を提供する主要パッケージ
- 特定のハードウェアプラットフォームに対するサポート機能を提供する追加コンポーネント
- 追加機能用のアドオン製品 (ライセンス契約の下に使用許可)

Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能を使用するには、Sun Management Center の主要パッケージと Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンパッケージが必要です。Sun Management Center の主要パッケージのインストールと設定、また Sun Management Center ソフトウェアの起動と停止に関する基本的な情報については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。この章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有の内容についてのみ説明します。



注意 – Sun Management Center ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center のスクリプトあるいはウィザードパネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、このマニュアルで示す例と異なることがあります。この章で示す例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

Sun Fire ハイエンドシステムに固有の パッケージ

Sun Management Center の基本機能に付属している Sun Fire ハイエンドシステムに固有のパッケージを、表 2-1 に示します。Sun Management Center を使用する際に必要となる一般的な条件については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

表 2-1 Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center パッケージ

| パッケージ | 説明 | レイヤー |
|------------|--|-------------|
| SUNWesscp | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center プラットフォーム エージェントサポート | エージェント |
| SUNWesscd | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center ドメインエージェントサポート | エージェント |
| SUNWscsca | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center コントローラエージェントサポート | エージェント |
| SUNWesadf | Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center エージェントサポート | エージェント |
| SUNWesscg | Sun Fire ハイエンドシステム共通の Sun Management Center サポート (マスターの設定およびアンインストールスクリプト) | エージェント、サーバー |
| SUNWensca | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 英語メッセージファイル | エージェント、サーバー |
| SUNWesscs | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center サーバーサポート | サーバー |
| SUNWscscs | Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center コントローラサーバーサポート | サーバー |
| SUNWessdf | Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center サーバーサポート | サーバー |
| SUNWesscd | Sun Management Center の Sun Fire サポート - 動的再構成用のコンソールコンポーネント | サーバー、コンソール |
| SUNWesscdf | Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムでの動的再構成用 Sun Management Center コンソールサポート | サーバー、コンソール |
| SUNWensdr | Sun Management Center - Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステム用の英語 DR メッセージファイル | サーバー、コンソール |

ネットワークポートの設定

Sun Management Center ソフトウェアは、ネットワークポートを介して、システムのさまざまなコンポーネントと通信します。各コンポーネントのデフォルトのポートアドレスは、表 2-2 に示すとおりです。

表 2-2 Sun Management Center のデフォルトのポートアドレス

| レイヤー | コンポーネント | デフォルトのポート番号 |
|--------|----------------|-------------|
| エージェント | エージェント | 161 |
| サーバー | トラップハンドラ | 162 |
| サーバー | イベントマネージャー | 163 |
| サーバー | トポロジマネージャー | 164 |
| サーバー | 構成サーバー | 165 |
| エージェント | プラットフォームエージェント | 166 |
| サーバー | メタデータ | 168 |

このデフォルトのポート設定が、システムですでに動作中のソフトウェアと衝突することがあります。一部の Sun Fire ハイエンドシステムドメインでも、従来の SMNP エージェントがあるためにポート 161 で衝突することがあります。このような衝突を回避するには、Sun Management Center ソフトウェアの設定で代替のネットワークポートを指定してください。ポートの衝突を解決する方法についての詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

トポロジオブジェクトの作成、アクセスの際、Sun Management Center のエージェントレイヤーソフトウェアはデフォルトではポート 161 を使用します。エージェントが別のポートを使用するように設定するには、トポロジオブジェクトが作成または検出されたときに、そのポートを指定する必要があります。Sun Management Center のネットワーク構成と管理を簡略化し、Sun Management Center エージェントをより効率的に検出できるようにするには、デフォルトのポート設定を使用できないすべてのエージェントのインストール先について、別のポート番号を選択して、その番号を使用してください。

Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムコントローラには、エージェントおよびプラットフォームエージェントの 2 つの Sun Management Center エージェントがあります。このうち、エージェントはシステムコントローラの情報、プラットフォームエージェントは Sun Fire ハイエンドシステムの情報を提供します。通常、プラットフォームエージェントについては、デフォルトのポート設定でポートの衝突

が発生することはありません。プラットフォームトポロジオブジェクトが作成または検出されると、デフォルトで正しいポートが提供されるため、ユーザーがポートを指定する必要はありません。

Sun Management Center の主な機能と対応する節

Sun Management Center ソフトウェアでは、いくつかの方法でソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、更新を行うことができます。表 2-3 は、それらの方法と、このマニュアルおよび『Sun Management Center インストールと構成ガイド』におけるその説明箇所をまとめています。

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業

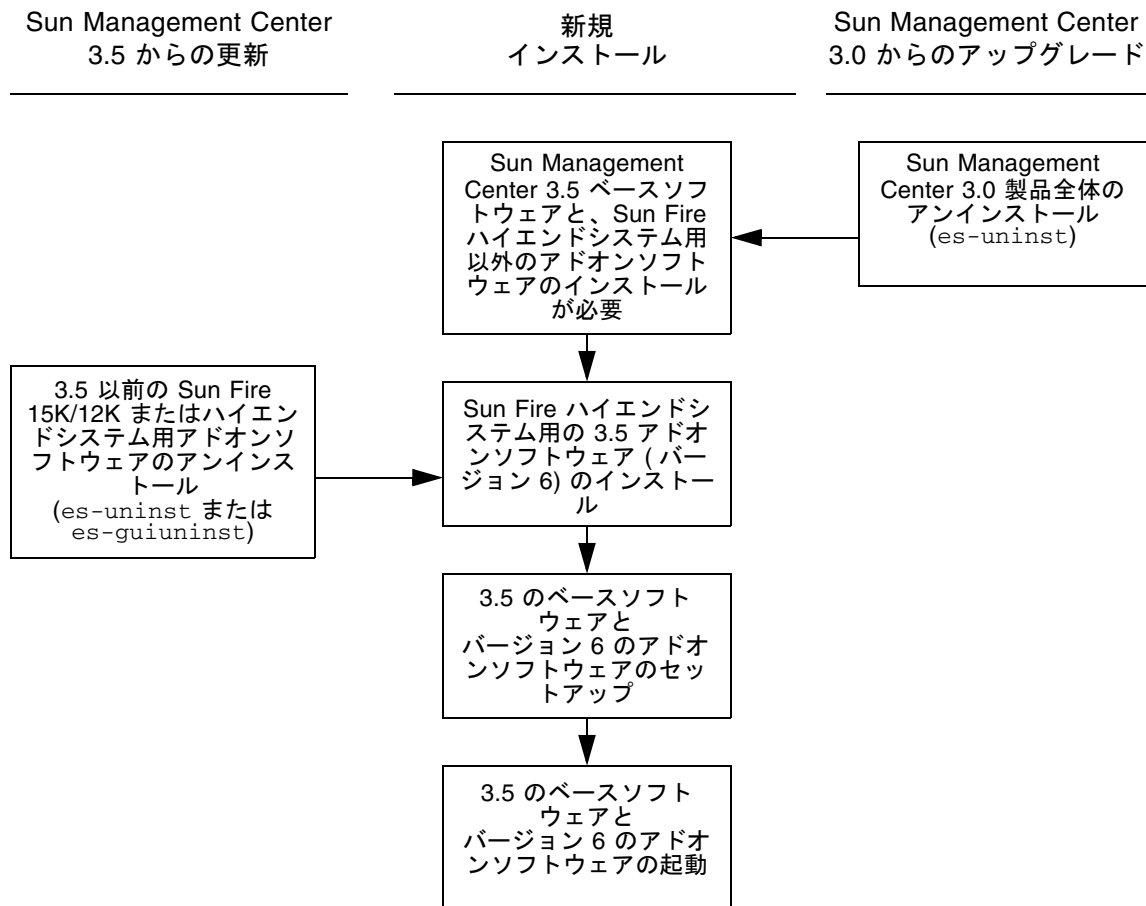
| 行う作業 | 参照するマニュアル |
|--|--|
| CLI による主要およびアドオンソフトウェアのインストール | 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B |
| CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンパッケージの設定 | 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B |
| 「エージェント更新」による複数ホストの更新 | 27 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章「エージェント更新 (インストール) イメージの作成」 |
| CLI によるアンインストール | 33 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B |
| CLI によるソフトウェアの起動 | 37 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-start によるコンポーネントの起動」 |
| CLI によるソフトウェアの停止 | 38 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-stop によるコンポーネントの停止」 |
| Sun Management Center のインストールウィザードによるソフトウェアのインストール | 14 ページの「Sun Management Center のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」 |

表 2-3 インストールと設定、アンインストール、更新作業 (続き)

| 行う作業 | 参照するマニュアル |
|---|---|
| Sun Management Center のセットアップウィザードによる設定 | 15 ページの「Sun Management Center のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定」 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」 |
| ウィザードによる起動 | 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistart によるコンポーネントの起動」 |
| ウィザードによる停止 | 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistop によるコンポーネントの停止」 |
| ウィザードによるアンインストール | 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center のアンインストール」 |

インストールプロセス

図 2-1 は、インストールプロセス全体をまとめています。



注 - エージェント更新機能を使用して、複数のエージェントホストにソフトウェアをインストールすることができます。

図 2-1 インストールプロセス図

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新

Sun Fire ハイエンドシステムから既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアを更新する場合は、次のことを行う必要があります。

- Sun Fire ハイエンドシステム上のサーバー、システムコントローラ、およびドメインから既存のアドオンソフトウェアを削除します。
- Sun Fire ハイエンドシステム上のサーバー、システムコントローラ、およびドメインに新しいアドオンソフトウェアをインストールして設定します。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのアンインストール

- CLI コマンドの `es-uninst` を使って、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、35 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする」を参照してください。
- Sun Management Center 3.5 のアンインストールウィザードの `es-guiuninst` を使って、Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定

注 – インストール作業に入る前に、エージェント更新機能があることを忘れないでください。エージェント更新を利用して、複数のエージェントホストに Sun Management Center ソフトウェアをインストールできます。エージェント更新を使った複数ホストの更新方法については、27 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」を参照してください。

CLI あるいは GUI を使ったインストールおよび設定については、それぞれ次の節または付録で説明しています。

- ウィザードを使用してインストールと設定を行う場合は、9 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールと設定」を参照してください。
- CLI を使用してインストールと設定を行う場合は、付録 A を参照してください。

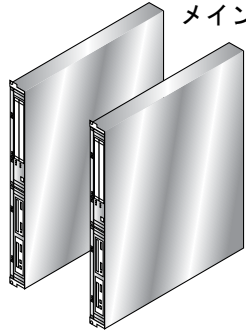
Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレードの詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 5 章を参照してください。

Sun Management Center の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムでの Sun Management Center ソフトウェアの新規インストールおよび設定手順の概略を説明します。図 2-2 は、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラおよびその他ホストにインストールする必要がある Sun Management Center ソフトウェアを表しています。

Sun Fire ハイエンドシステム用
システムコントローラ
メイン
予備



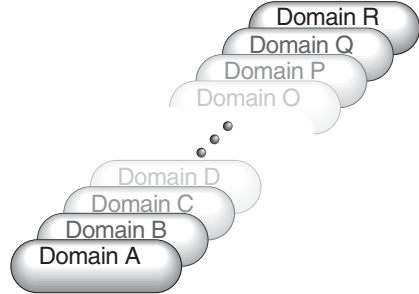
- Sun Management Center の主要エージェントレイヤー
- Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェント、システムコントローラ、プラットフォームエージェントの DR、共通サポート

Sun Management Center サーバー
(512M バイトの RAM を搭載した
任意のホスト)



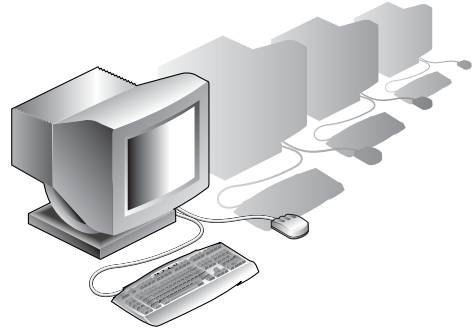
- Sun Management Center のサーバーレイヤーとエージェントレイヤー
- Sun Fire ハイエンドシステムのサーバー、システムコントローラサーバー、サーバーの DR、共通サポート

Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン



- Sun Management Center の主要エージェントレイヤー
- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェント、ドメインエージェントの DR、共通サポート

ワークステーション
(またはネットワーク上の共通の場所)



- Sun Management Center の主要コンソールレイヤーと基本ヘルプコンポーネント
- Sun Fire ハイエンドシステムコンソールの DR のサポート

図 2-2 Sun Fire ハイエンドシステムでの新規インストールと設定

サーバーマシンの選択

Sun Management Center ソフトウェアをインストールする前に、**Sun Management Center** サーバーマシンにするサーバーを決定します。このサーバーには、最小でも 512M バイトのメモリーが必要です。使用可能なメモリーが 512M バイト未満のサーバーに主要サーバーコンポーネントをインストールしようとするすると、エラーメッセージが表示され、インストールが停止します。

また、サーバーは高可用性 (HA) システムである必要があります。HA システムでない場合、**Sun Management Center** サーバーが停止したときに、**Sun Management Center** ソフトウェアを使ってシステムを管理できなくなります。サーバーマシンの要件についての詳細は、『**Sun Management Center** インストールと構成ガイド』を参照してください。

サーバーマシンのサーバーレイヤー

Sun Management Center サーバーとして選択したマシンに **Sun Management Center** の主要サーバーレイヤーと、**Sun Fire** ハイエンドシステムおよびシステムコントローラサーバー用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。**Sun Management Center** サーバーマシンに、**Sun Management Center** の主要サーバーレイヤーをインストールすると、主要エージェントレイヤーが自動的にインストールされます。これで、サーバーマシン自体を監視できるようになります。

システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムドメインのエージェントレイヤー

システムコントローラと **Sun Fire** ハイエンドシステムドメインに **Sun Management Center** ソフトウェアをインストールして、設定する手順の概要は、次に示すとおりです。

1. メインおよび予備のシステムコントローラに **Sun Management Center** 主要エージェントレイヤーと、**Sun Fire** ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントおよびシステムコントローラ用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。
2. 監視するすべての **Sun Fire** ハイエンドシステムのドメインに対して、**Sun Management Center** 主要エージェントレイヤーと **Sun Fire** ハイエンドシステムのドメインエージェント用の追加コンポーネントをインストールして、設定します。

ワークステーションまたはネットワークに対する コンソールレイヤーと基本ヘルプ

GUI を使った監視に使用するネットワーク上の共通の場所または各ワークステーションに Sun Management Center の主要コンソールレイヤーと基本ヘルプ、コンソールの DR サポートをインストールして、設定します。

Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールするレイヤー

Sun Fire ハイエンドシステムをサポートするには、表 2-4 に示すように Sun Fire ハイエンドシステムに Sun Management Center ソフトウェアをインストールして、セットアップします。ベースソフトウェアのインストールとセットアップについては、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。このマニュアルではまた、Sun Management Center ソフトウェアの起動および停止方法も説明しています。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムのプラットフォームエージェントは、Sun Management Center ソフトウェアが動作している任意のマシンにインストールできます。

表 2-4 Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールするレイヤー

| ホスト | レイヤー | インストールするソフトウェア |
|-------------------------------|--------|---|
| Sun Management Center サーバーマシン | サーバー | Sun Management Center の主要サーバーレイヤー Sun Management Center の主要エージェントレイヤー (自動) Sun Fire High ハイエンドシステムのサーバー用の追加コンポーネント Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラサーバー用の追加コンポーネント Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのサーバー用の DR サポート Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル |
| Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン | エージェント | Sun Management Center の主要エージェントレイヤー Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル |

表 2-4 Sun Fire ハイエンドシステムのホストとインストールするレイヤー (続き)

| ホスト | レイヤー | インストールするソフトウェア |
|------------------------------------|--------|---|
| メイン SC | エージェント | <p>Sun Management Center の主要エージェントレイヤー</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル</p> <p>注 - このホストに、その他の Sun Management Center のレイヤーをインストールしないでください。</p> |
| 予備の SC | エージェント | <p>Sun Management Center の主要エージェントレイヤー</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の監視コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ用の追加コンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用の共通サポート</p> <p>Sun Fire ハイエンドシステム用のメッセージファイル</p> <p>注 - このホストに、その他の Sun Management Center のレイヤーをインストールしないでください。</p> |
| ワークステーション、 またはネットワーク上 の共通の場所 | コンソール | <p>Sun Management Center の主要コンソールレイヤーと基本ヘルプコンポーネント</p> <p>Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのコンソール用の DR サポート</p> |

Sun Management Center のインストールウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール

ソフトウェア全体のインストール方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center のインストール」に詳しい説明があります。ここでは、インストール手順の概略を示します。

1. 『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザーで Sun Management Center のインストールウィザード (es-guiinst) を実行します。
2. 次のいずれかの操作をします。
 - a. 単体でリリースされたアドオンソフトウェアをインストールする場合は、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアが存在するディレクトリに移動し、es-guiinst を再実行して、手順 3 に進みます。
 - b. Sun Management Center CD からアドオンソフトウェアをインストールする場合は、手順 3 に進みます。
3. ベースソフトウェアをインストールすると、選択してインストールすることが可能なアドオン製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムに適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。
4. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center の設定ウィザードが自動的に起動します。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバーの両方にシステムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

Sun Management Center のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定

この節では、Sun Management Center のセットアップウィザードを使用して Sun Fire ハイエンドシステム用追加ソフトウェアを設定する方法を説明します。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることができません。

注 – Sun Management Center ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」を選択します。これで、自分の行なったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ システムコントローラで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. システムコントローラで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center ベースソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてプラットフォームエージェントの設定を開始します。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Checking configuration files...
```

```
Status:
```

```
Set the platform server:<SChostname>
```

```
Checking for default platform agent port...
```

```
Default platform agent port: 166
```

```
Checking of configuration files complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以前にデフォルトのプラットフォームポートが設定されていない場合は、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The default port for the Sun Management Center platform agent is 166

Would you like to use the default Sun Management Center platform agent port?
 Yes
 No
```

- 表示されたポートをデフォルトに設定するには「はい」を選択します。
- 表示されたポートをデフォルトに設定しない場合は、「いいえ」を選択します。

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

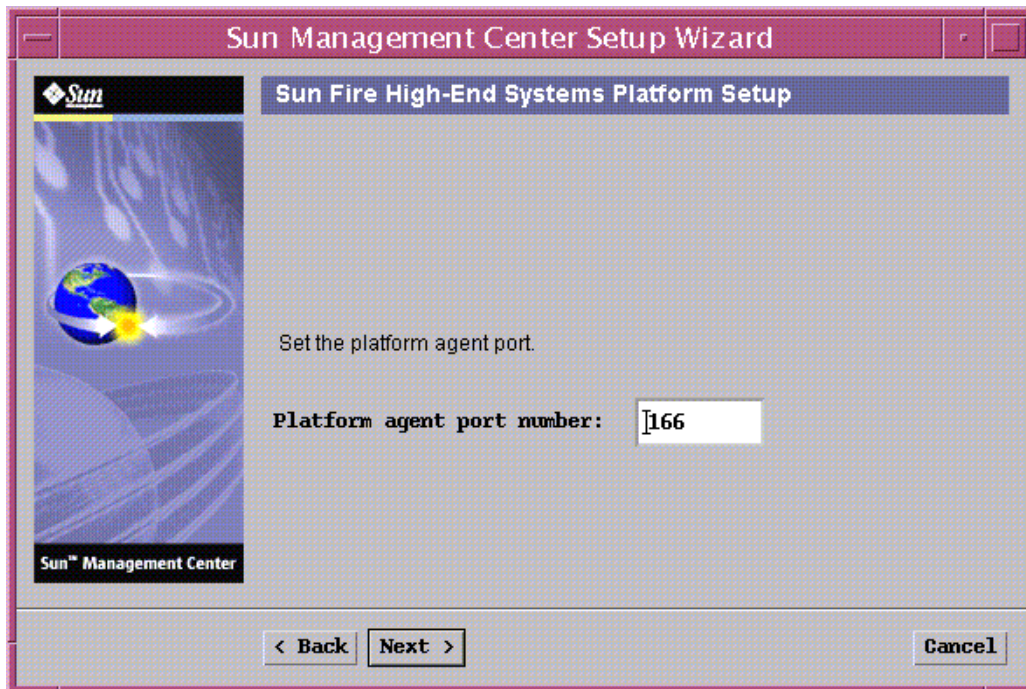


図 2-3 プラットフォームエージェントのポート番号の設定

- デフォルトのポート番号が表示された場合は、そのまま採用するか、変更します。
- デフォルトのポート番号が表示されない場合は、ポート番号を入力します。

5. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに、選択されたポート番号が確認表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.
```

```
Platform agent port: 166
```

6. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

ポート番号を追加または変更した場合は、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Sun Management Center security keys must be regenerated because  
the platform agent port number has been changed.
```

```
Would you like to regenerate the security keys now?
```

```
 Yes
```

```
 No
```

- ここでセキュリティーキーを再生成する場合は「はい」を選択します。

「はい」を選択すると、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
This part of setup generates security keys used for communications  
between processes. A seed must be provided to initialize the  
keys. Make sure you use the same seed for all the machines you  
install. You may like to keep record of this seed for future use.
```

```
Enter the seed to generate keys:
```

```
Re-enter the seed to confirm:
```

注 – シードのパスワードは必ず安全な場所に保管してください。Sun Management Center のインストール内容に変更を加えた場合に必要になります。

- i. 初めてインストールした場合は、一意のシードのパスワードを入力します。初めてのインストールでない場合は、以前のバージョンの Sun Management Center で使用したのと同じシードを入力します。
- ii. 確認のためにシードを再度入力します。
すぐにセキュリティーキーを再生成しない場合は「いいえ」を選択します。
「いいえ」を選択すると、「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

The Sun Management Center security keys have not been regenerated.
Remember to regenerate them prior to starting Sun Management Center.

7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-4 予備のシステムコントローラに関する問い合わせ

- Sun Fire ハイエンドシステムに予備の SC がある場合は、次のようにします。
 - i. 「はい」を選択します。
 - ii. 予備 SC のホスト名を入力します。

- Sun Fire ハイエンドシステムに予備の SC がない場合は、「いいえ」を選択します。

8. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The Platform Agent will create a composite object that includes
Sun Management Center agents loaded on Sun Fire High-End Systems
domains.
```

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに、Sun Fire ハイエンドシステムのデフォルトのドメインのポートが表示されます。

```
The default port to check for Sun Fire High-End Systems domains is
161.
```

Would you like to change the port to be checked?

Yes

No

Domain port number:

(なしの場合は何も入力しない)

- 検査する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインポートを変更する場合は、次のようにします。

i. 「はい」を選択します。

ii. ポート番号を入力するか、空白のままにしてポートの検査を省略します。

- 検査するポートを変更しない場合は、「いいえ」を選択します。

10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

Status:

```
Updated Discovery Table information via es-dt
```

```
Creating Agent Update configuration file.
```

```
Update of configuration files complete.
```


11. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のプラットフォームの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

Sun Fire High-End Systems platform setup is complete.

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

SC 用に使用されているマシンに従って、「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

- CP1500 が使用されていることが検出された場合

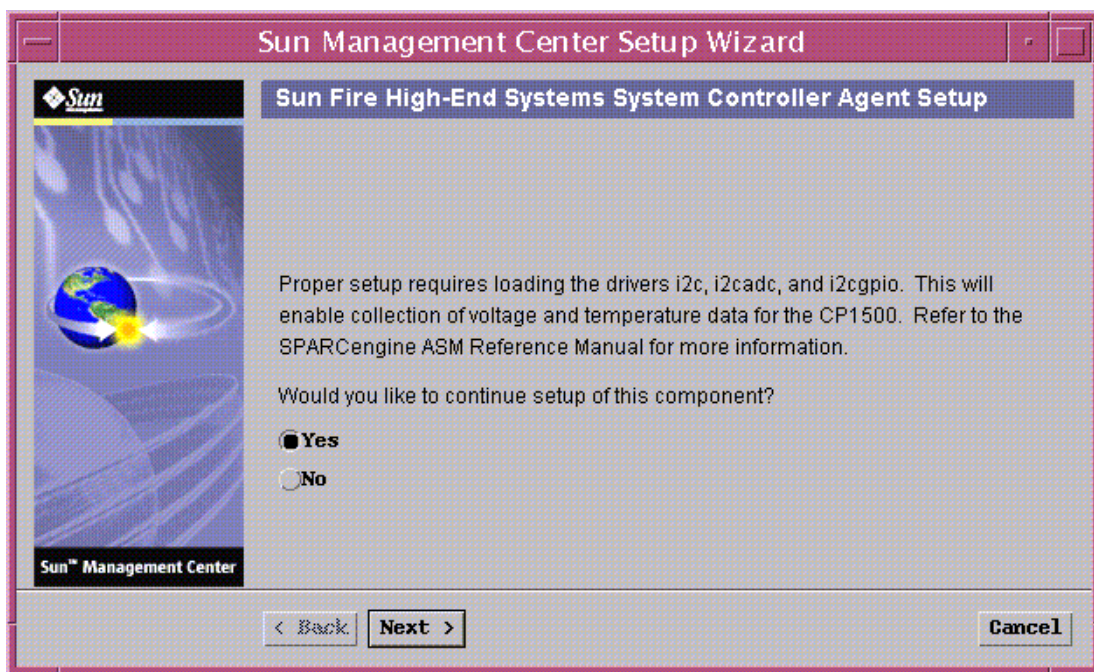


図 2-5 CP1500 システムコントローラのエージェントの設定

- 「はい」を選択してドライバ i2c、i2cadc、i2cgpio をロードし、システムコントローラエージェントの設定を続けます。
- CP2140 が使用されていることが検出された場合

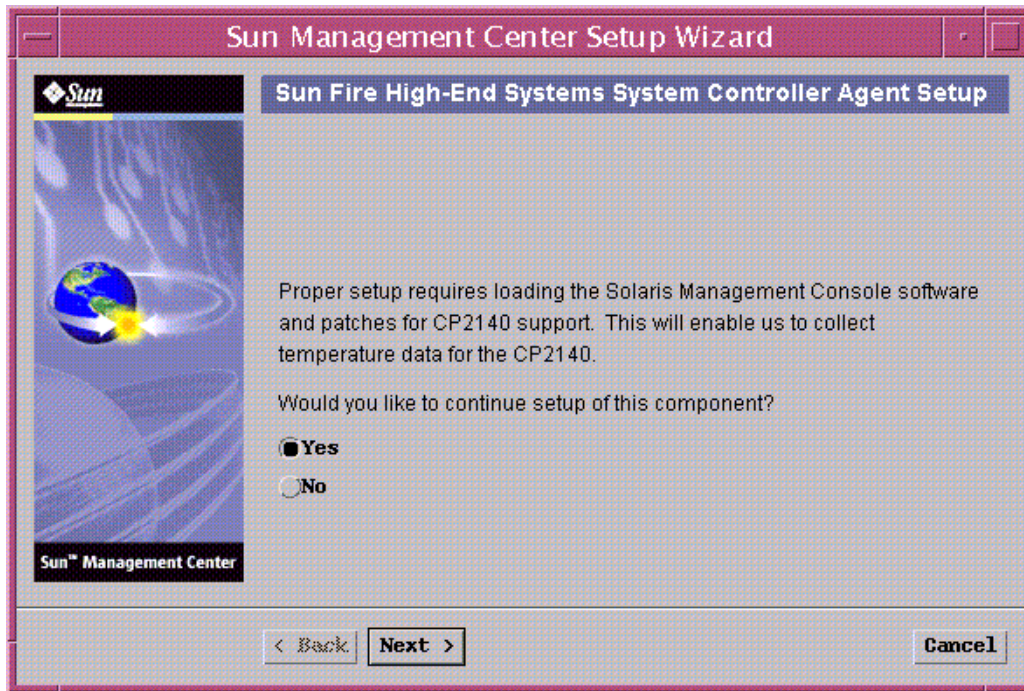


図 2-6 CP2140 システムコントローラのエージェントの設定

- 「はい」を選択して Solaris Management Console ソフトウェアとパッチをロードし、システムコントローラエージェントの設定を続けます。
- CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合

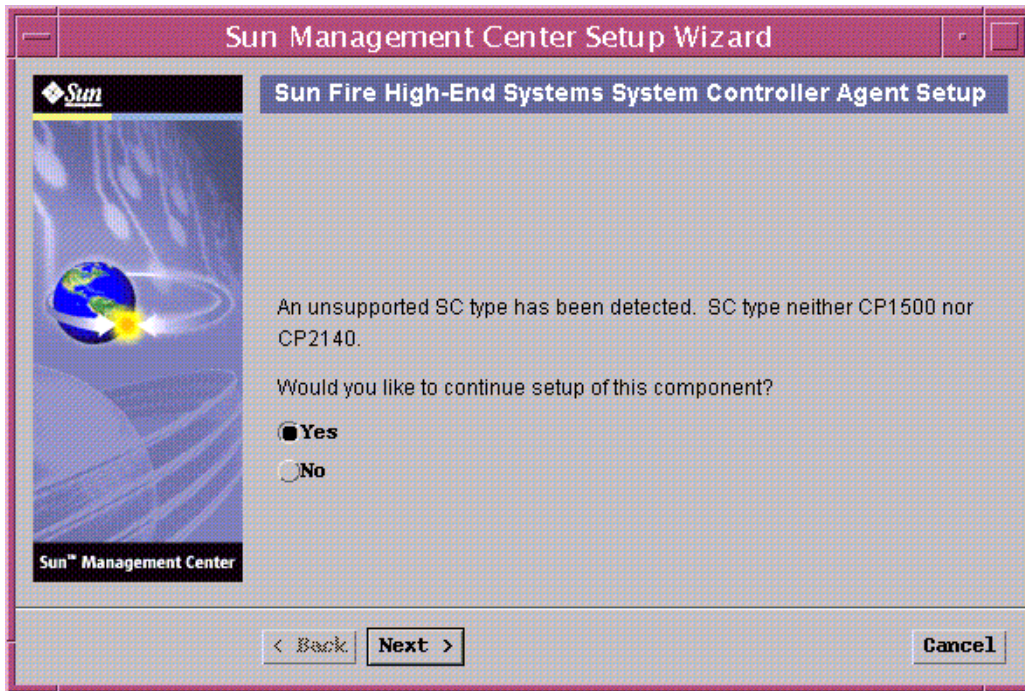


図 2-7 サポートされていないシステムコントローラのエージェントの設定

- 「はい」を選択して、システムコントローラのエージェントの設定を続けます。

13. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...

Status:

Created deviceinfo.conf file
.....

Update of configuration files complete.
```

14. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems SC agent setup is complete.
```

▼ ドメインで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで `es-guisetup` を入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center ベースソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックしてドメインの設定を開始します。

「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

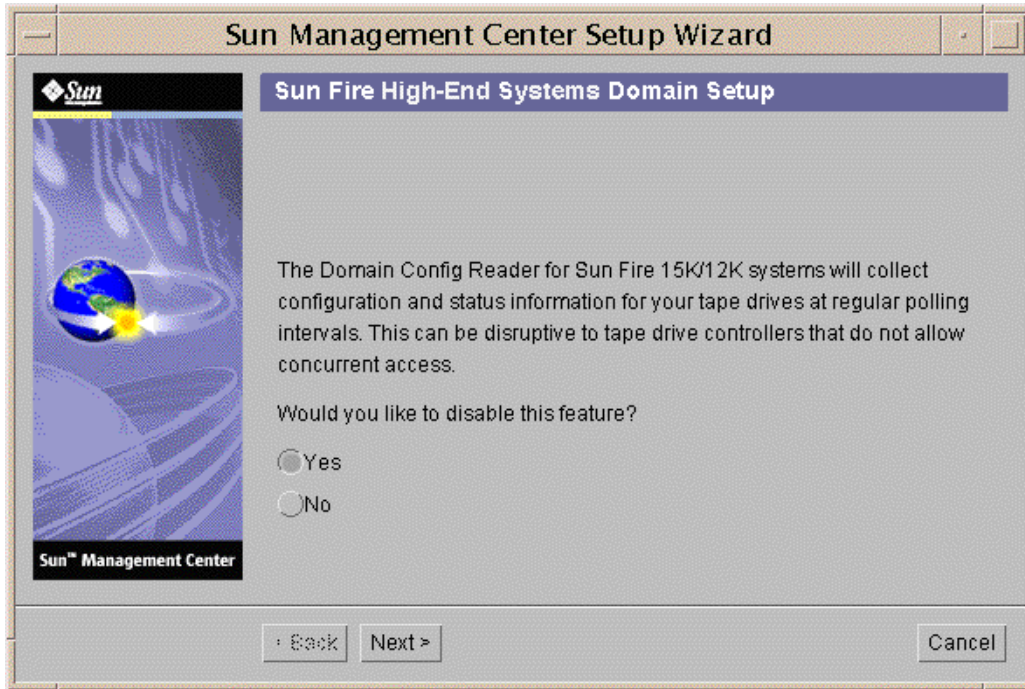


図 2-8 ドメインのテープポーリングの無効に関する問い合わせ

- 「はい」を選択して、テープドライブのポーリングを無効にします。
テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。
 - すぐにテープドライブのポーリングを無効にしない場合は、「いいえ」を選択します。
3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。
- 「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに、構成ファイルの更新状況が表示されます。

```
Updating configuration files...

状態
....
....

Update of configuration files complete.
```

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のドメインの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems domain setup is complete.
```

▼ サーバマシンで Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアを設定する

1. Sun Management Center サーバマシンで es-guisetup を入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center ベースソフトウェアのセットアップを完了すると、システムにインストールされているプラットフォーム別追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」パネルが表示されます。この例では、製品およびプラットフォームは「Sun Fire High-End Systems Monitoring」です。

```
The following add-on products are newly installed on this system
and will be set up.
```

```
- Sun Fire High-End Systems Monitoring
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

「Sun Fire High-End Systems のサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems server setup is complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

更新が完了すると、「Sun Fire High-End Systems のシステムコントローラのサーバーの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire High-End Systems SC server setup is complete.
```

「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスそのものは、Sun Management Center サーバーマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で Sun Management Center エージェントを必ず動作させておく必要もあります。

エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントモジュールを完全にインストールして設定するには、Sun Management Center サーバーマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

注 – Sun Management Center ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」を選択します。これで、自分の行なったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用設定ファイルを作成する

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントが更新対象のすべてのホストにインストールされていることを確認します。
2. es-setup スクリプトまたは es-guisetup ウィザードを使用して、更新対象のホスト上で Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントモジュールが設定されていることを確認します。

この確認を終えると、設定時に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォームエージェント設定処理が自動的に機能します。

エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配付するアドオンコンポーネントからなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して次の構成を更新できます。

- 28 ページの「Sun Management Center アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 32 ページの「アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」

▼ Sun Management Center アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center アドオンソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. es-gui-imagetool または es-imagetool (基本 Sun Management Center スクリプト) のいずれかを使用して目的のエージェントマシンに配付する、適切な Sun Fire ハイエンドシステム用追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。
ウィザードまたは CLI 形式のイメージツールの使用方法に関する詳細は、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center のインストール後の作業」の参照してください。

2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネルが表示され (図 2-9)、このパネルからイメージファイルを配付することができます。

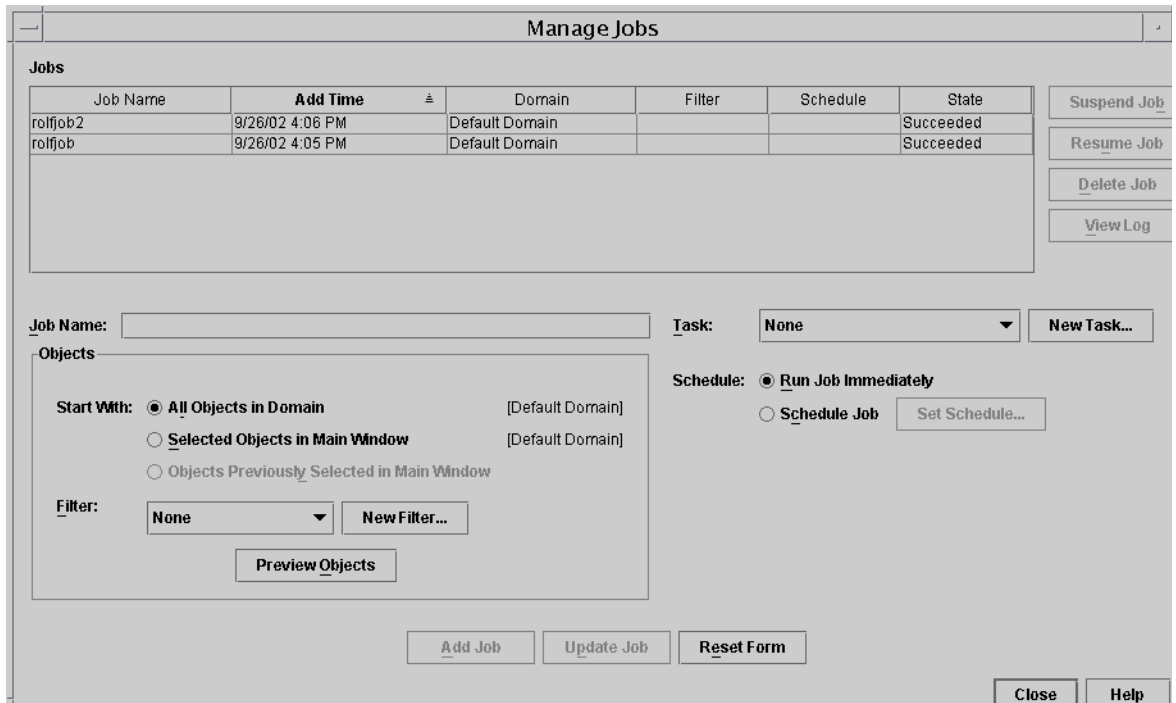


図 2-9 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネルが表示され (図 2-10)、このパネルから配付するエージェント更新イメージファイルを指定することができます。

Tasks Show Task Type: All

| Task Name | Task Type |
|----------------------|--------------|
| xc addon for sc - s8 | Agent Update |
| xc addon for sc - s9 | Agent Update |

Task Name:

Task Type: Agent Update Schedule agent updates from a previously-created Update Image file.

Image Files: v4-b7-sol9

Image Contents:

Description (Optional)

図 2-10 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル (図 2-10) で、次のことを行います。
 - a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
 - b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
 - c. タスク名を入力します。
 - d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
 - e. 「閉じる」ボタンをクリックします。
5. 「ジョブの管理」パネル (図 2-9) で、次のことを行います。
 - a. ジョブ名を入力します。

b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。

c. 次のいずれかを行なって、タスクの実行予定を作成します。

- タスクをただちに実行する場合は、「直ちにジョブを実行」を選択します。
- タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブのスケジュール」を選択して、実行日時を設定します。

注 – イメージファイルの配付先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

d. 次のいずれかを行なって、イメージファイルの配付先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。

- すべてのオブジェクトを選択するには、「ドメイン内のすべてのオブジェクト」を選択して、オブジェクトをさらに選択するためのフィルタを指定します。
- 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」を選択し、必要なエージェントマシンを選択します。

e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。

f. 「ジョブの追加」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配付されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストにそのことが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

注 – 複数ホストの更新中にあるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして「Failed (失敗)」が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功および失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。配付先のホストのそれぞれについて、Sun Management Center コンソールのホストの詳細ウィンドウで、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認することができます。

▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、次のいずれかの構成の場合に行います。

- アドオンソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新
- Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新

1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。
 - `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「`es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成する」の手順に従います。
 - `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の「`es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成する」の手順に従います。
3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに `/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。

`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installdir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installdir` はユーザー指定のインストールディレクトリです。
4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。
6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。
 - `server` は手順 1 でログインしたサーバーです。
 - `http-port` は Sun Management Center Web サーバーポートです。
 - `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。
7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を指定します。

エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を入力するよう求めます。

 - セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードにする必要があります。
 - SNMPv1 コミュニティ文字列は、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じ文字列である必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバーホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して更新状態を確認します。

CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して次のソフトウェアをアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (33 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)
- Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンソフトウェア (35 ページの「Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする」を参照)

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザーで次のように入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-uninst
```

この例では、ソフトウェアがデフォルトの `/opt/SUNWsymon/sbin` にあると仮定しています。デフォルト以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----
```

```
Production Environment                  All Addons  
Sun Fire High-End Systems Monitoring    None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment?[y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしてもよい場合は **y** を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

次のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!
```

```
Do you want to change selection?[y|n|q]
```

3. 次のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data.Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.
```

```
Do you want to preserve data?[y|n|q]
```

注 - y (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

- 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は `y`、破棄する場合は `n` を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall?[y|n|q]
```

- アンインストールしてもよい場合は `y`、そうでない場合は `n` を入力します。
`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをアンインストールする

- スーパーユーザーで次のように入力します。

```
# ./es-uninst
```

次のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
Following Sun Management Center Products are installed:
-----
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----
Production Environment                  All Addons
Sun Fire High-End Systems Monitoring    None
Do you want to uninstall Production Environment?[y|n|q]
```

- 本稼働環境をアンインストールしない場合は、`n` と入力します。



注意 – 本稼働環境をアンインストールすることを指示する `y` を入力すると、ベースソフトウェアを含む Sun Management Center ソフトウェア全体が削除されます。

次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Sun Fire High-End Systems Monitoring?[y|n|q]
```

3. Sun Fire ハイエンドシステム Monitoring をアンインストールする場合は、**y** を入力します。

削除される製品に続けて次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection?[y|n|q]
```

4. 次のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、**y** を入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。
- 選択内容を変更しない場合は、**n** を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Select Save Data to save all user and configuration data.Your data  
is saved and can be restored when you re-install Sun Management  
Center.  
Do you want to preserve data?[y|n|q]
```

注 - y (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

5. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、破棄する場合は **n** を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall?[y|n|q]
```

6. アンインストールしてもよい場合は **y**、アンインストールしない場合は **n** を入力します。

y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-start コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の es-start のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-start の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-start のオプションは、次の手順に示すとおりです。

▼ Sun Management Center ソフトウェアを起動する

1. 起動するコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。
2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にインストールされていると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

システムコントローラ上で Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -a1
```

このコマンドによって主要およびプラットフォームエージェントが起動されます。プラットフォームエージェントは、あらゆる Sun Fire ハイエンドシステム情報を Sun Management Center ソフトウェアに提供します。

3. Sun Management Center のエージェントレイヤーだけインストールされている Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの場合は、Sun Management Center エージェントを起動します。

```
# ./es-start -a
```

- すべてのレイヤーがインストールされている Sun Management Center サーバーホスト上のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-start -A
```

注 – 再起動すると、すべての Sun Management Center エージェントが自動的に起動します。

- コンソールを起動するには、次のように入力します。

```
# ./es-start -c
```

注 – コンソールの起動では、自分のユーザー ID を使ってログインすることもできます。スーパーユーザーでログインする必要はありません。ただし、プラットフォームまたはドメイン構成リーダーにアクセスする場合は、適切なセキュリティーアクセスグループに属している必要があります。45 ページの「グループを定義するときのセキュリティーに関する注意事項」を参照してください。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了

ここでは、Sun Management Center ソフトウェアの停止と終了について説明します。

- 適切なコマンド引数を指定して `es-stop` コマンドを入力することによるサーバーとエージェントコンポーネントの停止
- メインコンソールウィンドウからのコンソールの終了

▼ サーバーとエージェントを停止する

es-stop コマンドに指定するコマンド引数は、停止するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の es-stop のオプション一覧を参照してください。この一覧は、es-stop の -h オプションを使って表示することもできます。よく使われる es-stop のオプションは、次の手順に示すとおりです。

1. 停止しようとするコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、ソフトウェアがデフォルトの /opt にあると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. サーバマシン上のサーバーとエージェントコンポーネントを停止する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-stop -A
```

4. ドメインのホストマシン上のドメインエージェントコンポーネントを停止する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-stop -a
```

5. SC を監視するホストエージェントとプラットフォームエージェントを停止するには、システムコントローラ上で次のコマンドを入力します。

```
# ./es-stop -al
```

▼ コンソールを終了する

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから「ファイル」->「終了」を選択します。
2. 「Sun Management Center の終了」パネルで「終了」ボタンをクリックします。

Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータの変更

Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータは、セットアップスクリプト (es-setup) を再実行することによっていつでも変更できます。次にあげるような変更を行なった場合は、必ずその変更に合わせて Sun Fire ハイエンドシステムの設定パラメータを適切な値に変更してください。

- Sun Fire ハイエンドシステムのシステム名を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインとプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェント用の Sun Management Center エージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- プラットフォーム構成にスペアのシステムコントローラを追加したり、構成から削除したりした場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームコンポーネントの再設定をします。
- Sun Management Center サーバーホストまたはトラップエージェントのポート設定を変更した場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインコンポーネントの再設定をします。
- ホストの IP アドレスを変更した場合は、ホスト上のコンポーネントの再設定をします。

主要コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照してください。

注 – SMS (System Management Services) の再インストール後にセットアップを再実行する必要はありませんが、Sun Management Center ソフトウェアを起動し直す必要があります。SMS ソフトウェアが起動する前に Sun Management Center ソフトウェアを再起動すると、「status is spare」状態であることを示すグレーの停止標識が表示されることがあります。また、SC 監視モジュールが読み込まれると、「Module is on the spare SC or required SMW daemon(s) is stopped」というメッセージが表示されることがあります。ただし、こうしたメッセージは SMS ソフトウェアが起動すると画面から消えます。何の操作も必要ありません。

▼ セットアップスクリプトを再実行する

1. 再設定するコンポーネントがあるマシン上でスーパーユーザーとしてログインします (コンポーネントの格納場所については、表 2-4 を参照)。

2. /opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

この例では、デフォルトの /opt を使用していると仮定しています。/opt 以外のディレクトリにある場合は、そのディレクトリに置き換えてください。

```
# cd /opt/SUNWsymon/sbin
```

3. 再設定するコンポーネントを停止します。

コンポーネントの停止に使用するコマンドは、再設定するコンポーネントによって異なります。

- サーバマシンで動作している Sun Fire ハイエンドシステムのサーバーおよびエージェントコンポーネントを停止する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-stop -Sa
```

- ドメインで動作している Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントを停止する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-stop -a
```

- SC で動作しているホストエージェント (SC を監視) とプラットフォームエージェントを停止する場合は、次のように入力します。

```
# ./es-stop -al
```

4. セットアップスクリプトを実行して、Sun Management Center のベースおよびアドオンソフトウェアを再構成します。

```
# ./es-setup -F
```

es-setup コマンドのその他の引数の用法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』を参照してください。

5. 次の 2 つのプロンプトでは、対応するコンポーネントの設定手順に従います。

Sun Management Center サーバーの設定では、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve your existing data?[y|n|q]
```

注 - y (はい) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

a. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、破棄する場合は **n** を入力します。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントの設定では、次のメッセージが表示されます。

```
server-hostname appears to be configured as your Sun Management Center
server.Is this correct?[y|n|q]
```

b. これが Sun Management Center サーバーの場合は **y** (はい)、Sun Management Center サーバーでない場合は **n** (いいえ) を入力します。n を入力すると、サーバーの正しいホスト名を入力するように求められます。

6. 停止したコンポーネントを再起動します。

Sun Management Center の Web インタフェース

Sun Management Center の Web インタフェースは、Java ベースの Sun Management Center コンソールに用意されている機能の大部分を提供する、ライセンス契約の下に使用許可される別売りの Sun Management Center コンポーネントです。Sun Management Center Web インタフェースについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

注 - Web インタフェースには、Sun Fire ハイエンドシステムの物理表示と論理表示機能がないことに注意してください。物理表示と論理表示については、このマニュアルの第 5 章を参照してください。

インストールログファイルとセットアップログファイル

ここでは、インストールおよびセットアップスクリプトの終了時に表示されるメッセージ例を示します。ログファイルを調べることによって、インストールおよび設定中に発生したすべての問題を確認することができます。また、これらのファイルは、エラーの診断にも利用できます。

次の例は、インストールスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*xxxxxxxxxxxxxxxx.nnnnnn* は、インストールログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/install.xxxxxxxxxxxxxxxx.nnnnnn
```

次の例は、セットアップスクリプトが終了したときのメッセージを示しています。*xxxxxxxxxxxxxxxx.nnnnnn* は、セットアップログの識別番号です。

```
Log file: /var/opt/SUNWsymon/install/setup.xxxxxxxxxxxxxxxx.nnnnnn
```


セキュリティアクセス権の設定

この章では、Sun Fire ハイエンドシステム上で Sun Management Center の管理業務を行うためのユーザー権限を設定する方法を説明します。Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップの終了後は、ユーザーが行う業務に従って 2 通りのソフトウェア管理グループでユーザー権限を設定する必要があります。

- Sun Management Center のユーザーグループ - 一般的な Sun Management Center のセキュリティの詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 18 章「Sun Management Center のセキュリティ」を参照してください。
- System Management Services (SMS) ユーザーグループ - Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラは、SMS によって管理されます。このため、システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインを管理するには、Sun Management Center グループとともに、SMS グループでユーザー権限を設定する必要があります。一般的な SMS セキュリティについては、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』の第 2 章「SMS のセキュリティオプションと管理特権」を参照してください。

グループを定義するときのセキュリティに関する注意事項

System Management Services 管理グループのメンバーであること (メンバーシップ) を必要とする Sun Management Center ツールやモジュールを使用するには、Sun Management Center および System Management Services の 2 つのソフトウェアパッケージのそれぞれによって利用されるグループ定義において、そのグループのメンバーとしてユーザー ID が登録されている必要があります。つまり、両方のソフトウェアによって、適切な管理グループのメンバーとしてユーザー ID が認識される必要があります。

Sun Management Center と System Management Services の両方のソフトウェアによって、ユーザー ID が適切な System Management Services 管理グループのメンバーとして認識されるようにする方法は 2 通りあります。

- Sun Management Center および System Management Services ソフトウェアの両方が利用する NIS (Network Information Service) などの一元化されたネットワークネームサービスでグループを定義して維持する。
- Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラそれぞれの `/etc/groups` ファイルでローカルにグループを定義して維持する。この場合、Sun Management Center サーバーホスト上の System Management Services グループの定義は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の定義またはその一部と同じにします。つまり、Sun Management Center サーバーホストで Sun Management Center 管理グループのメンバーとして登録したユーザー ID を、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の同じグループのメンバーとしても登録する必要があります。

2 台の異なるマシン上で同じ情報からなる 2 つのファイルを維持するよりも、一元化されたネームサーバーホスト上で単一のファイルを維持する方が便利で、エラーが起りにくいことは明らかです。ただし、ここには、選択する方法とその実装方法に関係すると考えられるセキュリティ上の問題点があります。

スーパーユーザーのアクセス権

Sun Management Center と SMS 環境はともにいくつかの管理グループを提供します。このため、ユーザーによって異なる管理権限を割り当てることができます。この方式は、そうしたグループに対するユーザーの追加あるいは削除権限が厳重に管理されることを前提にしています。しかし、グループメンバーシップが定義されているマシン上でスーパーユーザー権限をもった場合は、その誰もがグループを作成・削除したり、グループのメンバーを追加・削除したりできます。不正なユーザーがスーパーユーザー権限を持った場合、そのユーザーは管理グループに自身 (または他の人) を追加することができ、そのことで、そうしたグループを持つことの目的が無意味になることは明らかです。

このため、セキュリティ上問題となるのは、何人のユーザー (そしてどのユーザー) が中央のネームサーバーまたは Sun Management Center サーバーと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上のいずれかでスーパーユーザー権限を持っているのか、ということです。ある環境では、システムコントローラ上のスーパーユーザー権限が厳重に管理されているのに対し、Sun Management Center サーバーホスト上のスーパーユーザー権限は多数のユーザーによって所有されています。その他のサイトでは、このようなスーパーユーザー権限が厳密に制限されています。また、ネームサーバー上で多数のユーザーにスーパーユーザー権限が付与されている環境もあれば、ネームサーバーに対するスーパーユーザーのアクセス権が厳密に制限されている環境もあります。

ネームサービススイッチ

グループメンバーシップのセキュリティーは、Sun Management Center サーバーホストおよび Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方のネームサービススイッチファイル (/etc/nsswitch.conf) の group の設定の影響を受けます。デフォルトでは、たいていのスイッチファイルは、/etc/group ファイルなどのソースで必要なグループ情報を見つけられなかった場合は、アプリケーションが NIS ネームサーバーなどの別のソースを調べるように、またその逆に NIS ネームサーバーなどのソースで必要なグループ情報を見つけられなかった場合は、/etc/group ファイルなどのソースを調べるように作成されています。このため、セキュリティーが問題になる場合は、ネームサービススイッチファイル内の group の設定を編集して、単一のソースだけ指定する必要があります。

- グループメンバーシップのソースとして NIS サーバーだけ指定するには、Sun Management Center サーバーと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を次のように編集します。

```
group nis
```

- グループメンバーシップのソースとしてローカルの /etc/group ファイルだけ指定するには、Sun Management Center サーバーと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ両方の /etc/nsswitch.conf ファイルの group 行を次のように編集します。

```
group files
```

ネットワークネームサービス

Sun Fire ハイエンドシステムが複数あり、中央の NIS ネームサーバーでグループ定義を管理する場合は、System Management Services の管理グループのデフォルト名を変更することを推奨します。グループメンバーシップが中央のネームサーバーで管理されていて、複数の Sun Fire ハイエンドシステムで 1 つの SMS 管理グループに同じ名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは両方のマシンで管理権限を持つこととなります。

たとえば、ドメイン B の管理グループのデフォルト名が dmnbadmn であると仮定します。複数のマシンでこの名前が使用されていた場合、そのグループのメンバーは、すべてのマシンのドメイン B 上で管理権限を持つこととなります。管理権限は、各マシンの管理グループ名を dmnbadmn1、dmnbadmn2 というように一意の値に変更することによって、単一のマシンに制限することができます。

Sun Management Center のグループ

表 3-1 は、デフォルトの Sun Management Center 管理グループをまとめています。

表 3-1 デフォルトの Sun Management Center 管理グループ

| グループ名 | グループ | 説明 |
|----------|------------|---|
| esadm | 管理者グループ | モジュールの読み込みと読み込み解除、ユーザーおよびグループのアクセス制御、管理ドメイン、ホスト、モジュールの操作などのあらゆる管理業務を行うことができます。 |
| esops | オペレータグループ | esadm の権限の一部を持ちます。モジュールの使用の許可・禁止を行うことはできますが、読み込み・読み込み解除は行えません。監視業務は行うことができます。イベントの確認、削除、解決を行うことができます。 |
| esdomadm | ドメイングループ | esadm 権限のうちの Sun Management Center ドメイン専用の権限を持ちます。管理ドメインの作成、管理ドメイン内でのグループの作成、グループまたは管理ドメインへのオブジェクトの追加を行うことができます。 |
| ANYGROUP | 一般ユーザーグループ | グループ デフォルトでは、esusers ファイル内のユーザーの誰もが ANYGROUP グループのメンバーとみなされます。管理ドメインやホスト、モジュール、イベントを表示したり、データのグラフを作成したり、手動更新を開始したりできます。また、アドホックコマンドを実行できます。 |

▼ Sun Management Center ユーザーグループにユーザーを追加する

- Sun Management Center サーバーホスト上の `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに Sun Management Center ユーザー全員のユーザー ID を追加します。

ユーザー ID は正規の UNIX ユーザー ID である必要があります。

次の内容は、すべての Sun Management Center ユーザーに対する

`/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイル内の一般的なユーザー ID リストの例です。

```
esmaster
espublic
root
user1
user2
user3
user4
user5
....
....
```

注 – Sun Management Center ユーザー ID の `esmaster` は、UNIX のスーパーユーザーまたは `root` に相当し、管理権限を提供します。Sun Management Center ユーザー ID の `espublic` は、UNIX システムに `guest` としてログインすることに相当し、一般的なアクセス権限を提供します。これら 2 つのユーザー ID は、Sun Management Center ソフトウェアをサーバーにインストールしたときにその `esusers` ファイルに追加され、変更することはできません。これら 2 つのユーザー ID を使って Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームまたはドメイン上で管理操作を行う場合は、適切な SMS グループにそれらの ID を追加する必要があります。

System Management Services のグループ

表 3-2 は、デフォルトの SMS 管理グループを説明しています。

表 3-2 デフォルトの SMS 管理グループ

| グループ名 | グループ | 説明 |
|-----------------------|-------------------|---|
| platadmn | プラットフォーム管理者グループ | ボードやコンポーネントの電源の制御や、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインへのシステムボードの割り当てなどのあらゆるプラットフォーム管理権限を持ちます。プラットフォームサービス権限はありません。ボードが未使用 (割り当て解除状態) の場合にドメインにボードを割り当てたり、ボードが接続されていない場合にドメインからボードを削除 (割り当て解除) したりすることができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断は行えません。 |
| platooper | プラットフォームオペレータグループ | platadmn の権限の一部を持ちます。プラットフォームの状態を表示できます。 |
| dmnxadmn ¹ | ドメイン管理者グループ | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのコンソールにアクセスして、そのドメインのドメイン制御、状態、アクセス制御業務を行うことができます。ドメインに対するボードの接続、構成、構成解除、切断を行うことができます。ボードがドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されていて、他のドメインに割り当てられていない場合は、そのドメインにボードを割り当てることができます。 |
| dmnxrcfg ² | ドメイン再構成グループ | dmnxadmn の権限の一部を持ちます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン内のシステムボードを再構成したり、その電源を制御したりできます。 |

¹ x は、特定の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。例 1 の dmnbadmn は、ドメイン B の管理グループを表します。

² x は、特定の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを示す a から r の範囲の英字 1 字です。例 2 の dmnbcfg は、ドメイン B の再構成グループを表します。

次のいずれかを使用して、ユーザーに割り当てようとする権限をもつ SMS グループにユーザー ID を追加する必要があります。

- Sun Management Center サーバーと Sun Fire ハイエンドシステムの両方がアクセス可能な NIS (Network Information Service) などの中央のネームサービス。詳細は、NIS のマニュアルを参照してください。

- Sun Management Center サーバーホストと Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ上の `/etc/group` ファイル。この方法については、このあとの手順で説明します。

注 - ユーザー ID は正規の UNIX ユーザー ID である必要があります。

▼ smsconfig コマンドを使用して SMS グループにユーザーを追加する

1. システムコントローラ上の `/etc/group` ファイルに一度に複数のユーザー ID を追加するには、`smsconfig(1M)` コマンドに `-a` オプションを付けて使用してください。

注 - グループ ID は、システムコントローラへの SMS のインストール中に `/etc/group` ファイルに自動的に作成されます。

`smsconfig(1M)` コマンドの使用の詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』を参照してください。

2. Sun Management Center サーバー上では、システムコントローラの /etc/group ファイルに現れるのと完全に同じに /etc/group ファイルに SMS 管理グループ ID とユーザー ID の行を追加してください。

次の内容は、/etc/group ファイル内の一般的なグループおよびユーザー ID リストの例です。Sun Management Center のさまざまな機能に対して ID が定義されています。

```
root::0:root
other::1:
bin::2:root,bin,daemon
sys::3:root,bin,sys,adm
adm::4:root,adm,daemon
uucp::5:root,uucp
mail::6:root
tty::7:root,tty,adm
lp::8:root,lp,adm
nuucp::9:root,nuucp
staff::10:
daemon::12:root,daemon
sysadmin::14:
nobody::60001:
noaccess::60002:
nogroup::65534:
esadm::1000:root,guest,user1,user2
esdomadm::1001:root,guest,user3
esops::1002:guest,user4
platadm::118:root,guest,user1,user2
platoper::119:root,guest,user4
dmnaadm::121:user1, user3
dmnarcfg::122:user3
dmnbadm::123:user1, user5
dmnbrcfg::124:user5
....
....
....
dmnradm::155:
dmnrrcfg::156:
```


Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールの使用に必要な権限

表 3-3 は、Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールを使用するために必要な管理グループ権限をまとめています。

表 3-3 Sun Fire ハイエンドシステムのモジュールと管理グループ

| モジュール名 | Sun Management Center のグループ | System Management Services のグループ |
|---------------------------|-----------------------------|--|
| プラットフォーム構成リーダー | esadm | platadmn、platoper |
| プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) | esadm | 操作の内容による (「PDSM 操作に必要な SMS グループ権限」を参照) |
| ドメイン構成リーダー | esadm | dmnradm |
| 動的再構成 (DR) | esadm | dmnradm または dmnrcfg |
| SC 構成 リーダー | esadm | 不要 |
| SC の監視 | esadm | 不要 |
| SC の状態 | esadm | 不要 |

サービス管理グループの設定と変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。Sun Management Center のグループのアクセス権の設定と変更、アクセス権の内容についての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

PDSM 操作に必要な SMS グループ権限

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームおよびドメインの状態管理 (PDSM) 操作を行うには、その操作内容に従って、適切な SMS グループのメンバーになっている必要があります。

- プラットフォーム表示 (表 3-4)
- ドメイン表示 (表 3-5)

プラットフォーム表示に対するアクセス権

プラットフォーム表示は、プラットフォーム管理者 (platadm) およびプラットフォームオペレータ (platoper) のみが読み取ることができます。表 3-4 は、プラットフォーム表示で行うことができる管理操作と各操作に必要なアクセス権を示しています。

表 3-4 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム表示で可能な管理操作とアクセス権

| プラットフォーム表示で可能な操作 | アクセス権 |
|--|-------------------|
| システムコントローラの電源 | platadm, platoper |
| 電源装置の電源 | platadm, platoper |
| ファントレーの速度 | platadm, platoper |
| スロット 0 およびスロット 1 のボード電源 | platadm, platoper |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard | platadm |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard | platadm |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard | platadm |
| 状態の表示 | platadm, platoper |

ドメイン表示に対するアクセス権

18 ある Sun Fire E25K/15K ドメイン (a から r)、および 9 つある Sun Fire E20K/12K ドメインはすべて、それぞれの Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン管理者 (dmnxadm) および Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン再構成者 (dmnxrcfg) だけが見ることができます。また一部の業務については、プラットフォーム管理者 (platadm) とプラットフォームオペレータ (platoper) も見ることができます。表 3-5 は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で行うことができる管理操作と各操作に必要なアクセス権を示しています。

表 3-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権

| ドメイン表示で可能な操作 | アクセス権 |
|--------------|---------|
| ドメインのタグ | platadm |
| キースイッチ | dmnxadm |
| ドメイン ACL | platadm |

表 3-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン表示で可能な管理操作とアクセス権 (続き)

| ドメイン表示で可能な操作 | アクセス権 |
|--|---------------------------------------|
| リセット | dmnxadm |
| スロット 0 およびスロット 1 のボード電源 | dmnxadm、dmnxrcfg、 platadm、platoper |
| スロット 0 および 1 のボードテスト | dmnxadm |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する addboard | dmnxadm、dmnxrcfg、 platadm |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する deleteboard | dmnxadm、dmnxrcfg、 platadm |
| スロット 0 および 1 のボードおよび空きスロットに対する moveboard | dmnxadm、dmnxrcfg、 platadm |
| 状態の表示 | dmnxadm、dmnxrcfg、 platadm、platoper |

1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限



注意 - 1 つのユーザー ID には、16 個までグループ ID を割り当てることができます。17 番目以降のグループ ID はすべて無視され、そのユーザー ID によるアクセスで問題が発生します。言い替えば、ユーザーはあるグループに属しているように見えますが、16 個のグループ制限を超えた場合、その超えたグループのアクセス権限を持つことはできません。ユーザーの持つグループ ID 数が 16 個を超えている場合のシステム処理についての詳細は、206 ページの「DR 操作に失敗した場合の対処方法」を参照してください。

第4章

Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクト

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムのトポロジオブジェクトの作成、変更、検出方法を説明します。Sun Management Center オブジェクトの作成および監視に関する一般的な情報については、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの複合オブジェクト

Sun Fire ハイエンド (E25K ~ F12K) システムの複合オブジェクトは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関係するあらゆるホストからなる、Sun Management Center のグループオブジェクトです。この複合オブジェクトには、次のアイコンが含まれます。

- Sun Fire ハイエンドシステムのグループ
- メインの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム
- 予備の Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム (右下に丸で囲った × が付いたアイコン)
- Sun Fire ハイエンドシステムの各ドメイン
- Sun Fire ハイエンドシステムのメインのシステムコントローラ
- Sun Fire ハイエンドシステムの予備のシステムコントローラ

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのあらゆる構成要素を簡単に管理できるように、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトには、これらのすべてのオブジェクトが1つのグループとしてまとめられます。表 4-1 は、一般的な Sun Fire ハイエンド (E25K ~ F12K) システムのアイコンです。

表 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン








| アイコン | 説明 |
|--|---|
|  | Sun Fire ハイエンドシステムのグループのアイコン |
|  | メインの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのアイコン |
|  | 予備の Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのアイコン (または必須の SMS デーモンが停止している場合) |
|  | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合) |

表 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムのアイコン (続き)

| アイコン | 説明 |
|---|--|
|  | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのアイコン |
|  | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのアイコン (Sun Management Center が動作していない場合) |
|  | Sun Fire ハイエンドシステムのメインと予備のシステムコントローラ |

注 – Sun Management Center エージェントの監視対象のホストのアイコンには、Sun Fire ハイエンドファミリのサーバーであることを表す E25K ~ F12K のタグが付いています。Sun Management Center エージェントによって監視されていないホストのアイコンには、そうしたタグはありません。

Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラおよびドメインホストは、それぞれ専用の Solaris オペレーティングシステムを実行する独立したホストです。このため、これらのホストは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトとは別に作成したり、検出したりできます。つまり、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラとドメインは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成しなくても個別に作成できます。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクト内のシステムコントローラおよびドメインホストは、Sun Management Center トポロジ内の複数のグループに含めることができます。このため、それらホストは、ネットワークグループ別ばかりでなく、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとの関係別に見ることができます。検出要求で Sun Fire ハイエンドシステムのホストが検出された場合、そのホストはそのネットワークグループに従ってトポロジ内に配置されます。

Sun Fire E52K または 15K プラットフォームは最高 18 個のドメインホスト、Sun Fire E20K または 12K プラットフォームは最高 9 つのドメインホストで構成することができます。複合オブジェクトに含まれるのは、そのうちの、アクティブで Solaris オペレーティングシステムを実行しているドメインだけです。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインおよびプラットフォームを監視するには、「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウで Sun Management Center の Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成するか、Sun Management Center の検出要求を使用します。

▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、新しい複合オブジェクトを作成する階層を選択します。
2. メインコンソールウィンドウの「編集」メニューから「オブジェクトの作成」を選択します。
3. 「オブジェクトの作成」ウィンドウから「複合」タブを選択します。
4. 「オブジェクト」リストボックスから Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを選択します。
5. テキストボックスに適切な情報を入力します。

エージェントホスト名またはエージェントの IP アドレスを入力します。入力する必要があるのは 1 つだけです。

 - エージェントホスト名 - メインの SC ホスト名
 - エージェントの IP アドレス - メインの SC の IP アドレス
 - ポート - メインの SC の Sun Management Center のエージェントポート : **161**
6. 「了解」をクリックします。

次のメッセージが表示されます。

Creating composite object...Please Wait.

この処理に要する時間の長さは、動作している Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン数に依存します。

Sun Management Center ドメイントポロジ内の現在の場所に「Sun Fire High-End Systems」フォルダが表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

7. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関連するすべてのオブジェクトを表示するには、このフォルダを開きます。

図 4-1 は、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例です。

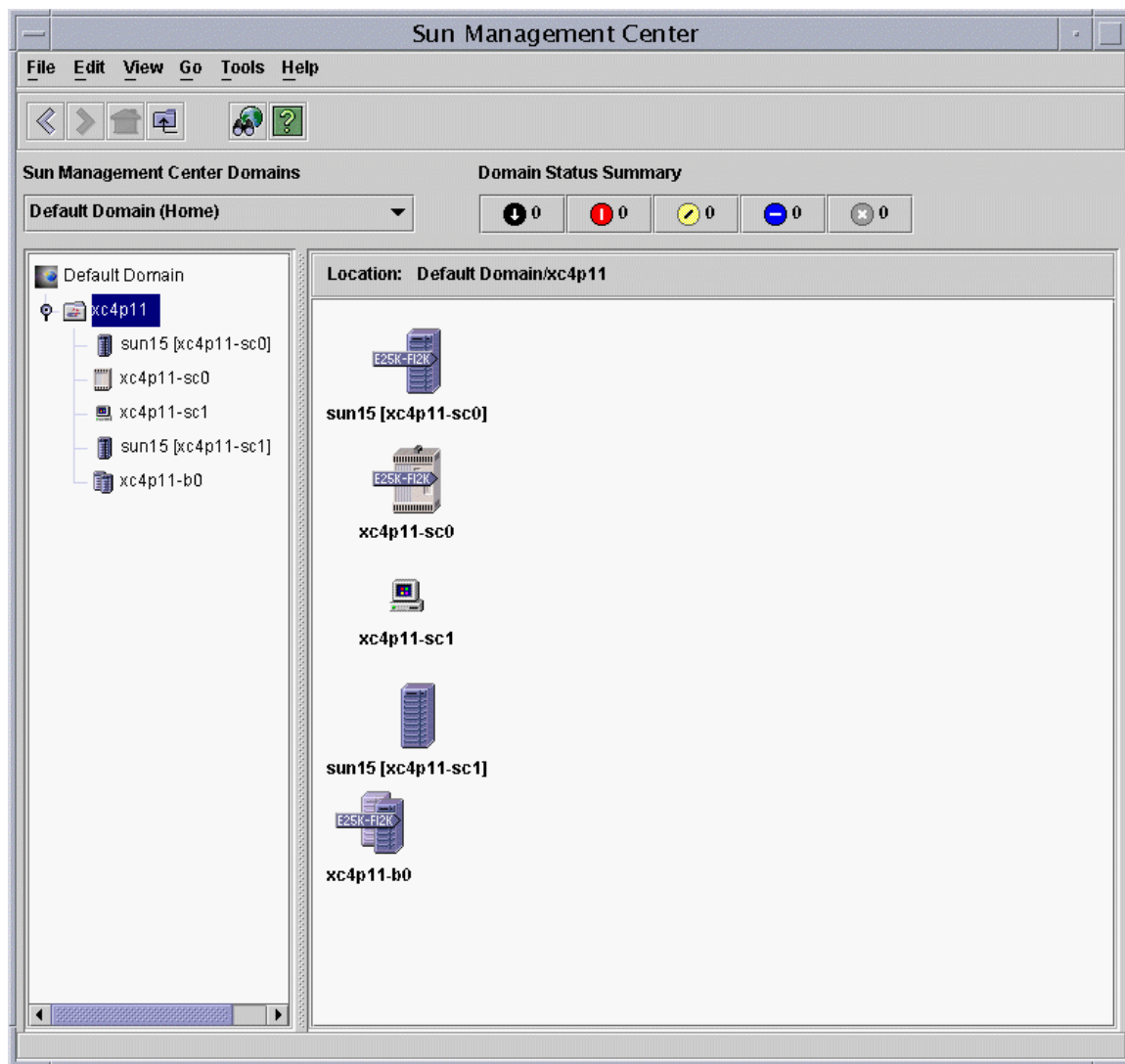


図 4-1 Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの例

▼ Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する

この手順についての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

1. メインコンソールウィンドウの階層表示で、Sun Management Center ドメイントポロジ内の、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを検出する階層を選択します。
2. 「ツール」メニューから「オブジェクト検出」を選択します。
3. 「オブジェクトの検出」パネルで「追加」をクリックします。
4. 「新しい検出要求」パネルに適切な情報を入力して、「了解」をクリックします。
5. Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが作成されない場合は、64 ページの「複合オブジェクトの障害追跡をする」を参照してください。

注 – 検出要求を行なったときにシステムコントローラがビジーであった場合は、検出要求を再実行するか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてください。

検出要求の次のフィルタオプションを使用して、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの検出要求をカスタマイズできます。

- 「プラットフォームタイプ」フィルタ条件 - Sun Fire ハイエンドシステムのドメインやプラットフォームタイプを検出条件に含めたり、検出条件から除外したりできます。
- 「ホスト名」および「オペレーティング環境」フィルタ条件 - 複合オブジェクト内の Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストとシステムコントローラをホスト名またはオペレーティング環境別に選別できます。これらのフィルタ条件によって、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトが選別されることはありません。
- フィルタ条件によってシステムコントローラが検出対象から除外されても、検出マネージャは Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが Sun Management Center ドメインに含まれているかどうかを検査します。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトの更新

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した後、Sun Management Center 複合トポロジオブジェクトの内容とタイプが変わることはありません。次の場合は、複合オブジェクトを更新する必要があります。

- Sun Fire ハイエンドシステムのドメインがアクティブになった (Solaris オペレーティングシステムが実行された)。
- プラットフォーム構成に予備のシステムコントローラが追加されるか、構成から予備のシステムコントローラが削除された。
- Sun Management Center のオブジェクト監視機能によって、正しいモニタタイプが表示されなくなった。たとえば複合オブジェクトを作成したときに Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン上で Sun Management Center エージェントが動作していなかった場合、その Sun Fire ハイエンドシステムのドメインには ICMP (Internet Control Message Protocol) Ping 監視タイプのホストオブジェクトが作成されます。Sun Management Center エージェントが再び動作を開始した後で、そのドメインが「Sun Management Center エージェント - ホスト」タイプとして監視できるようにするには、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストオブジェクトを更新する必要があります。

注 - Sun Management Center エージェントの動作する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインホストが、「Sun Management Center エージェント - ホスト」以外のタイプとして監視されている場合は、システムコントローラプラットフォームの設定で正しい Sun Fire ハイエンドシステムのドメインポートを指定したかどうかを確認してください。

▼ 「トポロジオブジェクトの作成」で作成した複合オブジェクトを更新する

- 次のいずれかの操作をします。
 - 「オブジェクトの作成」ウィンドウを使用して Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合、複合オブジェクトの更新はすべて手動で行う必要があります。
 - Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを追加または削除した場合は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 3 章の説明に従って、そのオブジェクトを作成または削除してください。
 - 監視タイプを変更した場合は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 3 章の「オブジェクトの変更」の節の説明に従ってトポロジオブジェクトを変更してください。

注 - かなりの数の変更がある場合は、トポロジから現在の Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトをいったん削除して、再作成するほうが簡単なことがあります。方法については、60 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成する」を参照してください。

▼ 検出で作成された複合オブジェクトを更新する

- 検出マネージャーによって Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成した場合は、メインのシステムコントローラに対する検出要求を実行することによって更新の多くを行うことができます。

この検出要求は、手動で開始することも、予定を作成して定期的に開始することもできます。検出要求を実行すると、次の変更が行われます。

- 予備のシステムコントローラなどの、Sun Fire ハイエンドシステムの新規のオブジェクトは、プラットフォーム複合オブジェクトに追加されます。
- オブジェクト監視タイプがより高度な監視機能レベルに変更されている場合は、監視タイプが更新されます。

監視機能のレベルは、「ICMP Ping」監視タイプ、「SNMP Ping」監視タイプ、「Sun Management Center エージェント - ホスト」監視タイプの順に高くなります。

検出要求の実行に際しては、次のことに注意してください。

- トポロジオブジェクトはプラットフォーム複合オブジェクトから削除されません。
 - Sun Management Center のコンソールウィンドウからトポロジオブジェクトが変更されている場合、そのオブジェクトの監視タイプは更新されません。
- トポロジから Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを削除して、検出要求を実行することによって、プラットフォーム複合オブジェクトを更新することもできます。

▼ 複合オブジェクトの障害追跡をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトを作成できない場合は、次の点を調べてください。

1. 「トポロジオブジェクトの作成」を使用した手順、または検出要求の際に、正しいシステムコントローラのホスト名および Sun Management Center エージェントポート番号を指定したかどうかを確認します。

注 - システムコントローラは、プラットフォームの予備のシステムコントローラではなく、メインのシステムコントローラである必要があります。

2. システムコントローラにログインし、2 つの Sun Management Center エージェントが動作しているかどうかを確認します。

```
SC# ps -ef | grep esd
root 21020 1 2 Mar 10 ?84:03 esd - init agent -dir
/var/opt/SUNWsymon
root 21858 1 3 Mar 10 ?103:07 esd - init platform -dir
/var/opt/SUNWsymon
```

3. 検出要求を再実行してみるか、検出要求の SNMP タイムアウト値を大きくしてみます。
4. 66 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する」の説明に従ってノードを作成することによって、直接 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成します。
5. プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブの内容を調べて、「ハードウェア」に「構成リーダー (Sun Fire High-End Systems)」モジュールが読み込まれていて、使用不可になっていないことを確認します。
Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトに含まれているオブジェクトは、このモジュールの提供する検出オブジェクトテーブルに定義されています。
6. システムコントローラ上で次のコマンドを実行して、検出テーブルが正しく作成されていることを確認します。

```
SC# /opt/SUNWsymon/sbin/es-dt -v
```

出力が得られないか、次の例に含まれている情報がない場合、検出テーブルは正しく作成されていません。

| | |
|------------------|----------------------------------|
| Label | Sun-Fire-High-End |
| Host | <ホスト名> |
| Port | <ポート番号> |
| OID | 1.3.6.1.4.1.42.2.85.1.1.22 |
| Node Object Type | Sun-Fire-High-End-platform-group |

このような出力が表示されない場合は、手順 5 から作業を繰り返してください。それでも表示されない場合は、Sun にお問い合わせください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクト

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラ上で動作する Sun Management Center プラットフォームエージェントによって提供されます。予備のシステムコントローラが構成されている場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム複合オブジェクトに 2 つの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトが存在することになります。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム情報は、メインのシステムコントローラのプラットフォームオブジェクトからのみ得ることができます。プラットフォームオブジェクトを複合オブジェクトの一部として作成した場合、そのプラットフォームオブジェクト名には、対応する SSP 名が角括弧付きで含まれます。予備のシステムコントローラオブジェクトと関係する予備の Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームトポロジオブジェクトには、メインのトポロジオブジェクトと区別するために、右下に丸で囲まれた X が表示されます (表 4-1)。

メインおよび予備のシステムコントローラに Sun Management Center をインストール・設定して、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成した後、予備のシステムコントローラが代理のメインシステムコントローラになったとしても、Sun Management Center の構成を変更する必要はありません。予備から代理のメインシステムコントローラへの切り替えが発生すると、代理のメインシステムコントローラ上のプラットフォームエージェントがアクティブになって、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関する最新の情報を収集します。

必ずしも、新たにアクティブになったプラットフォームエージェントから、この切り替えの前に入手可能であったすべての情報を入手できるわけではありません。ドメインの停止回数 (dstops) と記録の停止回数 (rstops) はゼロにリセットされます。高温などのエラーは、その状態が持続している場合にのみ報告されます。

予備およびメインのシステムコントローラ上の Sun Management Center エージェントの同期が自動的に取られることはありません。メインまたは予備のいずれかのシステムコントローラ上の Sun Management Center エージェントのデフォルトのしきい値、属性、読み込み済みモジュールを変更した場合は、もう一方のシステムコントローラ上で動作するエージェントも変更してください。

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成する

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトは、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの一部として作成されます。直接、プラットフォームオブジェクトを作成することもできます。

1. 『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 3 章の「ノードを作成する」の手順に従って、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームオブジェクトを作成します。
2. 上記手順の手順 3 で「監視ツール」プルダウンメニューから監視タイプとして「エージェント - プラットフォーム」を選択します。
3. 上記手順の手順 4 で必要な情報を入力します。

注 - プラットフォームエージェント用のデフォルトのポート番号は 166 です。Sun Management Center の設定で別のポートを割り当てたのではない限り、このポート番号を変更しないでください。

4. 「了解」をクリックします。

第5章

Sun Fire ハイエンドシステムの詳細 ウィンドウ

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム、ドメイン、およびシステムコントローラの詳細ウィンドウからハードウェアの概要や物理表示、論理表示を表示する方法を説明します。

注 – このマニュアルの画面例には、詳細ウィンドウのタブが「ブラウザ」や「モジュール」になっているものがあります。正しくは「モジュールブラウザ」と「モジュールマネージャ」です。

表 5-1 は、Sun Fire ハイエンドシステムの詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステム用 Sun Management Center エージェントモジュールの一覧です。

表 5-1 詳細ウィンドウから見る事が可能な Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントモジュール

| モジュール名 | 詳細ウィンドウ |
|---------------------------|-------------------------------|
| プラットフォーム構成リーダー (PCR) | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム |
| プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム |
| SC 監視モジュール (SCM) | Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム |
| ドメイン構成リーダー (DCR) | Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン |
| 動的再構成 (DR) | Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン |
| SC 構成 リーダー | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ |
| SC の状態 | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ |

これらのモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのハードウェアの監視および管理機能を提供するとともに、Sun Fire ハイエンドシステムの複合の構成に関する情報を提供します。これらのモジュールが提供するオブジェクトおよび属性の詳細は、このマニュアルの第 6 章を参照してください。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとドメインの再構成およびその他の管理操作についての詳細は、第 7 章と第 8 章を参照してください。

この章では、詳細ウィンドウに表示される Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとシステムコントローラ、ドメイン情報について詳しく説明します。Sun Management Center の詳細ウィンドウの使用方法に関する全般的な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーモジュールは、プラットフォームに接続されている入出力装置の構成情報を提供しません。入出力装置の情報を見るには、調べようとする装置の存在する Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開いてください。

「ハードウェア」タブの表示

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム、ドメイン、SC の詳細ウィンドウの「ハードウェア」タブからは、次の 3 種類の表示にアクセスできます。

- ハードウェアの概要
- 物理表示
- 論理表示

注 – 物理表示と論理表示には、すべてのアラームが表示されるわけではありません。

ハードウェアの概要

ハードウェアの概要は、そのエンティティからアクセス可能な資源を表にまとめたものです。

物理表示

物理表示は、Sun Fire ハイエンドシステムの写真画質の画像を提供します。物理表示には、プラットフォームのシャーシ内に見えるコンポーネントだけが表示されます。たとえばセンタープレーンボードや入出力装置は物理表示されません。このような装置の情報を表示するには、論理表示またはブラウザ表示を使用します。

論理表示

論理表示は、そのエンティティ内のボードおよびコンポーネントを階層表示します。シャーシ内で物理的に見ることができるボードとコンポーネントだけを表示する物理表示と異なり、論理表示ではあらゆるボードとコンポーネントが表示されます。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、プラットフォーム全体のハードウェア情報が表示されます。このウィンドウには、次のタブが含まれます。これらのタブについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウにこれらの 4 つのタブが表示されない場合、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバーマシンに正しくインストールされていません。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了して、インストール後に Sun Management Center サーバードキュメントが再起動していることを確認してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームは、システムコントローラ上の Sun Management Center プラットフォームエージェントによって監視されます。プラットフォームエージェントは、このタスク専用です。

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、プラットフォームのハードウェアに関する次のような最新情報を提供します。

- 電圧と温度
- すべてのボード
- 電源装置
- ファントレー
- 検出されたハードウェアエラー (ドメインの停止回数 (dstop) など)

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源の概要を表示するには、次の操作をします (図 5-1)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

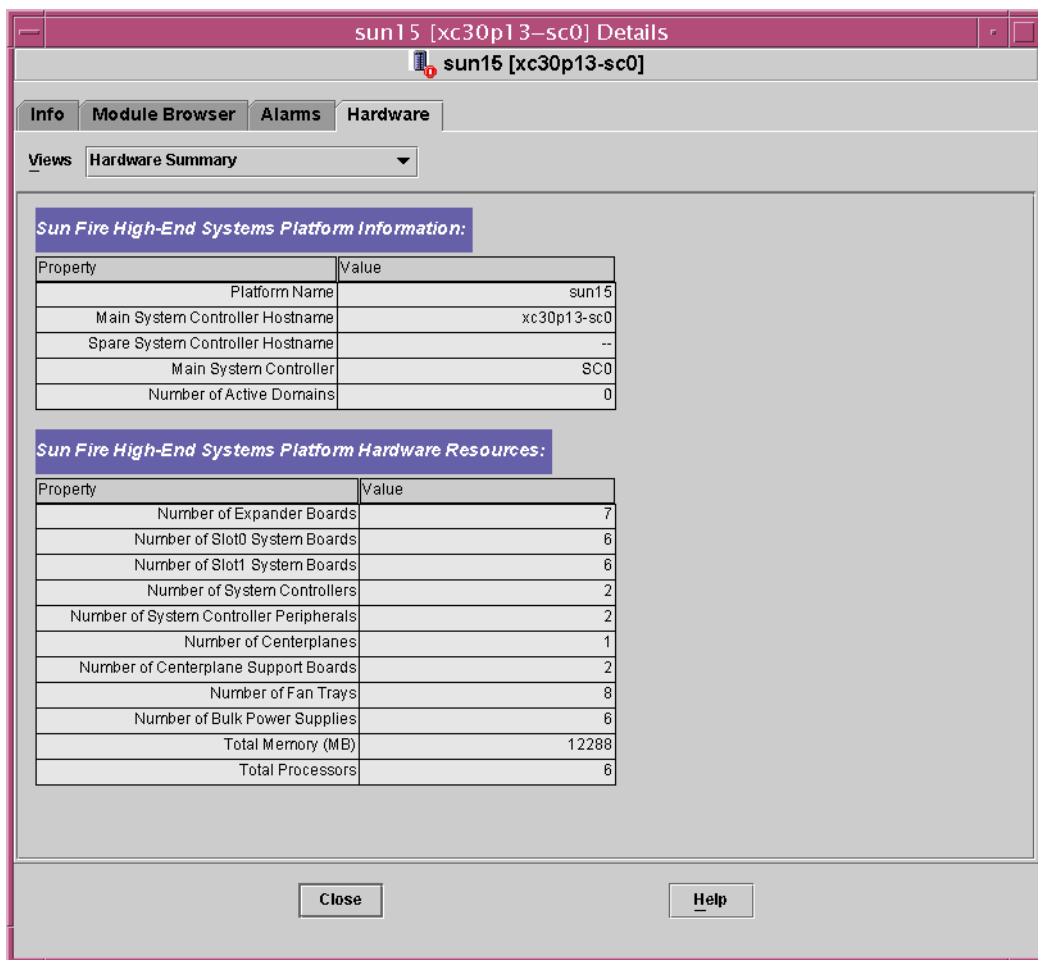


図 5-1 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェアの概要

図 5-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報の表には、次の属性が含まれています (表 5-2)。

表 5-2 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの情報

| 属性 | 説明 |
|--------------------|---|
| プラットフォーム名 | SMS の設定中にプラットフォームに割り当てられた名前 |
| メインシステムコントローラのホスト名 | メインのシステムコントローラのホスト名 |
| 予備のシステムコントローラのホスト名 | 予備のシステムコントローラのホスト名 |
| メインシステムコントローラ | メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1) |
| アクティブなドメイン数 | Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームのアクティブなドメイン数 (E25K/15K で最高 18 個、E20K/12K で最高 9 つ) |

図 5-1 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源の表には、次の属性が含まれています (表 5-3)。

表 5-3 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのハードウェア資源

| 属性 | 説明 |
|-------------------|--|
| 拡張ボード数 | 拡張ボード数 |
| スロット 0 のシステムボード数 | スロット 0 のシステムボード数 |
| スロット 1 のシステムボード数 | スロット 1 のシステムボード数 |
| システムコントローラ数 | システムコントローラ数 |
| システムコントローラの周辺装置数 | システムコントローラの周辺装置数 |
| センタープレーン数 | Sun TM Fireplane のインターコネクト (センタープレーンともいう) 数 |
| センタープレーンのサポートボード数 | センタープレーンサポートボード数 |
| ファントレー数 | ファントレー数 |
| バルク電源装置数 | バルク電源装置 |
| 総メモリー容量 (MB) | 電源投入時セルフテスト (POST) で構成された総メモリー容量 (M バイト単位) |
| 総プロセッサ数 | POST で構成された総プロセッサ数 |

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの写真画質の画像を表示するには、次の操作をします (図 5-2)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」を選択します。
4. プラットフォームの正面を表示するには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」-「正面」を選択します。

図 5-2 は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームを正面から見たときの物理表示です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示には、存在していることが判明しているプロセッサだけ表示され、存在していることが判明していないプロセッサは表示されません。たとえば、「プロセッサ」テーブルで POST 状態が BLACKLISTED のプロセッサは、実際に存在していたとしても、プラットフォームの物理表示には表示されません。



図 5-2 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの物理表示 - 正面

5. CPU ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム上のスロットの CPU ボードの 1 つをクリックします (図 5-3)。

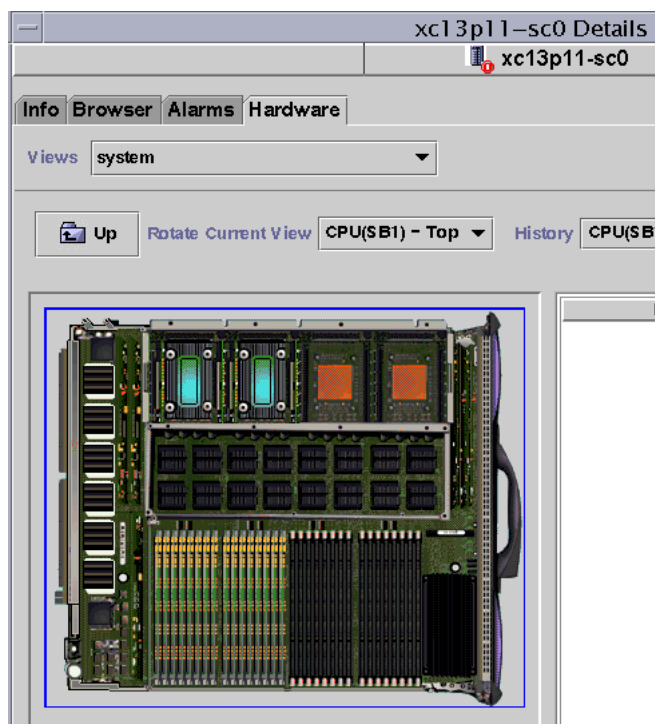


図 5-3 プラットフォームの物理表示における CPU ボードの上面

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示には、システムに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームを階層表示するには、次の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」を選択します。
4. 図 5-4 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトをクリックします。

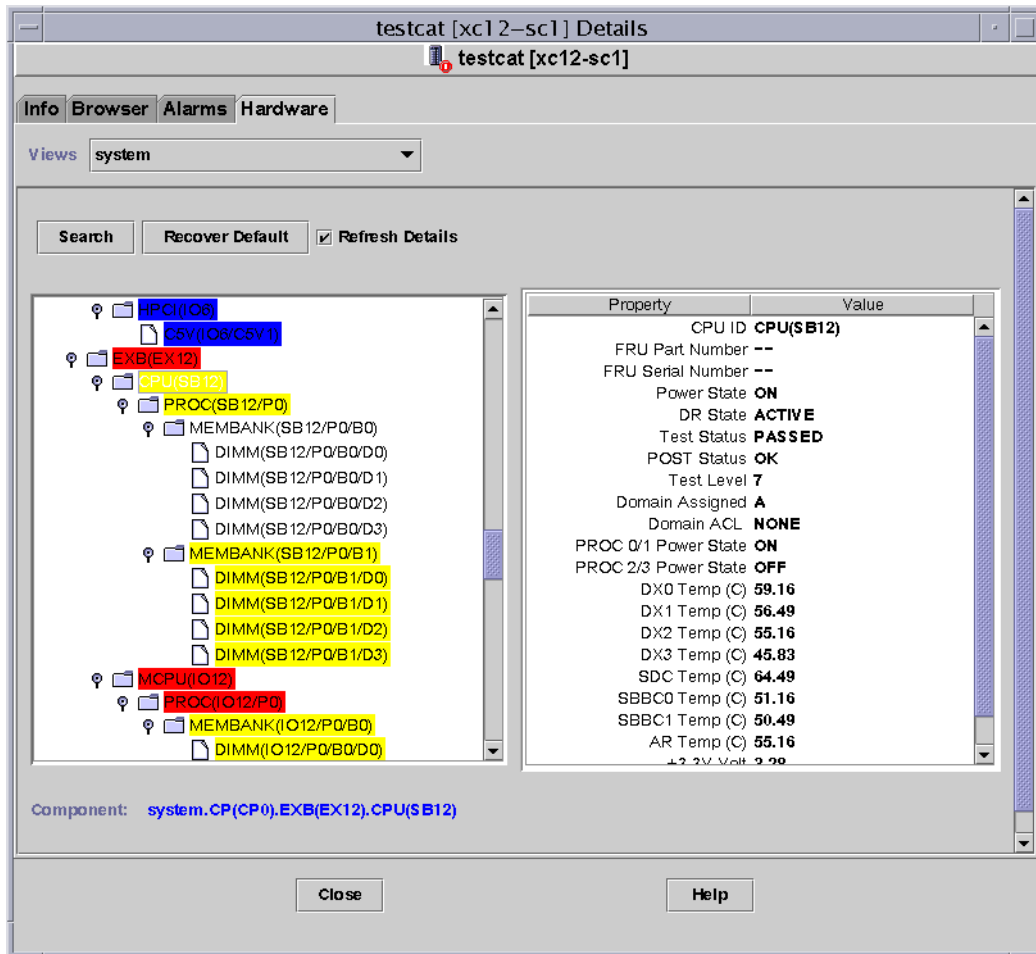


図 5-4 Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、特定の 1 つのドメインのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウは、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、71 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

ドメインの詳細ウィンドウには、次のタブが含まれます。これらのタブについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 6 章「管理オブジェクトの詳細表示」を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- モジュールマネージャ
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウにこれらの 6 つのタブが表示されない場合、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバードメインに正しくインストールされていません。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了して、インストール後に Sun Management Center サーバードメインプロセスが再起動していることを確認してください。

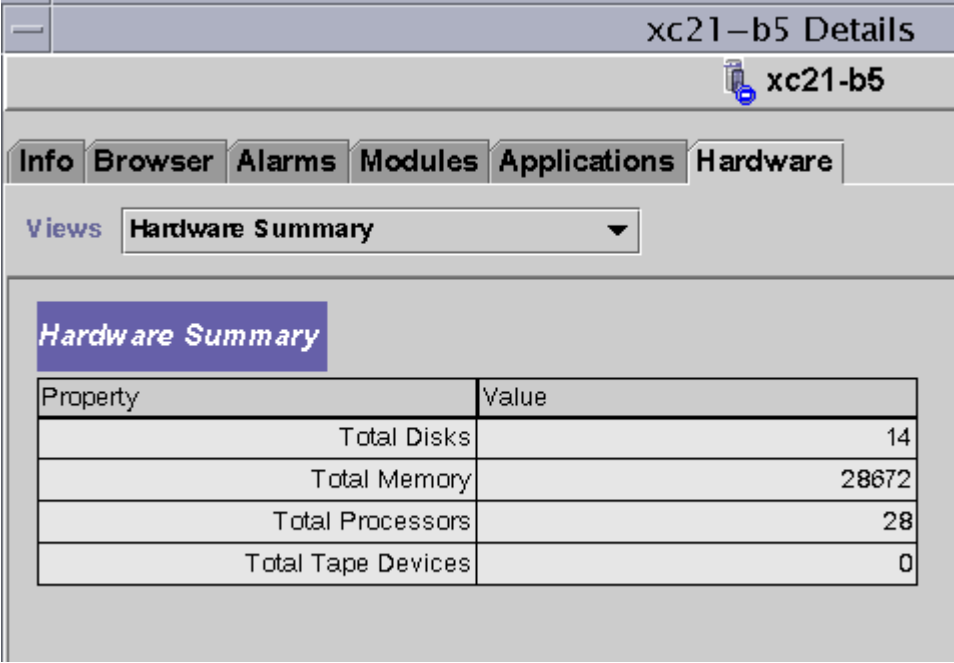
ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリー
- 接続されている入出力装置

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア資源の概要を表示するには、次の操作をします (図 5-5)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。



The screenshot shows a window titled "xc21-b5 Details". Below the title bar are tabs for "Info", "Browser", "Alarms", "Modules", "Applications", and "Hardware". The "Hardware" tab is selected. Below the tabs is a "Views" dropdown menu set to "Hardware Summary". The main content area displays a "Hardware Summary" section with a table of hardware properties.

| Property | Value |
|--------------------|-------|
| Total Disks | 14 |
| Total Memory | 28672 |
| Total Processors | 28 |
| Total Tape Devices | 0 |

図 5-5 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要

図 5-5 に示す Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの情報には、表 5-4 に示す属性が含まれています。

表 5-4 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェアの概要

| 属性 | 説明 |
|-----------|-------------------------------|
| 総ディスク数 | システムに存在するディスク数 |
| 総メモリー容量 | 総メモリー容量 (メガバイト単位) |
| 総プロセッサ数 | ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数 |
| 総テープデバイス数 | ドメインに存在するか、割り当てられたテープデバイス数 |

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示の画像には、電源装置やファントレー、システムコントローラ、システムコントローラの周辺装置の部分が選択不可能な部分として表示されます。物理表示からアクセスできるのは、ドメインのシステムボードの情報だけです。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのシステムボード情報を写真画質で表示するには、次の操作をします (図 5-6)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」を選択します。
4. 実際にプラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」-「正面」を選択します。

図 5-6 は、実際に Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの正面に存在していて、ドメインに割り当てられているシステムボードの物理表示の例です。物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

注 - 物理表示されるドメインのシャresh画像は、ファントレーと電源装置が選択不可能になったプラットフォームの画像と同じです。



図 5-6 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの物理表示 - 正面

5. HPCI ボードの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの下のスロットの HPCI ボードの 1 つをクリックします (図 5-7)。

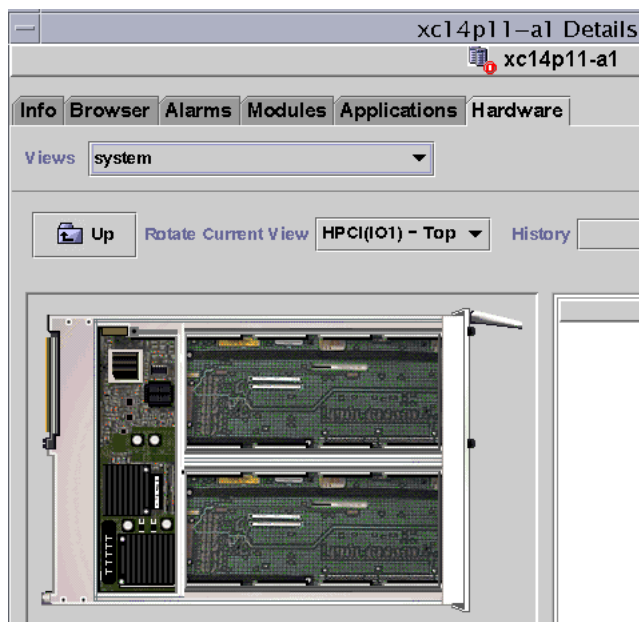


図 5-7 ドメインの物理表示における HPCI ボードの上面

▼ Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示をする

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示には、ドメインに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムのドメインを階層表示するには、次の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」を選択します。
4. 図 5-8 に示すような論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトを選択します。

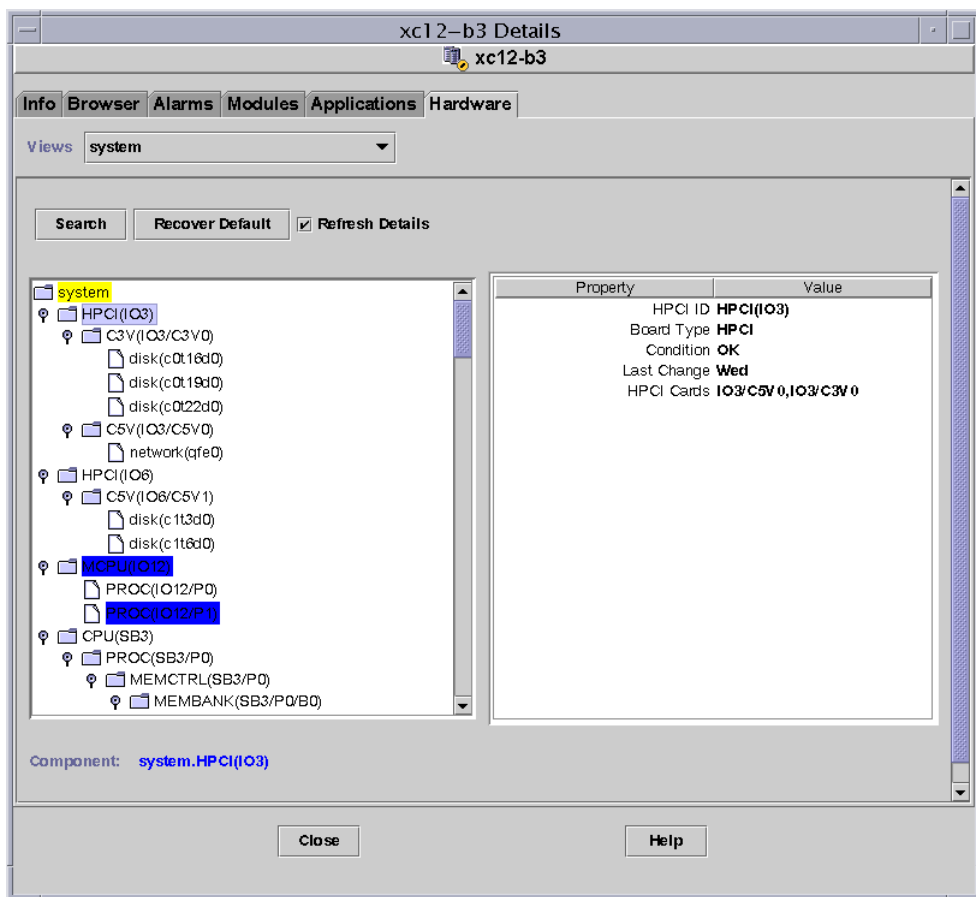


図 5-8 Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウ

Sun Fire ハイエンドシステムの SC に関する Sun Management Center 詳細ウィンドウには、システムコントローラのハードウェア情報が表示されます。Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウは、『Sun Management Center ユーザーガイド』で説明しているホストの詳細ウィンドウに似ています。

詳細ウィンドウで提供されるのは、Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラに割り当てられているボードとコンポーネントに関する情報だけです。プラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウで見ることができます。詳細は、71 ページの「Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの詳細ウィンドウ」を参照してください。

このウィンドウには、次のタブが含まれます。これらのタブについての詳細は『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

- 情報
- モジュールブラウザ
- アラーム
- モジュールマネージャ
- アプリケーション
- ハードウェア

注 – Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウにこれらの 6 つのタブの 1 つでも表示されない場合、Sun Fire ハイエンドシステムのサポート機能が Sun Management Center サーバマシンに正しくインストールされていません。Sun Fire ハイエンドシステム用の追加コンポーネントのインストールと設定を正しく完了して、インストール後に Sun Management Center サーバプロセスが再起動していることを確認してください。

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーモジュールが提供する情報を表示する「ハードウェア」タブの使用方法を説明します。この構成リーダーモジュールは、システムボードおよびそれらシステムボードに搭載されている次のコンポーネントに関する最新の情報を提供します。

- プロセッサ
- メモリー
- 接続されている入出力装置

▼ システムコントローラのハードウェアの概要を表示する

Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェア資源の概要を表示するには、次の操作をします (図 5-9)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「ハードウェアの概要」を選択します。

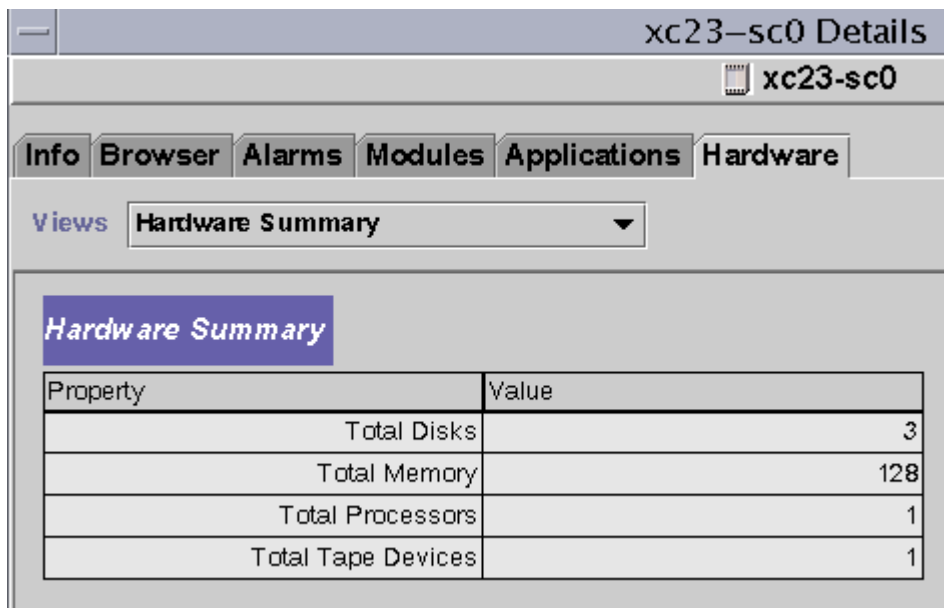


図 5-9 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのハードウェアの概要

図 5-9 に示す Sun Fire ハイエンドシステムの SC の情報には、表 5-5 に示す属性が含まれています。

表 5-5 Sun Fire ハイエンドシステムの SC のハードウェアの概要

| 属性 | 説明 |
|-----------|-----------------------|
| 総ディスク数 | システムに存在するディスク数 |
| 総メモリー容量 | 総メモリー容量 (メガバイト単位) |
| 総プロセッサ数 | システムコントローラに存在するプロセッサ数 |
| 総テープデバイス数 | システムに存在するテープデバイス数 |

▼ システムコントローラの物理表示をする

システムコントローラは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの右上にあります。システムコントローラの写真画質の画像を表示するには、次の操作をします (図 5-10)。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。

3. 「表示」プルダウンメニューから「物理表示」の下の「システム」を選択します。
4. プラットフォームの正面からシステムコントローラを見るには、「現在の表示の回転」プルダウンメニューから「システム」->「正面」を選択します。

注 - 物理表示されるシステムコントローラのシャーシ画像は、システムコントローラのスロットが埋まっていることを除けば、プラットフォームの画像と同じです。

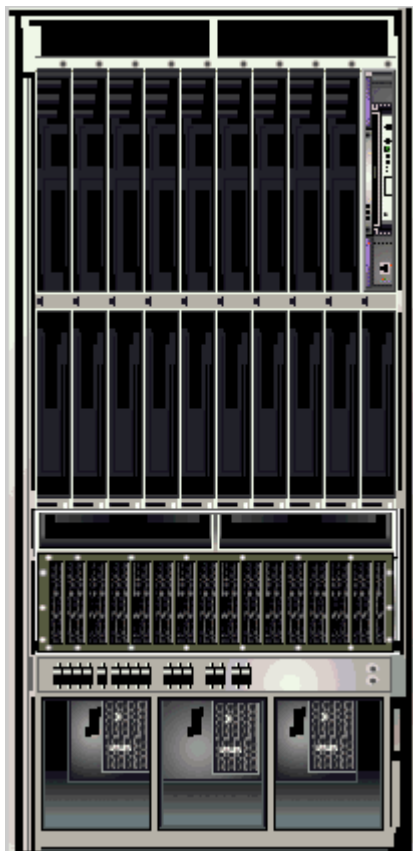


図 5-10 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの物理表示 - 正面

5. システムコントローラの上面を物理表示するには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの右上のシステムコントローラをクリックします (図 5-11)。

図 5-11 は、CP1500 システムコントローラの上面の物理表示です。

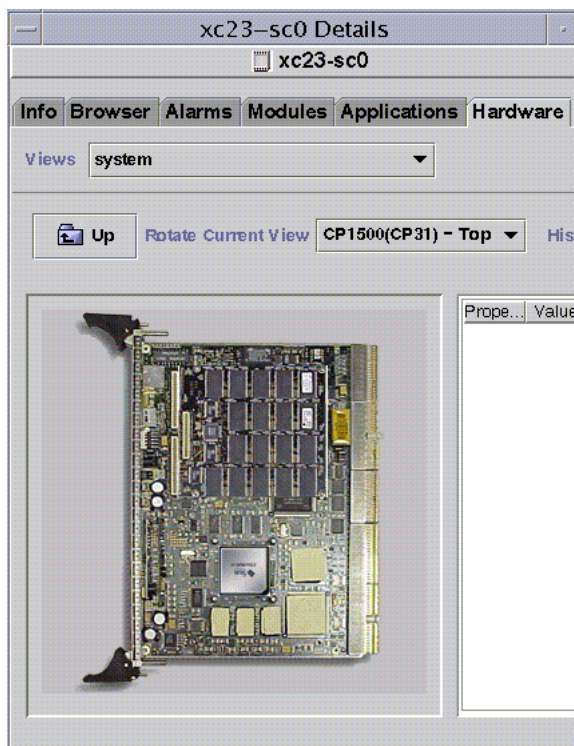


図 5-11 CP1500 システムコントローラ上面の物理表示

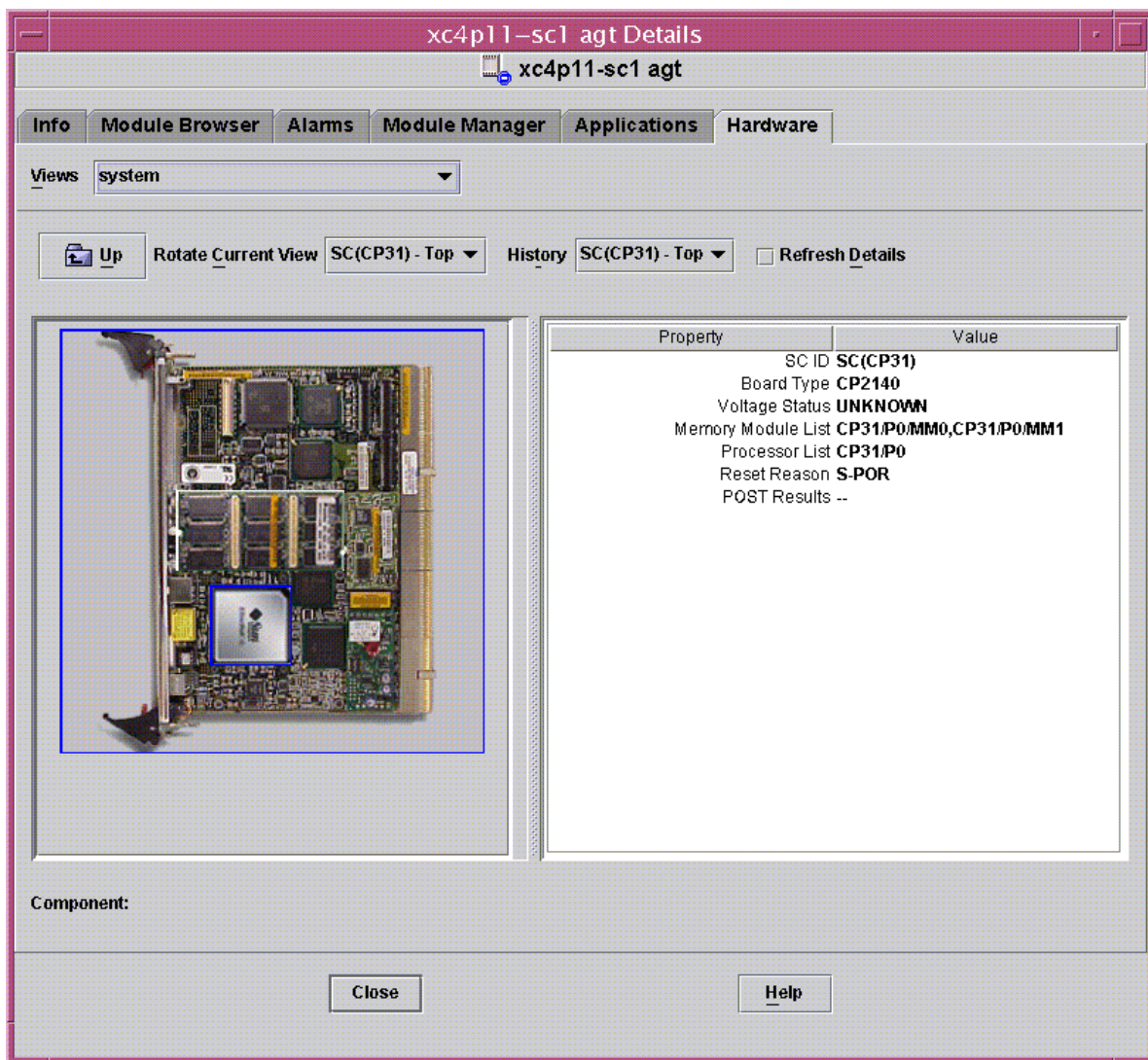


図 5-12 CP2140 システムコントローラ上面の物理表示

図 5-12 は、CP2140 システムコントローラの上面の物理表示です。

物理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

▼ システムコントローラの論理表示をする

システムコントローラの論理表示には、システムコントローラに接続されているすべてのボードとコンポーネントが階層表示されます。システムコントローラは、CP1500 または CP2140 のどちらかです。システムコントローラを階層表示するには、次の操作をします。

1. Sun Fire ハイエンドシステムの SC の詳細ウィンドウを開きます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
3. 「表示」プルダウンメニューから「論理表示」の下の「システム」を選択します。
4. 論理表示をするには、「すべて開く」ボタンをクリックして、左区画内のオブジェクトを選択します。

図 5-13 は、CP1500 システムコントローラの論理表示を示しています。

図 5-14 は、CP2140 システムコントローラの論理表示を示しています。

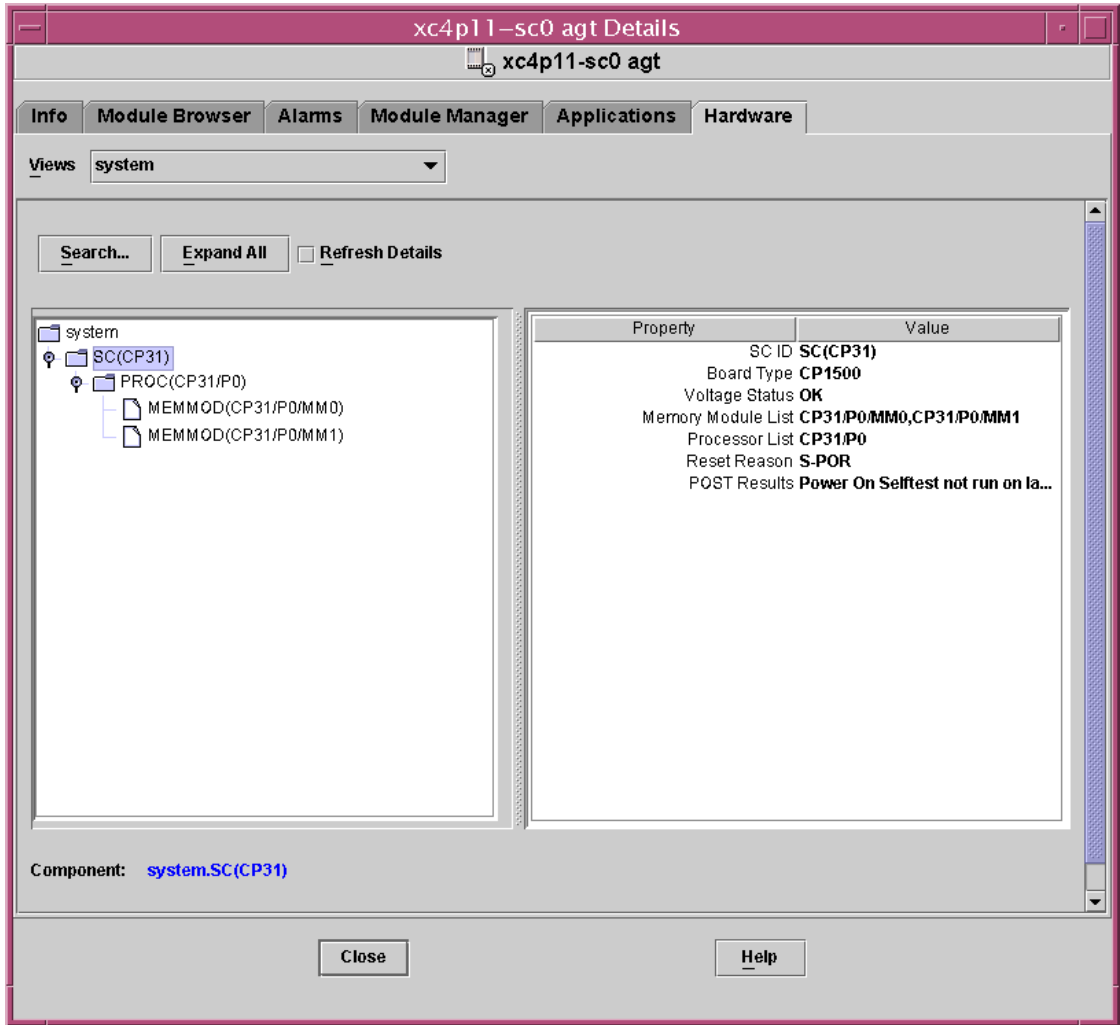


図 5-13 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP1500) の論理表示

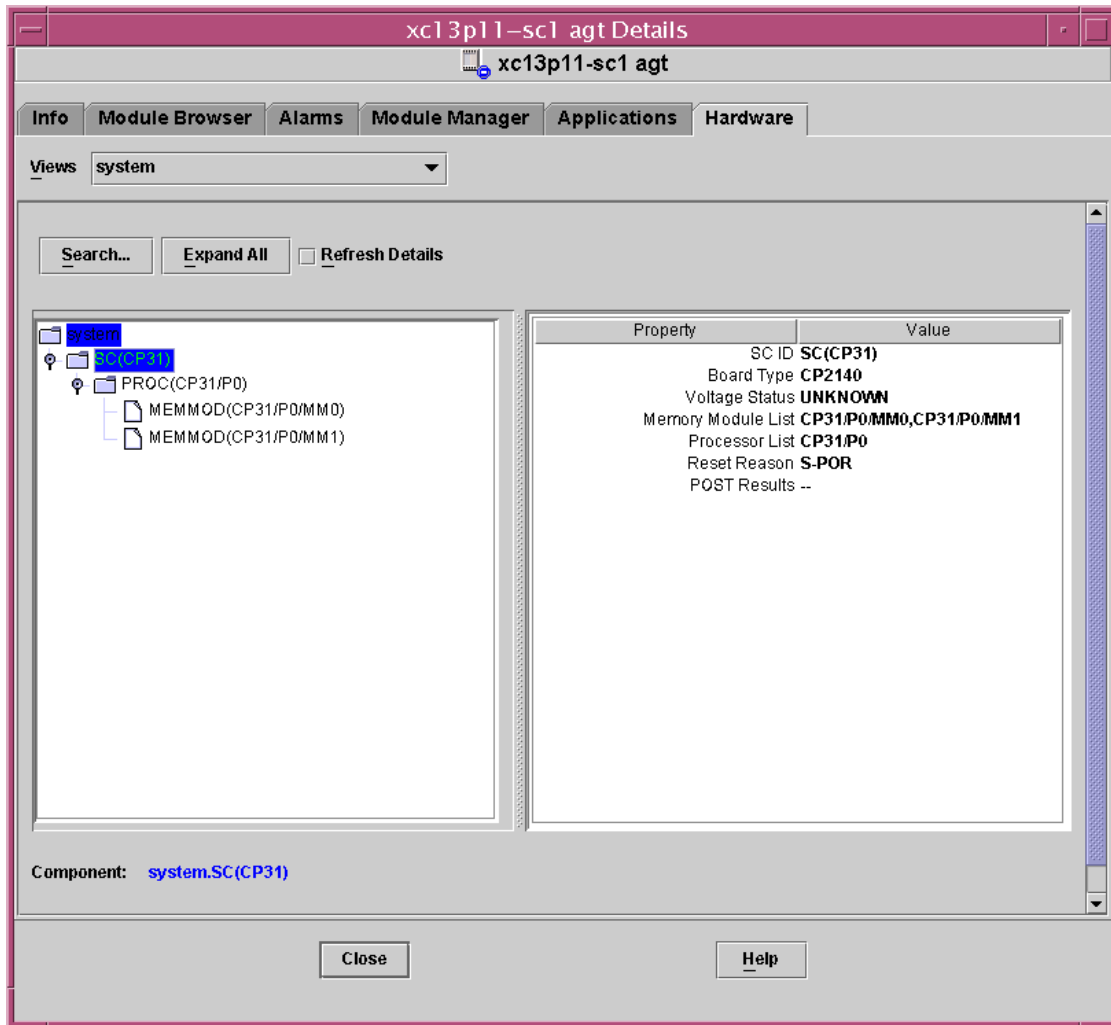


図 5-14 Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (CP2140) の論理表示

論理表示のナビゲートについての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

第6章

Sun Fire ハイエンドシステムエージェントモジュール

この章では、Sun Fire ハイエンドシステムに固有のエージェントモジュールを開く方法と、各モジュールのテーブル、属性、アラーム規則について説明します。

表 6-1 は、各 Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュールを示して、簡単に説明するとともに、モジュールがデフォルトで読み込まれるかどうか、読み込みまたは読み込み解除が可能であるかどうかを示しています。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

表 6-1 Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要

| モジュール | 説明 | 読み込まれる場所 ¹ | デフォルトでの読み込み? | 読み込み可能? | 読み込み解除可能? |
|----------------|---|-----------------------|--------------|---------|-----------|
| プラットフォーム構成リーダー | Sun Fire ハイエンドシステムプラットフォーム全体のハードウェア構成に関する情報を提供します | SC 上のプラットフォームエージェント | yes を入力 | 不可 | 不可 |
| ドメイン構成リーダー | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア構成情報を提供します | ドメイン | yes を入力 | yes を入力 | yes を入力 |
| SC 構成リーダー | Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ (SC) に関するハードウェア構成情報を提供します | SC 上の主要エージェント | yes を入力 | yes を入力 | yes を入力 |
| SC の状態 | Sun Fire ハイエンドシステム上のシステムコントローラがメインまたは予備のどちらであるかを判定します | SC 上の主要エージェント | yes を入力 | yes を入力 | yes を入力 |

表 6-1 Sun Fire ハイエンドシステム用エージェントモジュールの概要 (続き)

| モジュール | 説明 | 読み込まれる場所 ¹ | デフォルトでの読み込み? | 読み込み可能? | 読み込み解除可能? |
|-------------------|---|-------------------------|--------------|---------|-----------|
| SC の監視 | アクティブな Sun Fire ハイエンドシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します | SC 上のプラットフォームフォームエージェント | yes を入力 | yes を入力 | yes を入力 |
| プラットフォームドメインの状態管理 | プラットフォームおよびドメインの管理と、システムコントローラからのプラットフォーム全体のシステムボードの大域的な DR 構成を可能にします | SC 上のプラットフォームフォームエージェント | 不可 | yes を入力 | yes を入力 |
| 動的再構成 (DR) | 1 つの Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのボードを一度に DR 構成することを可能にします | ドメイン | 不可 | yes を入力 | yes を入力 |

¹ SC 上のどのエージェントにどのモジュールが読み込まれるのかに特に注意してください。SC 上の適切なエージェントに適切なモジュールが読み込まれないと、コアダンプが発生します。

ハードウェア、オペレーティング環境、ローカルアプリケーション、遠隔システムなどのシステムの構成要素を監視する、Sun Management Center の主要モジュールについては、『Sun Management Center ユーザーガイド』の付録 C を参照してください。

プラットフォーム用モジュールの使用不可

次のいずれかの条件が存在する場合、プラットフォーム用モジュール (プラットフォーム構成リーダー、プラットフォーム/ドメインの状態管理、SC 監視) は自動的に使用不可になります。

- アクティブなシステムコントローラが予備のコントローラである。
- プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモンのいずれかが動作していない (表 6-2)。

表 6-2 プラットフォーム用モジュールに必須の SMS デーモン

| プラットフォーム用モジュール | 必須の SMS デーモン |
|--------------------|---|
| プラットフォーム構成リーダー | Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd) |
| プラットフォーム/ドメインの状態管理 | Capacity-on-Demand デーモン (codd) イベントフロントエンドデーモン (efe) Error and Fault handling デーモン (efhd) イベントログアクセスデーモン (elad) イベントレポートデーモン (erd) 環境状態監視デーモン (esmd) フェイルオーバー管理デーモン (fomd) ハードウェアアクセスデーモン (hwad) プラットフォーム構成デーモン (pcd) |
| SC の監視 | イベントフロントエンドデーモン (efe) |

プラットフォーム用モジュールが自動的に使用不可にされると、アラームが生成され、プラットフォームのアイコンの右下に丸で囲った × が付きます。

Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールの属性

この章では、各モジュールのすべての属性を表にまとめて、簡単な説明を付けています。グラフ表示可能な属性については、属性の説明中にそのことを記しています。グラフ表示属性についての詳細は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 9 章を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステム用モジュールのアラーム規則

以降の説明では、Sun Fire ハイエンドシステム用のアドオンソフトウェアに含まれているモジュールごとにそのアラーム規則をまとめています。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。属性が Sun Management Center の規則の監視対象になっている場合は、その規則で監視されるモジュールの表にその規則名も示しています。

各モジュールのアラーム規則については、次の節を参照してください。

- 128 ページの「プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則」
- 154 ページの「ドメイン構成リーダーのアラーム規則」
- 166 ページの「SC 構成リーダーのアラーム規則」
- 181 ページの「SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)」

アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム全体のハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム用のアドオンソフトウェアの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することはできません。

図 6-1 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

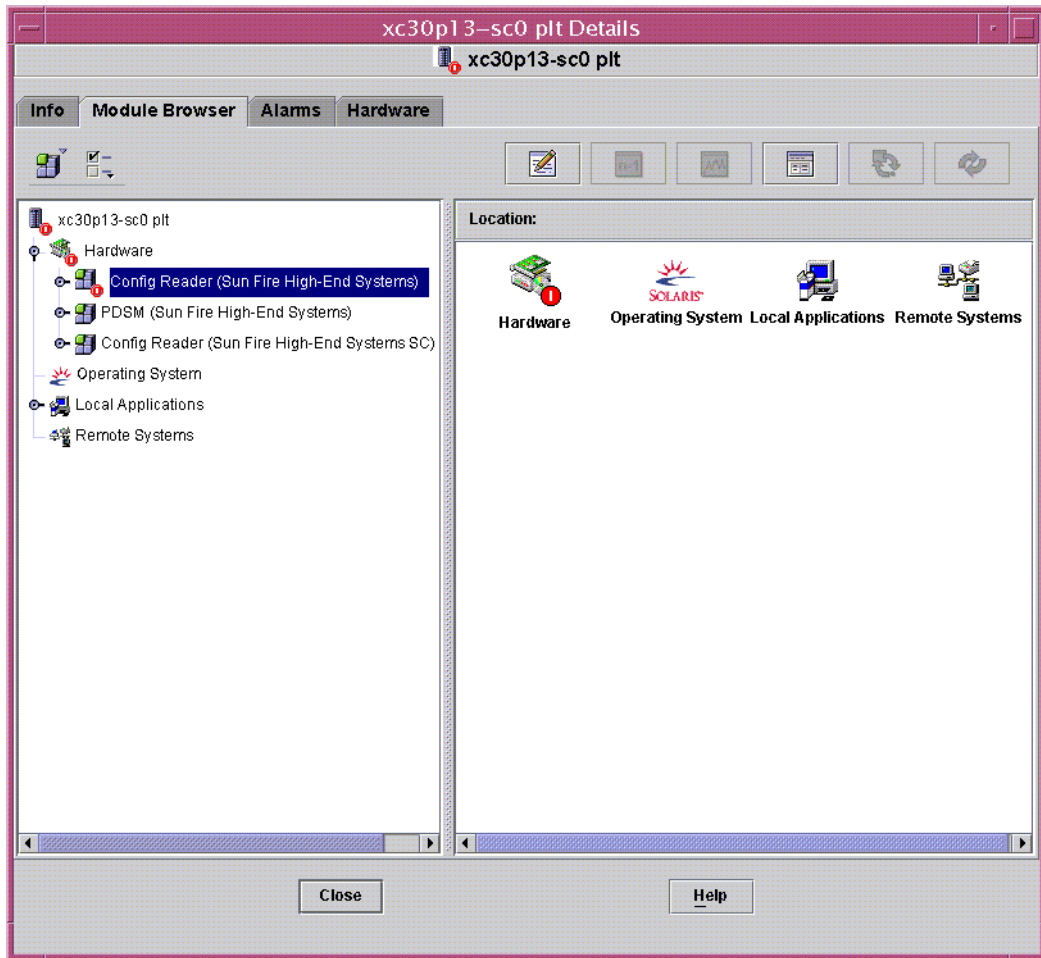


図 6-1 プラットフォーム構成リーダーモジュール

プラットフォーム構成リーダーモジュールの再表示機能

プラットフォーム構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報の収集、再表示方法は次のいずれかです。

- 60 分間隔で SC 上の SMS デーモンと対話し、キャッシュの全内容を入れ替えます。再表示間隔を変更することはできません。

- 温度や電圧などのプラットフォーム属性に変化があると、SMS デーモンが必ずそのことを Sun Management Center ソフトウェアに通知し、プラットフォーム構成リーダーがブラウザ表示内の関係するハードウェアテーブルを更新します。

プラットフォームの詳細ウィンドウからブラウザを使用すると任意のモジュール属性を再表示できますが、この場合にプラットフォームエージェントから読み出されるのは、その属性の現在の値だけです。強制的にデータが再計算されることはありません。

プラットフォーム構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。プラットフォーム構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- または -1 のいずれかになります。

注 – 温度の単位はすべて摂氏 (°C) です。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームのシステム属性をまとめています (表 6-3)。

表 6-3 プラットフォーム構成リーダー - システム

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|---|
| 名前 | | システム |
| プラットフォームタイプ | | プラットフォームタイプの識別子 |
| プラットフォーム名 | | SMS ソフトウェアの設定中にこの Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームに割り当てられた名前 |
| シャーシのホスト ID | | シャーシのホスト識別子 |
| フェイルオーバー状態 | scFoStat | 現在のフェイルオーバー状態： ACTIVATING、ACTIVE、DISABLED、 FAILED のいずれか |
| 管理者グループ | | 管理者グループの識別子 (plataadm など) |

表 6-3 プラットフォーム構成リーダー - システム (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------------|-----------|---|
| オペレータグループ | | オペレータグループの識別子 (platooper など) |
| サービスグループ | | サービスグループの識別子 (platsvc など) |
| メインシステムコントローラの ホスト名 | | メインのシステムコントローラのホスト名 |
| 予備のシステムコントローラの ホスト名 | | 予備のシステムコントローラのホスト名 |
| メインシステムコントローラ | | 現在メインのシステムコントローラの識別子 (SC0 か SC1) |
| システムコントローラの内部 IP アドレス | | 現在メインのシステムコントローラの内部 IP アドレス |
| クロック周波数 (MHz) | | クロック周波数 (メガヘルツ単位) |
| システムクロック周波数 (MHz) | | システムクロック周波数 (メガヘルツ単位) |
| クロックタイプ | | 使用されているクロックのタイプ |
| アクティブなドメイン数 | | Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームのアクティブなドメイン数 (E25K/15K で 1 ~ 18、E20K/12K で 1 ~ 9) |
| 拡張ボード数 | | Sun Fire E25K/15K プラットフォームまたは Sun Fire E20K/12K プラットフォームの拡張ボード数 (E25K/15K で 1 ~ 18、E20K/12K で 1 ~ 9) |
| スロット 0 のシステムボード数 | | スロット 0 のシステムボード数 (1 ~ 18) |
| スロット 1 のシステムボード数 | | スロット 1 のシステムボード数 (1 ~ 18) |
| システムコントローラ数 | | システムコントローラ数 (1 ないし 2) |
| システムコントローラの周辺装置数 | | システムコントローラの周辺装置数 (1 ないし 2) |
| センタープレーン数 | | センタープレーン数 (1) |
| センタープレーンのサポート ボード数 | | センタープレーンサポートボード数 (1 ないし 2) |
| ファントレイ数 | | ファントレイ数 (1 ~ 8) |
| バルク電源装置数 | | バルク電源装置数 (1 ~ 6) |

表 6-3 プラットフォーム構成リーダー - システム (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|--|
| 総メモリー容量 (M バイト) | | 電源投入時セルフテスト (POST) で構成された総メモリー容量 (M バイト単位) |
| 総プロセッサ数 | | POST で構成された総プロセッサ数 |
| 前回の完全再表示 | | 内部キャッシュのデータが前回完全に更新された日時 |

センタープレーン

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの Sun Fireplane インターコネクト (センタープレーンともいう) の属性をまとめています (表 6-4)。

表 6-4 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|---|
| CP ID | | FRUID (スロット ID) 形式のセンタープレーンの識別子: CP (CP0) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 存在する CSB | | 存在するセンタープレーンサポートボード番号の、コンマ区切りのリスト |
| 存在する EXB | | 存在する拡張ボード番号の、コンマ区切りのリスト |
| 存在する SC | | 存在するシステムコントローラ番号の、コンマ区切りのリスト |
| 存在する SCPER | | 存在するシステムコントローラ周辺装置番号の、コンマ区切りのリスト |

表 6-4 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーン (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|---|
| DARB の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) センタープレーンのボード 0 上の DARB ASIC の温度 |
| RMX の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の RMX ASIC の温度 |
| AMX0 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX0 ASIC の温度 |
| AMX1 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の AMX1 ASIC の温度 |
| DMX0 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX0 ASIC の温度 |
| DMX1 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX1 ASIC の温度 |
| DMX3 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX3 ASIC の温度 |
| DMX5 の温度 0 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 0 上の DMX5 ASIC の温度 |
| DARB の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DARB ASIC の温度 |
| RMX の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の RMX ASIC の温度 |
| AMX0 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX0 ASIC の温度 |
| AMX1 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の AMX1 ASIC の温度 |
| DMX0 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX0 ASIC の温度 |
| DMX1 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX1 ASIC の温度 |
| DMX3 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX3 ASIC の温度 |
| DMX5 の温度 1 | scBTemp | (グラフ表示可能) 論理センタープレーンのボード 1 上の DMX5 ASIC の温度 |

拡張ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの拡張ボードの属性をまとめています (表 6-5)。

表 6-5 プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------------------|-----------|---|
| EXB ID | | FRUID (スロット ID) 形式の拡張ボードの識別子 : EXB (EXx)、x は拡張ボードの番号 (0 ~ 17) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | 拡張ボードの電源状態 : ON か OFF |
| Slot 0 (スロット 0) | | スロット 0 を占有しているシステムボードの識別子 : CPU (SBx)、V3CPU (SBx) の形式、または NOT_PRESENT で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。 |
| Slot 1 (スロット 1) | | スロット 1 を占有しているシステムボードの識別子 : HPCI (IOx)、MCPU (IOx) の形式か NOT_PRESENT で、x は 0 ~ 17 |
| PS0 の状態 | scOBURu1 | 電源装置 0 の状態 : OK、BAD、UNKNOWN のいずれか |
| PS1 の状態 | scOBURu1 | 電源装置 1 の状態 : OK、BAD、UNKNOWN のいずれか |
| 上面温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 上面の周囲温度 |
| 底面温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 底面の周囲温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度 |
| SDI5 Temp (°C) (SDI5 の温度 (°C)) | scBTemp | (グラフ表示可能) SDI5 ASIC の温度 |

表 6-5 プラットフォーム構成リーダー - 拡張ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------------------|-----------|--|
| SDI0 Temp (°C) (SDI0 の温度 (°C)) | scBTemp | (グラフ表示可能) SDI0 (マスター) ASIC の温度 |
| SDI3 Temp (°C) (SDI3 の温度 (°C)) | scBTemp | (グラフ表示可能) SDI3 ASIC の温度 |
| AXQ Temp (AXQ の温度 (°C)) | scBTemp | (グラフ表示可能) AXQ ASIC の温度 |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル |
| +2.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル |

センタープレーンサポートボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのセンタープレーンサポートボードの属性をまとめています (表 6-6)。

表 6-6 プラットフォーム構成リーダー - センタープレーンサポートボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| CSB ID | | FRUID (スロット ID) の形式のセンタープレーンサポートボード識別子 : CSB (CS0) か CSB (CS1) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |

表 6-6 プラットフォーム構成リーダー - センターブレイクサポートボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|-----------|--|
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | 拡張ボードの電源の状態: ON か OFF |
| PS0 の状態 | scOBUru1 | 電源装置 0 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか |
| PS1 の状態 | scOBUru1 | 電源装置 1 の状態: OK、BAD、UNKNOWN のいずれか |
| 上面温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 上面の周囲温度 |
| 底面温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 底面の周囲温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度 |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +2.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +2.5V 電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +1.5V 電源の電圧レベル |

システムコントローラ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラの属性をまとめています (表 6-7)。

表 6-7 プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| SC ID | | FRUID (スロット ID) の形式のシステムコントローラ識別子: SC(SC0) か SC(SC1) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |

表 6-7 プラットフォーム構成リーダー - システムコントローラ (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|---|
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | SC の電源状態 : ON か OFF |
| RIO の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) RIO ボードの温度 |
| IOA0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 入出力アダプタ (IOA0) ボードの温度 |
| PS0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 |
| PS1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) SBBC ASIC の温度。予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。 |
| CBH の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) CBH ASIC の温度。予備 SC の場合、この属性値は 0.0 になる。 |
| +12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +12V 電源装置の電圧レベル |
| -12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC -12V 電源装置の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源装置の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源装置の電圧レベル |
| +5.0V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源装置の電圧レベル |
| +5V の電流 0 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0 |
| +5V の電流 1 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1 |
| +3.3V の電流 0 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0 |
| +3.3V の電流 1 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1 |

システムコントローラの周辺装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラ周辺装置の属性をまとめています (表 6-8)。

表 6-8 プラットフォーム構成リーダー - コントローラ周辺装置

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|--|
| SCPER ID | | FRUID (スロット ID) の形式のシステムコントローラ周辺装置識別子: SCPER (SCPER0) か SCPER (SCPER1) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | 電源の状態: ON か OFF |
| 周囲温度 0 (°C) | | (グラフ表示可能) プローブポイント 0 の周囲温度 |
| 周囲温度 1 (°C) | | (グラフ表示可能) プローブポイント 1 の周囲温度 |
| 周囲温度 2 (°C) | | (グラフ表示可能) プローブポイント 2 の周囲温度 |
| 平均周囲温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 3 つのプロブポイントの周囲温度の平均値 ¹ |
| +12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +12V 電源の電圧レベル |
| +5.0V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +5V 電源の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) ボードの DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |

1 この値は、プローブポイント 0、1、2 の 2 つの周囲温度値の平均を示しています。温度表示のためには、6 度以上の温度差がない 2 つのプロブポイントが選択されるため、プローブの故障によって誤った平均値が表示されることはありません。

ファントレー

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのファントレーの属性をまとめています (表 6-9)。

表 6-9 プラットフォーム構成リーダー - ファントレー

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|---|
| ファントレー ID | | FRUID (スロット ID) の形式のファントレー識別子 : FT (FT0) ~ FT (FT7) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scOnOff | ファンの電源状態 : ON か OFF |
| 速度 | | ファントレーの速度 : NORMAL、HIGH、FAILED のいずれか |
| ファン 0 の状態 | scOkFail | ファン 0 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 1 の状態 | scOkFail | ファン 1 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 2 の状態 | scOkFail | ファン 2 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 3 の状態 | scOkFail | ファン 3 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 4 の状態 | scOkFail | ファン 4 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 5 の状態 | scOkFail | ファン 5 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 6 の状態 | scOkFail | ファン 6 の状態 : OK か FAIL |

電源装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの電源装置の属性をまとめています (表 6-10)。

表 6-10 プラットフォーム構成リーダー - 電源装置

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|---|
| PS ID | | FRUID (スロット ID) の形式の電源装置識別子 : PS (PS0) ~ PS (PS5) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 状態 | scOkFail | 電源装置全体の状態 : OK か FAIL |
| ファン 0 の状態 | scOkFail | ファン 0 の状態 : OK か FAIL |
| ファン 1 の状態 | scOkFail | ファン 1 の状態 : OK か FAIL |
| AC0 の状態 | scOkFail | 電源装置からの交流入力 (AC0) の状態 : OK か FAIL |
| AC1 の状態 | scOkFail | 電源装置からの交流入力 (AC1) の状態 : OK か FAIL |
| 遮断器 0 の状態 | scBreakr | 遮断器 0 の状態 : OPEN か CLOSE |
| 遮断器 1 の状態 | scBreakr | 遮断器 1 の状態 : OPEN か CLOSE |
| DC0 電源の状態 | scOnOff | 施設の電源からの直流 DC 0 の状態 : ON か OFF |
| DC1 電源の状態 | scOnOff | 施設の電源からの直流 DC 1 の状態 : ON か OFF |
| 電流 0 | | (グラフ表示可能) 電流 0 のレベル |
| 電流 1 | | (グラフ表示可能) 電流 1 のレベル |
| +48V の電圧 | | (グラフ表示可能) DC +48V 電源の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | | (グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |

CPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの CPU ボードの属性をまとめています (表 6-11)。

表 6-11 プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|-----------|---|
| CPU ID | | FRUID (スロット ID) 形式の CPU ボードの識別子 : CPU (SBx) か V3CPU (SBx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV CPU ボードを示す。 |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | CPU ボードの電源状態 : ON か OFF |
| DR 状態 | scDrStat | CPU ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか |
| テストの状態 | scBTest | CPU のテスト状態 : UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| POST 状態 | scPOST | CPU ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| テストレベル | | (グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル |
| 割当先ドメイン | | このボードが割り当てられているドメイン : A ~ R か UNASSIGNED |
| ドメイン ACL | | ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト) : A ~ R か NONE |
| COD 有効 | | ボードが COD ボードであるか否か : COD、NONCOD、UNKNOWN のいずれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す。 |
| DX0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度 |
| DX1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度 |

表 6-11 プラットフォーム構成リーダー - CPU ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------------|-----------|----------------------------------|
| DX2 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度 |
| DX3 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度 |
| SDC の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度 |
| SBBC0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBBC0 ASIC の温度 |
| SBBC1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBBC1 ASIC の温度 |
| AR の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度 |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル |

HPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI (HPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-12)。

表 6-12 プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| HPCI ID | | FRUID (スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子 : HPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | HPCI ボードの電源状態 : ON か OFF |

表 6-12 プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|--|
| DR 状態 | scDrStat | HPCI ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか |
| テストの状態 | scBTest | HPCI ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| POST 状態 | scPOST | HPCI ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| テストレベル | | (グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル |
| 割当先ドメイン | | このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED |
| ドメイン ACL | | ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE |
| PS0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 |
| PS1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 |
| IOA0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度 |
| IOA1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度 |
| DX0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度 |
| DX1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度 |
| SDC の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度 |
| AR の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度 |
| +12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル |
| -12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル |
| +1.5V コンバータ 0 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 0 の電圧レベル |
| +1.5V コンバータ 1 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +1.5V コンバータ 1 の電圧レベル |
| +5.0V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル |

表 6-12 プラットフォーム構成リーダー - HPCI ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|-------------------------------|
| +5V の電流 0 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 0 |
| +5V の電流 1 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電流レベル 1 |
| +3.3V の電流 0 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 0 |
| +3.3V の電流 1 | scBCurrt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電流レベル 1 |

HPCI+ ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-13)。

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| HPCI+ ID | | FRUID (スロット ID) 形式の HPCI+ ボードの識別子 : HPCI+ (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | HPCI+ ボードの電源状態 : ON か OFF |
| DR 状態 | scDrStat | HPCI+ ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか |
| テストの状態 | scBTest | HPCI+ ボードのテスト状態 : UNKOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| POST 状態 | scPOST | HPCI+ ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|--|
| テストレベル | | (グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル |
| 割当先ドメイン | | このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED |
| ドメイン ACL | | ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE |
| PS0 の温度 0 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 0 |
| PS0 の温度 1 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 1 |
| PS0 の温度 2 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の温度 2 |
| PS1 の温度 0 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 0 |
| PS1 の温度 1 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 1 |
| PS1 の温度 2 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の温度 2 |
| IOA0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の IOA0 ASIC の温度 |
| IOA1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の IOA1 ASIC の温度 |
| DX0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度 |
| DX1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度 |
| SDC の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度 |
| AR の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度 |
| PS0 の +12V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +12V の電圧レベル |
| PS1 の +12V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +12V の電圧レベル |
| PS0 の -12V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC -12V の電圧レベル |
| PS1 の -12V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC -12V の電圧レベル |
| PS0 の +3.3V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル |
| PS1 の +3.3V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V の電圧レベル |
| PS0 の +3.3HK 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル |
| PS1 の +3.3HK 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +3.3V ハウスキーピングの電圧レベル |

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------|-----------|--|
| PS0 の +1.5V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V の電圧レベル |
| PS1 の +1.5V 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V の電圧レベル |
| PS0 の +5.0 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +5V の電圧レベル |
| PS1 の +5.0 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +5 の電圧レベル |
| PS0 の +1.5/+2.5 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 0 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル |
| PS1 の +1.5/+2.5 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) 電源装置 1 の DC +1.5V または +2.5V の電圧レベル |
| PS0 の +12 電圧正常 | scOkFail | +12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の +12 電圧正常 | scOkFail | +12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の -12 電圧正常 | scOkFail | -12V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の -12 電圧正常 | scOkFail | -12V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の +5 電圧正常 | scOkFail | +5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の +5 電圧正常 | scOkFail | +5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の +3.3 電圧正常 | scOkFail | +3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の +3.3 電圧正常 | scOkFail | +3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の +1-2.5 電圧正常 | scOkFail | +1-2.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の +1-2.5 電圧正常 | scOkFail | +1-2.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の +1.5 電圧正常 | scOkFail | +1.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| PS1 の +1.5 電圧正常 | scOkFail | +1.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| PS0 の +3.3HK 電圧正常 | scOkFail | +3.3V HK への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |

表 6-13 プラットフォーム構成リーダー - HPCI+ ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------------|-----------|-----------------------------------|
| PS1 の +3.3HK 電圧正常 | scOkFail | +3.3V HK への供給電源 1 の状態 : OK か FAIL |
| PS0 正常 | scOkFail | 電源装置 0 の状態 : OK か FAIL |
| PS1 正常 | scOkFail | 電源装置 1 の状態 : OK か FAIL |

WPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-14)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| WPCI ID | | FRUID (スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子 : WPCI (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | WPCI ボードの電源状態 : ON か OFF |
| DR 状態 | scDrStat | WPCI ボードの再構成状態 : UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか |
| テストの状態 | scBTest | WPCI ボードのテスト状態 : UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------------------|-----------|---|
| POST 状態 | scPOST | WPCI ボードの POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| テストレベル | | (グラフ表示可能) このボードに対する POST テストレベル |
| 割当先ドメイン | | このボードが割り当てられているドメイン : A ~ R か UNASSIGNED |
| ドメイン ACL | | ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト) : A ~ R か NONE |
| +1.5 コンバータ 0 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +1.5 コンバータ 1 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +1.5 コンバータ 0 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +1.5 コンバータ 1 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +2.5 コンバータ 0 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +2.5 コンバータ 1 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +2.5 コンバータ 0 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +2.5 コンバータ 1 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 0 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 1 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 2 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 0 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 1 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +3.3 コンバータ 2 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態 : OK か FAIL |
| +5.0 コンバータ 0 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |
| +5.0 コンバータ 1 OK | scOkFail | コンバータの状態 : OK か FAIL |

表 6-14 プラットフォーム構成リーダー - WPCI ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------------------|-----------|-------------------------------------|
| +5.0 コンバータ 0 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL |
| +5.0 コンバータ 1 の PS 状態 | scOkFail | コンバータの電源装置の状態: OK か FAIL |
| IOA 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の IOA ASIC の温度 |
| DX0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度 |
| DX1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度 |
| SDC の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度 |
| AR の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度 |
| WCI0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の WCI0 ASIC の温度 |
| WCI1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の WCI1 ASIC の温度 |
| +12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +12V 電源の電圧レベル |
| -12V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC -12V 電源の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル |
| +2.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +2.5V 電源の電圧レベル |
| +5.0V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +5V 電源の電圧レベル |

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-15)。

表 6-15 プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------------|-----------|--|
| MCPU ID | | FRUID (スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子: MCPU (IOx) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scBPower | MaxCPU ボードの電源の状態: ON か OFF |
| DR 状態 | scDrStat | MaxCPU ボードの再構成状態: UNKNOWN、FREE、ASSIGNED、ACTIVE のいずれか |
| テストの状態 | scBTest | MaxCPU ボードのテスト状態: UNKNOWN、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| POST 状態 | scPOST | MaxCPU ボードの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| テストレベル | | このボードに対する POST テストレベル |
| 割当先ドメイン | | このボードが割り当てられているドメイン: A ~ R か UNASSIGNED |
| ドメイン ACL | | ドメインアクセス制御リスト (このボードにアクセスできるドメインのコンマ区切りのリスト): A ~ R か NONE |
| COD 有効 | | ボードが COD ボードであるか否か: COD、NONCOD、UNKNOWN のいずれか。最後は、SMS が初期化中で判定不能であることを示す。 |
| コア 0 の電源 0 の状態 | scOkFail | PROC 0 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| コア 0 の電源 1 の状態 | scOkFail | PROC 1 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |

表 6-15 プラットフォーム構成リーダー - MaxCPU ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|-------------------------------------|
| コア 0 の電源 2 の状態 | scOkFail | PROC 2 への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| コア 1 の電源 0 の状態 | scOkFail | PROC 0 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| コア 1 の電源 1 の状態 | scOkFail | PROC 1 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| コア 1 の電源 2 の状態 | scOkFail | PROC 2 への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| +3.3V の電源 0 の状態 | scOkFail | +3.3V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| +3.3V の電源 1 の状態 | scOkFail | +3.3V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| +1.5V の電源 0 の状態 | scOkFail | +1.5V への供給電源 0 の状態: OK か FAIL |
| +1.5V の電源 1 の状態 | scOkFail | +1.5V への供給電源 1 の状態: OK か FAIL |
| DX0 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX0 ASIC の温度 |
| DX1 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX1 ASIC の温度 |
| DX2 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX2 ASIC の温度 |
| DX3 の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の DX3 ASIC の温度 |
| SDC の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SDC ASIC の温度 |
| SBBC 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の SBCC ASIC の温度 |
| AR の温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) このボード上の AR ASIC の温度 |
| +3.3V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル |
| +3.3HK の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +3.3V ハウスキーピング電源の電圧レベル |
| +1.5V の電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル |

HPCI カセット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-16)。1つのカセットに2枚のHPCIカードが収納されています。

注 - HPCI カセットの情報は、対応する HPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。HPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の HPCI カセットの情報は収集できません。

表 6-16 プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|---|
| カセット ID | | FRUID (スロット ID) 形式の HPCI カセットの識別子: FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場合は c5v。スロット ID は IOx/CyVz の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 または 5)、z はカードがある PCI コントローラ (0 か 1)。 |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| スロットの電源状態 | scOnOff | スロットの電源状態: ON か OFF |
| カードの有無 | | カセットにカードが装着されている場合 YES、装着されていない場合 NO |
| スロット周波数 (MHz) | | メガヘルツ (MHz) 単位で表したスロットの周波数: 33、66、132 のいずれか |
| スロットの状態 | scHPCId | スロットの状態: GOOD、UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれか |
| スロットの電源状態 | scOkFail | スロットへの電源投入の成功/失敗: OK か FAIL |
| スロットの電源障害 | scOkFail | スロットの電源障害の検出状態: OK か FAIL |

Paroli カード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-17)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの情報は、対応する WPCI ボードに電源が供給されている場合にのみ収集できます。WPCI ボードに電源が供給されていない場合、そのボード上の Paroli カードの情報は収集できません。

表 6-17 プラットフォーム構成リーダー - Paroli カード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|---|
| Paroli ID | | FRUID (スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子 : PARS (IOx/PARy) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y は Paroli カード番号 (0 か 1)。 |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| 電源の状態 | scOnOff | Paroli カードの電源状態 : ON か OFF |
| +1.5V の電圧 | scBVol1t | (グラフ表示可能) DC +1.5V 電源の電圧レベル |
| +3.3V の電圧 | scBVol1t | (グラフ表示可能) DC +3.3V 電源の電圧レベル |

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのプロセッサの属性をまとめています (表 6-18)。

注 - プロセッサの情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM [OBP] モードか、Solaris オペレーティングシステムの実行中) している場合에만収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのプロセッサの情報は収集できません。

表 6-18 プラットフォーム構成リーダー - プロセッサ

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|--|
| プロセッサ ID | | ID (スロット ID) 形式のプロセッサの識別子: PROC (SBx/Py) の形式で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| 電源の状態 | scOnOff | このプロセッサの電源状態: ON か OFF |
| POST 状態 | scPOST | プロセッサの POST 状態: UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、NO_LICENSE のいずれか |
| クロック周波数 (MHz) | | プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数 |
| 温度 (°C) | scBTemp | (グラフ表示可能) プロセッサの温度 |
| 電圧 | scBVolt | (グラフ表示可能) プロセッサの電圧レベル |
| E キャッシュサイズ | | (グラフ表示可能) 外部キャッシュサイズ (メガバイト単位) |
| メモリーバンクリスト | | このプロセッサが使用しているメモリーバンクの、コンマ区切りのリスト (0、1) |

メモリーバンク

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのメモリーバンクの属性をまとめています (表 6-19)。

注 - メモリーバンクの情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティングシステムの実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインのメモリーバンクの情報は収集できません。

表 6-19 プラットフォーム構成リーダー - メモリーバンク

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------------|-----------|--|
| MEMBANK ID | | ID (スロット ID) 形式のメモリーバンクの識別子 : MEMBANK (SBx/Py/Bz) の形式で、 <i>x</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1) |
| 論理バンク 0 の POST 状態 | scPOST | 論理メモリーバンク 0 の POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| 論理バンク 1 の POST 状態 | scPOST | 論理メモリーバンク 1 の POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |
| メモリーサイズ (M バイト) | | (グラフ表示可能) メモリーバンクのサイズ (M バイト単位) |

DIMM

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-20)。

注 – DIMM の情報は、ドメインが稼働 (OpenBoot™ PROM モードか、Solaris オペレーティングシステムの実行中) している場合にのみ収集できます。ドメインが停止している場合、そのドメインの DIMM の情報は収集できません。

表 6-20 プラットフォーム構成リーダー - DIMM

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| DIMM ID | | FRUID (スロット ID) 形式の DIMM の識別子 : DIMM (SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3) |
| FRU パーツ番号 | | この現場交換可能ユニットのパーツ番号 |
| FRU シリアル番号 | | この現場交換可能ユニットのシリアル番号 |
| ダッシュレベル | | この現場交換可能ユニットのダッシュレベル |
| リビジョンレベル | | この現場交換可能ユニットのリビジョンレベル |
| 略名 | | この現場交換可能ユニットの略名 |
| 説明 | | この現場交換可能ユニットの説明 |
| 製造地 | | この現場交換可能ユニットの製造地 |
| 製造日 | | この現場交換可能ユニットが製造された日時 |
| ベンダー名 | | この現場交換可能ユニットのベンダー名 |
| POST 状態 | scPOST | DIMM の POST 状態 : UNKNOWN、OK、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED のいずれか |

ドメイン

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの属性をまとめています (表 6-21)。

表 6-21 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------------|-----------|--|
| ドメイン ID | | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの識別子 : A ~ R |
| 状態 | scDmnSt | SMS の showplatform コマンドから報告されたドメインの状態 : Running Solaris、Running Domain POST、Powered Off など。詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の showplatform(1M) を参照。 |
| ドメインの停止回数 | scStop | プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインが停止した回数 |
| 記録の停止回数 | scStop | プラットフォームエージェントの再起動後、またはアラームの確認後にこのドメインの記録が停止した回数 |
| OS のバージョン | | このドメインで動作しているオペレーティング環境のバージョン : Solaris 2.8 など |
| OS のタイプ | | このドメインで動作しているオペレーティング環境の種類 : Solaris、Trusted など |
| ドメインのタグ | | ドメインのタグ名 : domainA ~ domainR など |
| 外部ホスト名 | | ドメインの外部ホスト名 |
| 内部ホスト名 | | ドメインの内部ホスト名 |
| 内部 IP アドレス | | ドメインの内部 IP アドレス |
| スロット 0 の使用可能ボード | | このドメインで使用可能なスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |
| スロット 1 の使用可能ボード | | このドメインで使用可能なスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |
| スロット 0 の割り当て済みボード | | このドメインに割り当てられているスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |
| スロット 1 の割り当て済みボード | | このドメインに割り当てられているスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |
| スロット 0 のアクティブなボード | | このドメインでアクティブなスロット 0 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |
| スロット 1 のアクティブなボード | | このドメインでアクティブなスロット 1 のボード (0 ~ 17) の、コンマ区切りのリスト、または NONE |

表 6-21 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------------|-----------|---|
| 主入出力ボード | | ドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子: HPCI (IO x) の形式で、 x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| キースイッチ | | 仮想キースイッチの位置: ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、UNKNOWN のいずれか |
| アドレスバスの構成 | scBusCfg | アドレスバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。 |
| データバスの構成 | scBusCfg | データバス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。 |
| 応答バスの構成 | scBusCfg | 応答バス未構成 (UNCONFIGURED)、CSB0 だけ使った機能縮小モード (CSB0)、CSB1 だけ使った機能縮小モード (CSB1)、両方のセンタープレーンサポートボードを使った完全動作 (BOTH) のいずれか。 |
| アクティブな Ethernet ボード | | アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子: HPCI (IO x) の形式で、 x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| 管理者グループ | | ドメインの管理者グループの識別子: dmnxadmn の形式で x は a ~ r |
| 再構成グループ | | ドメインの再構成グループの識別子: dmnxrcfg の形式で x は a ~ r |
| 作成日時 | | ドメインが作成された日時、または UNKNOWN |

不明なコンポーネント (構成部品)

次の表は、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォーム構成リーダーが認識できないコンポーネントが特定のスロットにあることを示します (表 6-22)。

表 6-22 プラットフォーム構成リーダー - 不明なコンポーネント

| スロット ID |
|---|
| 不明なシステムボードがあるスロットの識別子: EXB x .SLOT y の形式で、 x は拡張ボード番号 (0 ~ 17)、 y はスロット番号 (0 ~ 1) |

障害イベントテーブル

次の表は、自動障害イベント通知システムによって生成される障害イベントを示します (表 6-23)。同じ情報がアラームテーブルに表示されます。アラームテーブルでアラームに応答すると、障害イベントは障害イベントテーブルから自動的に削除されません。アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

表 6-23 プラットフォーム構成リーダー - 障害イベントテーブル

障害イベント

障害イベントには、警告を示す黄色のアラームとともに示される障害イベントコード、タイムスタンプ、およびシャーシのシリアル番号 (CSN) が含まれています。

検出オブジェクトテーブル

検出オブジェクトテーブルは、検出マネージャーや「トポロジオブジェクトの作成」GUI が Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトを作成したときに使用した情報を提供します。この情報は、主として診断目的に提供され、Sun Management Center ソフトウェアのユーザーには直接関係のない情報が含まれます。この情報には、テーブル識別子 (マジックナンバー) の後に、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトの一部として作成された各トポロジオブジェクトに関する情報が続きます。マジックナンバー値の 53444f54 は、その後のテーブルが有効な検出オブジェクトテーブルであることを示します。

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの検出オブジェクトの属性をまとめています (表 6-24)。

表 6-24 プラットフォーム構成リーダー - 検出オブジェクトテーブル

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------|-----------|---------------------------|
| トポロジ ID | | 符号化されたトポロジの識別子 |
| トポロジ親 | | このオブジェクトの親のトポロジ ID |
| 検出タイプ | | 符号化された検出タイプ |
| IP アドレス | | このトポロジオブジェクトの IP アドレス |
| エージェントポート | | このトポロジオブジェクト用のネットワークポート番号 |

表 6-24 プラットフォーム構成リーダー - 検出オブジェクトテーブル (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| ファミリタイプ | | トポロジオブジェクトのファミリタイプ |
| ラベル | | Sun Management Center トポロジに表示されるオブジェクトラベル |
| 説明 | | オブジェクトの説明 (ある場合) |

注 - 「エージェントポート」属性の値の -1 は、そのオブジェクトがプラットフォームグループオブジェクトであることを示します。

プラットフォーム構成リーダーのアラーム規則

この節では、プラットフォーム構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

ボード電流規則 (scBCurrt)

ボード電流規則は、電流プローブポイントが類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外になった場合に重大アラームを生成します (表 6-25)。このとき SMS ソフトウェアは、適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-25 プラットフォーム構成リーダー - ボード電流規則

| 電流しきい値 | アラームレベル | 意味 |
|--------|---------|--|
| Good | | 電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲内。 x は Sun が設定します。 |
| Error | 重大 | 電流が類似の全コンポーネントの平均の $x\%$ の範囲外。 x は Sun が設定します。 |

対処法: SMS の `showenvironment(1M)` コマンドを使用して、`showenvironment` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電源規則 (scBPower)

ボード電源規則は、ボードの電源の状態が OFF になった場合にアラームを生成します (表 6-26)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-26 プラットフォーム構成リーダー - ボード電源規則

| 電源の状態 | アラームレベル | 意味 |
|-------|---------|------------|
| ON | | ボードの電源がオン。 |
| OFF | 注意 | ボードの電源がオフ。 |

対処法: SMS の `poweron(1M)` コマンドを使用して、ボードの電源をオンにしてください。SMS の `showboards(1M)` コマンドを使用して、`showboards` コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード温度規則 (scBTemp)

ボード温度規則は、ボードの温度が表 6-27 に示すしきい値範囲内になった場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-27 プラットフォーム構成リーダー - ボード温度規則

| 温度しきい値 | アラームレベル | 意味 |
|---------------|---------|--------------------------|
| Low Critical | 重大 | 温度が、Sun の設定した重大の低温範囲内。 |
| Low Warning | 警告 | 温度が、Sun の設定した警告の低温警告範囲内。 |
| High Warning | 注意 | 温度が、Sun の設定した注意の高温範囲内。 |
| High Critical | 警告 | 温度が、Sun の設定した重大の高温範囲内。 |
| Over Limit | 重大 | 温度が、Sun の設定したしきい値範囲外。 |

対処法:

- Low Critical、High Critical、Over Limit アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。
- Low Warning、High Warning アラームの場合は、Sun に温度をしきい値範囲内に戻す方法を問い合わせてください。

SMS の showenvironment(1M) コマンドを使用して、showenvironment コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ボード電圧規則 (scBVolt)

ボード電圧規則は、ボードの電圧が表 6-28 に示すしきい値範囲内になった場合に重大アラームを生成します。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-28 プラットフォーム構成リーダー - ボード電圧規則

| 電圧しきい値 | アラームレベル | 意味 |
|--------------|---------|-----------------------|
| Low Minimum | 重大 | 電圧が、Sun の設定した最低電圧範囲内。 |
| High Maximum | 重大 | 温度が、Sun の設定した最高電圧範囲内。 |

対処法: Low Minimum、High Minimum アラームの場合、SMS は適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。SMS の showenvironment(1M) コマンドを使用して、showenvironment コマンドの出力と Sun Management Center テーブルに示される値に矛盾がないか確認してください。

ドメイン停止および記録停止規則 (scStop)

ドメイン停止および記録停止規則は、ドメインの停止とドメインに関する記録の停止を検査し、いずれかの回数がゼロを超えたときアラームを生成します (表 6-29)。ドメイン停止および記録停止回数は、プラットフォームエージェントが再起動されるか、アラームが確認されるとゼロに設定されます。

表 6-29 プラットフォーム構成リーダー - ドメイン停止および記録停止規則

| 停止回数 | アラームレベル | 意味 |
|------|---------|---------------------------------|
| 0 | | ドメイン停止および記録停止回数のいずれか一方または両方がゼロ。 |
| >0 | 注意 | 記録停止回数が 1 回以上。 |
| >0 | 重大 | ドメイン停止回数が 1 回以上。 |

対処法:

- 記録停止回数が 1 回以上のときの注意アラームは注意を促すだけであり、エラーではありません。ドメインは依然動作を続けています。必要に応じて、適切な記録停止のダンプを Sun に提供し、分析を依頼してください。記録停止のダンプは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。
- ドメイン停止エラーが発生し、重大アラームが生成された場合、SMS ソフトウェアは適切な自動システム回復 (ASR) 処理を行います。Sun にドメイン停止ダンプを提供し、分析を依頼してください。ドメイン停止のダンプは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/dump` にあります。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。

HPCI カセット規則 (scHPCId)

ホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセット規則は、PCI スロットの状態が UNKNOWN、BAD SLOT、BAD CARD のいずれかの場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-30)。HPCI カセットの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-30 プラットフォーム構成リーダー - HPCI カセット規則

| OK/BAD/UNKNOWN 状態 | アラームレベル | 意味 |
|-------------------|---------|-------------|
| GOOD | | スロットの状態は良好。 |
| UNKNOWN | 注意 | スロットの状態は不明。 |
| BAD SLOT | 重大 | スロットの状態が不良。 |
| BAD CARD | 重大 | カードが不良。 |

対処法:

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、Sun に問い合わせください。
- 重大アラームの場合は、Sun に連絡してください。

フェイルオーバー状態規則 (scFoStat)

フェイルオーバー状態規則は、現在のフェイルオーバーの状態が ACTIVE 以外の場合に注意または重大アラームを生成します (表 6-31)。

表 6-31 プラットフォーム構成リーダー - フェイルオーバー状態規則

| フェイルオーバー状態 | アラームレベル | 意味 |
|------------|---------|---------------------------|
| ACTIVATING | | フェイルオーバーが開始され有効になろうとしている。 |
| ACTIVE | | フェイルオーバーが有効。 |
| DISABLED | 注意 | フェイルオーバーが無効。 |
| FAILED | 重大 | 問題があり、フェイルオーバーできない。 |

対処法:

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。フェイルオーバーは、SMS の `setfailover(1M)` コマンドを使って有効にできます。
- 重大アラームは、少なくとも 1 つ問題が発生し、そのためにフェイルオーバーが機能しないことを意味します。問題の詳細情報は、SMS の `showfailover(1M)` を使って入手できます。 `/var/opt/SUNWSMS/adm/platform/messages` 内の SMS プラットフォームログファイルで SMS `fomd` プロセスからのメッセージを調べることができます。

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則 (scOBURul)

OK/BAD/UNKNOWN 状態規則は、コンポーネントが BAD または UNKNOWN 状態の場合に重大または注意アラームを生成します (表 6-32)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフの場合、アラームは生成されません。

表 6-32 プラットフォーム構成リーダー - OK/BAD/UNKNOWN 状態規則

| OK/BAD/UNKNOWN 状態 | アラームレベル | 意味 |
|-------------------|---------|----------------------|
| OK | | コンポーネントは正常な動作状態。 |
| BAD | 重大 | コンポーネントは動作不可能な状態。 |
| UNKNOWN | 注意 | コンポーネントの動作状態を判定できない。 |

対処法:

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。状態が UNKNOWN の理由を確認するには、Sun に問い合わせてください。
- 重大アラームの場合は、Sun に連絡してください。

OK/FAIL 規則 (scOkFail)

OK/FAIL 規則は、コンポーネントに障害あることが検出された場合に重大アラームを生成します (表 6-33)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-33 プラットフォーム構成リーダー - OK/FAIL 規則

| OK/FAIL 状態 | アラームレベル | 意味 |
|------------|---------|---------------|
| OK | | コンポーネントは正常。 |
| FAIL | 重大 | コンポーネントに問題あり。 |

対処法: 重大アラームの場合は、Sun に連絡してください。

ON/OFF 規則 (scOnOff)

ON/OFF 規則は、コンポーネントの電源がオフの場合に注意アラームを生成します (表 6-34)。そのコンポーネントが含まれているコンポーネントの電源がオフか、FAIL 状態の場合、アラームは生成されません。

表 6-34 プラットフォーム構成リーダー - ON/OFF 規則

| ON/OFF 状態 | アラームレベル | 意味 |
|-----------|---------|-------------|
| ON | | コンポーネントはオン。 |
| OFF | 注意 | コンポーネントはオフ。 |

対処法: 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。アラームの理由と対処法は、コンポーネントの種類によって異なります。

- コンポーネントがファントレーか電源装置の場合は、SMS の poweron(1M) コマンドを使ってコンポーネントの電源をオンにすることができます。
- コンポーネントがプロセッサの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、自動システム回復 (ASR) のために、SMS ソフトウェアによって、プロセッサの電源がオフにされています。
- コンポーネントが HPCI カセットの場合は、ボードの電源がオフである可能性があります。それ以外の場合は、カセットが空です (カードが装着されていない)。

POST 状態規則 (scPOST)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OK 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-35)。

表 6-35 プラットフォーム構成リーダー - POST 状態規則

| POST 状態 | アラームレベル | 意味 |
|---------------|---------|------------------------|
| OK | | POST 状態は問題なし。 |
| UNKNOWN | 注意 | POST 状態は不明。 |
| BLACKLISTED | 注意 | コンポーネントは要注意リストに載っている。 |
| REDLISTED | 注意 | コンポーネントは使用禁止リストに載っている。 |
| NO_LICENSE | 注意 | コンポーネントに COD ライセンスがない。 |
| DISABLED | 警告 | コンポーネントが使用不可。 |
| UNDEFINED | 警告 | コンポーネントは定義されていない。 |
| MISCONFIGURED | 警告 | コンポーネントは正しく構成されていない。 |
| FAIL-OBP | 重大 | コンポーネントの OBP に問題あり。 |
| FAIL | 重大 | コンポーネントの POST に失敗。 |

対処法:

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者または Sun に問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。Sun に連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

電源装置遮断器規則 (scBreakr)

電源装置遮断器規則は、電源装置の回路遮断器が OPEN の場合に注意アラームを生成します (表 6-36)。注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。

表 6-36 プラットフォーム構成リーダー - 電源装置遮断器規則

| 電源装置の遮断器の状態 | アラームレベル | 意味 |
|-------------|---------|--------------|
| CLOSE | | 回路遮断器は閉じている。 |
| OPEN | 注意 | 回路遮断器は開いている。 |

システムボード DR 状態規則 (scDrStat)

システムボード DR 状態規則は、システムボードの動的再構成 (DR) 状態が UNKNOWN の場合に注意アラームを生成します (表 6-37)。

表 6-37 プラットフォーム構成リーダー - システムボードの DR 状態規則

| DR 状態 | アラームレベル | 意味 |
|----------|---------|-----------------------|
| FREE | | ボードは使用されていない。 |
| ASSIGNED | | ボードはドメインに割り当てられている。 |
| ACTIVE | | ボードはドメインでアクティブになっている。 |
| UNKNOWN | 注意 | 動的再構成状態は不明。 |

対処法: 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。UNKNOWN 状態はボードが使用されていないのと同じことです。SMS の showboards(1M) コマンドを使用すると、UNKNOWN 状態のボードが**使用可能**になっていることが分かります。

システムボードのテスト状態規則 (scBTest)

システムボードのテスト状態規則は、状態が DEGRADED の場合に注意アラーム、状態が FAILED の場合に重大アラームを生成します (表 6-38)。ボードの電源がオンまたはオフの場合、SMS ソフトウェアが必ず自動的にテスト状態を UNKNOWN に設定します。この状態はまた、ボードがドメインに構成されていないことも意味します。ボードがドメインに構成されると、POST が実行されて適切なテスト状態が返されます。

表 6-38 プラットフォーム構成リーダー - システムボードのテスト状態規則

| テストの状態 | アラームレベル | 意味 |
|-----------------|---------|------------------|
| PASSED | | POST にパス。 |
| UNKNOWN | | POST 状態は不明。 |
| IPOST (in POST) | | POST の実行中。 |
| DEGRADED | 注意 | POST 状態は機能縮小モード。 |
| FAILED | 重大 | POST に不合格。 |

対処法: アラームの理由とその対処法は、テスト状態の内容によって異なります。

- テスト状態が DEGRADED で注意アラームが生成されても、エラーではありません。単に注意を促すことを目的にしています。
- テスト状態が FAILED で重大アラームが発生した場合は、ボードに何らかの問題があります。Sun に連絡してください。

詳細は、POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNSWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

ドメインの状態のアラーム規則 (scDmnSt)

ドメインの状態規則は、ドメインの起動、通常稼働、エラー回復中のドメインの上に基づいてアラームを生成します (表 6-39)。

表 6-39 プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則

| ドメインの状態 | アラームレベル | 意味 |
|---------------------|---------|---|
| Booting OBP | | ドメインの OpenBoot PROM が起動中。 |
| Booting Solaris | | ドメインが Solaris オペレーティングシステムソフトウェアを起動中。 |
| Keyswitch Standby | | ドメインのキースイッチが STANDBY (スタンバイ) 位置。 |
| Loading OBP | | ドメインの OpenBoot PROM の読み込み中。 |
| Loading Solaris | | OpenBoot PROM が Solaris オペレーティングシステムソフトウェアの読み込み中。 |
| Powered Off | | ドメインの電源が切断されている。 |
| Running Domain POST | | ドメインの電源投入時セルフテストの実行中。 |

表 6-39 プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則 (続き)

| ドメインの状態 | アラームレベル | 意味 |
|-----------------------------|---------|---|
| Running OBP | | ドメインの OpenBoot PROM の実行中。 |
| Running Solaris | | ドメインで Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが動作中。 |
| Solaris Quiesce In-progress | | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが休止中。 |
| Solaris Quiesced | | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが休止。 |
| Debugging Solaris | 注意 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアのデバッグ中。ハングアップ状態ではない。 |
| Domain Exited OBP | 注意 | ドメインの OpenBoot PROM が終了した。 |
| Exited OBP | 注意 | OpenBoot PROM が終了した。 |
| In OBP Callback | 注意 | ドメインが停止し、OpenBoot PROM に戻った。 |
| OBP Debugging | 注意 | OpenBoot PROM をデバッグとして使用中。 |
| OBP in sync Callback to OS | 注意 | OpenBoot PROM が Solaris オペレーティングシステムソフトウェア同期コールバック中。 |
| Solaris Halt | 注意 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが停止している。 |
| Solaris Halted, in OBP | 注意 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが停止し、ドメインが OpenBoot PROM モード。 |
| Solaris Quiesce In-progress | 注意 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが再開中。 |
| Domain Down | 警告 | ドメインが停止し、setkeyswitch が ON、DIAG、SECURE 位置のいずれか。 |
| In Recovery | 警告 | ドメインが自動システム回復中。 |
| Solaris Exited | 警告 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが終了した。 |
| Solaris Panic | 警告 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアでパニックが発生し、パニックフロー処理が開始された。 |
| Solaris Panic Continue | 警告 | デバッグモードを終了し、パニックフロー処理を続行中。 |
| Solaris Panic Debug | 警告 | Solaris オペレーティングシステムソフトウェアでパニックが発生し、デバッグモードになろうとしている。 |
| Solaris Panic Dump | 警告 | パニックのダンプが開始された。 |

表 6-39 プラットフォーム構成リーダー - ドメインの状態アラーム規則 (続き)

| ドメインの状態 | アラームレベル | 意味 |
|---------------------------|---------|--|
| Solaris Panic Exit | 警告 | パニックの結果、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアが終了した。 |
| Booting Solaris Failed | 重大 | OpenBoot PROM の動作中に起動に失敗した。 |
| Environmental Domain Halt | 重大 | 環境の緊急事態発生のためドメインが停止させられた。 |
| Environmental Emergency | 重大 | 環境の緊急事態が検出された。 |
| In OBP Error Reset | 重大 | ドメインがエラーによる reset で OpenBoot PROM モード。 |
| Loading Solaris Failed | 重大 | OpenBoot PROM の動作中に読み込みに失敗した。 |
| OBP Failed | 重大 | ドメインの OpenBoot PROM で問題が発生した。 |
| Unknown | 重大 | ドメインの状態を判定できなかった。また、Ethernet アドレスの場合は、ドメインの idprom イメージファイルが存在しない。Sun に連絡してください。 |

対処法: エラーが発生し、アラームが生成されると、SMS ソフトウェアによって適切な自動システム回復 (ASR) 処理が行われます。ただし、ドメインのハードウェアが安全で適切な処理に必要な条件を満たさないことがあり、その場合、回復することはできません。この場合は、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。回復できない場合に、ただちに取りべき対処法とイベントログファイルの入手先について説明しています。Sun に連絡して、必要なログファイル情報を提供してください。

ドメインのバス構成規則 (scBusCfg)

ドメインのバス構成規則は、アドレス、データ、または応答バスが構成されていないか (UNCONFIGURED)、機能縮小モード (CSB0 か CSB1) の場合に警告アラームを生成します。言い替えば、この規則は、バスが両方の CSB を使用するように構成されていない場合にアラームを生成します (表 6-40)。

表 6-40 プラットフォーム構成リーダー - ドメインのバス構成規則

| バス構成 | アラームレベル | 意味 |
|--------------|---------|------------------|
| BOTH | | バスは両方の CSB を使用中。 |
| CSB0 | 警告 | バスが機能縮小モード。 |
| CSB1 | 警告 | バスが機能縮小モード。 |
| UNCONFIGURED | 警告 | バスが構成されていない。 |

対処法: Sun に連絡して、バスを正しく構成してください。

障害イベント規則 (faultEventRuleProc)

障害イベント規則は、障害イベントテーブルにエントリが追加された場合に警告アラームを生成します (表 6-23)。同じ情報がアラームテーブルに表示されます。アラームテーブルでアラームを確認すると、障害イベントは障害イベントテーブルから自動的に削除されます。アラームテーブルおよびアラームの管理と制御についての詳細な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』の第 12 章を参照してください。

ドメイン構成リーダーモジュール

ドメイン構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、読み込み解除することができます。

図 6-2 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems Domain) - を表しています。

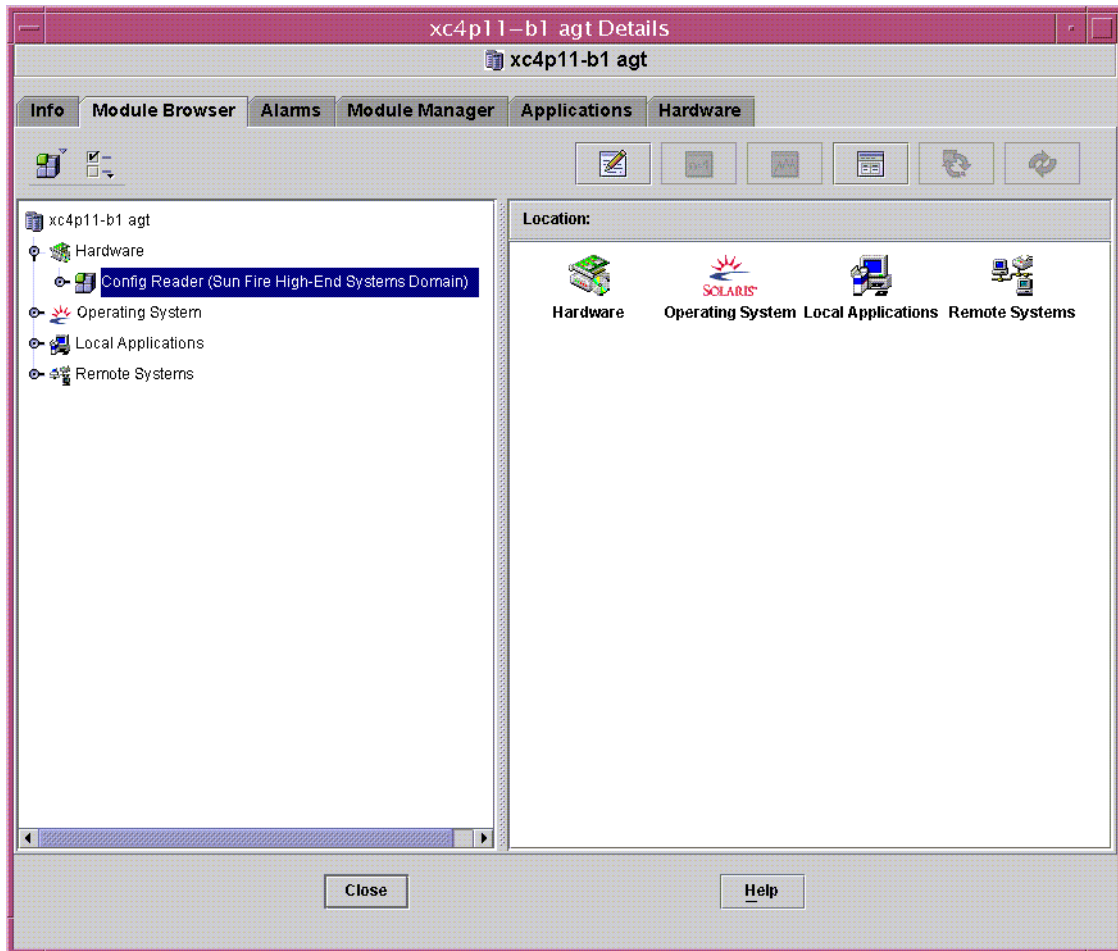


図 6-2 ドメイン構成リーダーモジュール

構成が多数の外部ディスクからなるときの注意事項

多数の外部ディスクからなる構成 (たとえば 5,000 を超えるディスクの構成) の場合に、ドメインエージェントが起動しないことがあります。その場合は、`agent-stats-d.def` ファイルを編集してから、そのドメイン上でドメインエージェントを起動してください。その後で、生成されるアラームに対する属性を変更します。この変更によって、重大アラーム (赤) ではなく、警告アラーム (黄色) が返されるようになります。

その場合は、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで 2 つの作業が必要になります。

1. agent-stats-d.def ファイルの編集
2. そのドメインの Sun Management Center グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) の 2 つのアラーム属性の変更

▼ agent-stats-d.def ファイルを編集する

/var/opt/SUNWsymon/cfg/agent-stats-d.def ファイルに対して次の操作を行います。

1. procstats:size:alarmlimit:error-gt を 500000 に変更します。
2. procstats:size:alarmlimit:warning-gt を 250000 に変更します。
3. procstats:rss:alarmlimit:warning-gt を 250000 に変更します。

▼ ドメインのアラーム属性を変更する

1. Sun Management Center GUI の階層表示で、変更するドメインをダブルクリックします。
2. 「ローカルアプリケーション」をダブルクリックします。
3. 「エージェント統計情報」をダブルクリックします。
4. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」をダブルクリックします。
5. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」テーブル内の「総仮想サイズ (KB)」の値を右クリックします。
6. プルダウンメニューの「属性エディタ」を選択します。
7. 「アラーム」タブをクリックします。
8. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
9. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
10. 「適用」ボタンをクリックします。
11. 「Sun Management Center の総プロセス統計情報」テーブル内の「総仮想セットサイズ (KB)」の値上で右クリックします。
12. プルダウンメニューの「属性エディタ」を選択します。

13. 「アラーム」タブをクリックします。
14. 「重大のしきい値」テキストボックスの値を 500000 に変更します。
15. 「警告のしきい値」テキストボックスの値を 250000 に変更します。
16. 「適用」ボタンをクリックします。

ドメイン構成リーダーモジュールの再表示間隔

ドメイン構成リーダーモジュールは、30 分おきにすべてのテーブルを完全に再表示します。

また、ドメイン構成リーダーモジュールは、内部キャッシュにプラットフォーム情報を格納します。この情報の収集、再表示方法は次のいずれかです。

- 2 分間隔でディスクハードウェアとソフトウェア、トランスポートエラー回数、プロセッサ状態 (オンラインかオフライン) に変化がないか検査します。ユーザーが Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの再表示間隔値を変更することはできません。
- イベントモジュールは、DR 操作が発生するたびにドメイン構成リーダーにそのことを通知します。これは、ボードまたはコンポーネントに変化があり、その情報が内部キャッシュに格納されていることを意味します。

ブラウザでこのモジュールのデータを表示する際は、ただちにデータを再表示するよう要求できます。

▼ ドメイン構成リーダーのデータを再表示する

1. ドメインの詳細ウィンドウを開いて、「モジュールブラウザ」タブを選択します。
2. 「システム」フォルダから任意の属性を選択し、そのデータを再表示します。
ドメイン構成リーダーが内部キャッシュのデータで再表示します。
3. 「システム」フォルダに含まれていない情報を表示するには、「ブラウザ」からその属性を選択し、データを再表示します。
内部キャッシュにあるその属性の最新値でブラウザの表示が更新されます。

ドメイン構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。ドメイン構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-41)。

表 6-41 ドメイン構成リーダー - システム

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|-----------|--|
| ノード名 | | システム |
| ホスト名 | | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインのホスト名 |
| ホスト ID | | ホストの識別番号 |
| オペレーティングシステム | | Sun Fire ハイエンドシステムのドメインで動作しているオペレーティング環境 |
| OS のバージョン | | 動作しているオペレーティング環境のバージョン |
| アーキテクチャー | | マシンのアーキテクチャー |
| 最終更新 | | この構成情報の最終更新日時 |
| 総ディスク数 | | ドメインに存在するディスク数 |
| 総メモリー容量 | | 総メモリー容量 (メガバイト単位) |
| 総プロセッサ数 | | ドメインに割り当てられている全プロセッサを含むプロセッサ数 |
| 総テープデバイス数 | | ドメインに存在するテープデバイス数 |

CPU/メモリーボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの CPU/メモリーボードの属性をまとめています (表 6-42)。

表 6-42 ドメイン構成リーダー - CPU/メモリーボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|--|
| CPU ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の CPU/メモリーボードの識別子: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードのタイプ | | CPU ボードのタイプの識別子: CPU |
| メモリーサイズ | | このボードの全 CPU 用の総メモリー容量 |

表 6-42 ドメイン構成リーダー - CPU/メモリーボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|--------------|--|
| メモリーコントローラ | | この CPU/メモリーボード上のメモリーコントローラの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| メモリーバンク | | この CPU/メモリーボード上のメモリーバンクの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py/Bz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、z はメモリーバンク番号 (0 か 1)。 |
| プロセッサリスト | | この CPU/メモリーボード上のプロセッサの識別子の、コンマ区切りのリスト: SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告された CPU/メモリーボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |

入出力ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) またはホットスワップ対応 PCI プラス (HPCI+) ボードの属性をまとめています (表 6-43)。

表 6-43 ドメイン構成リーダー - 入出力ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------|--------------|---|
| 入出力 ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の HPCI ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードのタイプ | | HPCI ボードのタイプ識別子: HPCI か HPCI+ |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告された HPCI ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |
| HPCI カード数 | | このボード上の HPCI カードの識別子の、コンマ区切りのリスト: IOx/Cy/Vz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1) |

WPCI ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの Sun Fire Link PCI (WPCI) ボードの属性をまとめています (表 6-44)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-44 ドメイン構成リーダー - WPCI ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|--------------|---|
| WPCI ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の WPCI ボードの識別子 : WPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードのタイプ | | WPCI ボードのタイプの識別子 : WPCI |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告された WPCI ボードの接続点の状態 : OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |
| HPCI/Paroli カード | | この WPCI ボード上の HPCI カードと Paroli カードの、コンマ区切りの識別子リスト。HPCI カードの識別子は IOx/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1)。Paroli カードの識別子は IOx/PARy の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y は Paroli カードの番号 (0 か 1)。 |

MaxCPU ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの MaxCPU ボードの属性をまとめています (表 6-45)。

表 6-45 ドメイン構成リーダー - MaxCPU ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| MCPU ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の MaxCPU ボードの識別子 : MCPU (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードのタイプ | | ボードのタイプの識別子 : MCPU |

表 6-45 ドメイン構成リーダー - MaxCPU ボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|--------------|---|
| プロセッサ リスト | | この MaxCPU ボード上のプロセッサの識別子の、コマ区切りのリスト: CPU (SBx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告された MaxCPU ボードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |

HPCI カード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのホットスワップ対応 PCI (HPCI) カセットの属性をまとめています (表 6-46)。1 つの HPCI カセットに 2 枚の HPCI カードを装着できます。

表 6-46 ドメイン構成リーダー - HPCI カード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|--------------|--|
| CARD ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の HPCI カードの識別子: FUI ID は 3.3V カードの場合は c3v、5V カードの場合は c5v。スロット ID は IOx/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1) |
| デバイスタイ プ | | この HPCI カードのデバイスタイプの識別子: network、scsi-fcp、fcml など |
| デバイスクラ ス | | この HPCI カードのデバイスクラス: Mass Storage Controller, SCSI、Network Controller, Ethernet、Network Controller, FDDI、Network Controller, ATM など |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告された HPCI カードの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |
| 名前 | | この HPCI カードの Sun 名称: SUNW, qlc、SUNW, qfe、SUNW, hme、network など |
| メーカー | | この HPCI カードのメーカー |
| モデル | | この HPCI カードのモデル識別子 |

表 6-46 ドメイン構成リーダー - HPCI カード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------|-----------|----------------------|
| バージョン | | この HPCI カードのバージョン |
| リビジョン ID | | この HPCI カードのリビジョン識別子 |
| ベンダー ID | | この HPCI カードのベンダー識別子 |

Paroli カード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの並列光リンク (Paroli) カードの属性をまとめています (表 6-47)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 - Paroli カードの有無は、ドメインが構成済みの Sun Fire Link クラスタの一部である場合にのみ判定することができます。ドメインが構成済み Sun Fire Link クラスタの一部でない場合には、Paroli カードテーブルには何も表示されません。ドメインに Paroli カードがないという意味ではありません。

表 6-47 ドメイン構成リーダー - Paroli カード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| CARD ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の Paroli カードの識別子 : PARS (IOx/PARy) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> は Paroli カード番号 (0 か 1) |
| タイプ | | Paroli カードのタイプの識別子 : DUAL か SINGLE |
| リンク番号 | | Paroli カードのリンク番号 : 0、1、2 のいずれか |
| リンクの妥当性 | scLnkVld | Paroli カードリンクの妥当性 : VALID か INVALID |
| リンク状態 | scLnkSt | Paroli カードのリンクの状態 : LINK UP、LINK DOWN、LINK NOT PRESENT、WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN、WAIT FOR SC LINK UP、SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN、UNKNOWN のいずれか |
| 遠隔リンク番号 | | 遠隔リンク番号 |
| 遠隔ポート ID | | リンクの遠隔側のポート ID |
| 遠隔クラスタメンバー | | リンクの遠隔側のドメインのホスト名 |

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-48)。

表 6-48 ドメイン構成リーダー - プロセッサ

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------|--------------|---|
| プロセッサ ID | | ID (スロット ID) 形式のプロセッサの識別子 : PROC (SBx/Py) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| プロセッサ番号 | | プロセッサ番号か、このプロセッサに割り当てられているポート ID |
| モジュールリビジョン | | プロセッサモジュールのリビジョン番号 |
| モジュールタイプ | | プロセッサモジュールのタイプの識別子 |
| メーカー | | プロセッサのメーカーの識別子 |
| SPARC® バージョン | | SPARC のバージョン識別子 |
| クロック周波数 (MHz) | | プロセッサの、メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数。整数値に切り上げられる |
| I キャッシュサイズ (K バイト) | | キロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ |
| D キャッシュサイズ (K バイト) | | キロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ |
| E キャッシュサイズ (K バイト) | | キロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ |
| 状態 | scCPUStatus | プロセッサの現在の状態 : ONLINE、OFFLINE、POWEROFF、UNKNOWN のいずれか |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告されたプロセッサの接続点の状態 : OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |

メモリーコントローラ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのメモリーコントローラの属性をまとめています (表 6-49)。

表 6-49 ドメイン構成リーダー - メモリーコントローラ

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|--------------|---|
| メモリーコントローラ ID | | ID (スロット ID) 形式のメモリーコントローラの識別子: MEMCTRL(SBx/Py) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| メモリーバンクリスト | | メモリーバンクのスロット ID の、コンマ区切りの識別子リスト: SBx/Py/Bz の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1) |
| 状態 | scStateCheck | cfgadm から報告されたメモリーコントローラの接続点の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか |
| 最終変更 | | 最終変更の日時、または UNKNOWN |

メモリーバンク

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのメモリーバンクの属性をまとめています (表 6-50)。

注 - このテーブルには、存在しないメモリーバンクのエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-50 ドメイン構成リーダー - メモリーバンク

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| メモリーバンク ID | | ID (スロット ID) 形式のメモリーバンクの識別子: MEMBANK(SBx/Py/Bz) の形式で、 <i>x</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>y</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>z</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1) |
| メモリーサイズ | | このメモリーバンクのメガバイト単位のメモリーサイズ |
| DIMM リスト | | このメモリーバンク上の DIMM の識別子の、コンマ区切りのリスト: DIMM(SBw/Px/By/Dz) の形式で、 <i>w</i> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <i>x</i> はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、 <i>y</i> は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、 <i>z</i> は DIMM 番号 (0 ~ 3) |

表 6-50 ドメイン構成リーダー - メモリーバンク (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------------|--------------|---|
| 論理バンク 0 の POST 状態 | scPOSTStatus | 論理メモリーバンク 0 の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、MISSING のいずれか |
| 論理バンク 1 の POST 状態 | scPOSTStatus | 論理メモリーバンク 1 の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、MISSING のいずれか |
| プロセッサ ID | | このメモリーバンクのプロセッサの識別子 : SBx/Py の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、y はプロセッサ番号 (0 ~ 3) |
| SEEPROM ID | | SEEPROM の識別子 : 現在は -- |

DIMM

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの DIMM (Dual Inline Memory Module) の属性をまとめています (表 6-51)。

注 - このテーブルには、存在しない DIMM のエントリが含まれることがあります。その場合、エントリの POST の状態属性は DISABLED になります。

表 6-51 ドメイン構成リーダー - DIMM

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|--------------|--|
| DIMM ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の DIMM の識別子 : DIMM(SBw/Px/By/Dz) の形式で、w はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、x はプロセッサ番号 (0 ~ 3)、y は物理メモリーバンク番号 (0 か 1)、z は DIMM 番号 (0 ~ 3) |
| メモリーサイズ | | DIMM のキロバイト (K バイト) 単位のメモリーサイズ |
| SEEPROM ID | | SEEPROM の識別子 : 現在は -- |
| POST 状態 | scPOSTStatus | DIMM の POST 状態 : UNKNOWN、OKAY、DISABLED、UNDEFINED、MISCONFIGURED、FAIL-OBP、FAIL、BLACKLISTED、REDLISTED、MISSING のいずれか |
| ECC メモリーエラー数 | scDimmErrCnt | この DIMM のエラー訂正コード (ECC) メモリーエラー数 |

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-52)。

表 6-52 ドメイン構成リーダー - ディスクデバイス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|--------------------------|--|
| ディスク ID | | ディスクデバイスの識別子: <code>disk(ctydz)</code> の形式で、 <code>x</code> は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、 <code>y</code> はターゲット番号、 <code>z</code> は論理装置番号 (<code>c0t64d0</code>) など。ディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される。 |
| カード ID | | カードの識別子: <code>IOx/CyVz</code> の形式で、 <code>x</code> はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、 <code>y</code> はカードの電圧 (3 か 5)、 <code>z</code> は PCI コントローラ番号 (0 か 1) |
| 格納装置名 | | <code>luxadm</code> から報告された格納装置の識別子か、--。詳細は、『特記事項: <code>luxadm</code> ソフトウェア』を参照。 |
| パス | | ディスクデバイスへの物理的なパス |
| ブロックサイズ | | ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ |
| ブロック数 | | ファイルシステムに割り当てられているブロック数 |
| 使用可能なブロック数 | | ファイルシステムで使用可能なブロック数 |
| ファイル数 | | ファイルシステムに存在するファイル数 |
| 使用可能なファイル数 | | ファイルシステムで使用可能なファイル数 |
| 状態 | | このディスクの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ |
| ハードウェアエラー数 | <code>scDskErrCnt</code> | ハードウェア関連のエラー数 |
| ソフトウェアエラー数 | <code>scDskErrCnt</code> | ソフトウェア関連のエラー数 |
| トランスポートエラー数 | <code>scDskErrCnt</code> | トランスポート関連のエラー数 |

テープデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのテープデバイスの属性をまとめています (表 6-53)。

表 6-53 ドメイン構成リーダー - テープデバイス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-------------|---|
| テープ ID | | テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子 |
| カード ID | | カードの識別子: IOx/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z はこのカードがある PCI コントローラ (0 か 1) |
| パス | | テープデバイスへの物理的なパス |
| デバイス名 | | このテープデバイスの識別名: Exabyte 4mm、QIC 8mm archive など。名前の長さは最大で半角 64 文字。 |
| 状態 | | このテープデバイスの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ |
| テープエラー数 | scTpeErrCnt | syslog ファイルに記録されたテープエラー数 |

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-54)。

表 6-54 ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|---|
| ネットワーク ID | | ネットワークインタフェースの識別子: network(dman0)、network(qfe0) など |
| カード ID | | カードの識別子: IOx/CyVz の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、y はカードの電圧 (3 か 5)、z は PCI コントローラ番号 (0 か 1) |
| 記号名 | | このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名 |
| Ethernet アドレス | | このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス |

表 6-54 ドメイン構成リーダー - ネットワークインタフェース (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------|-----------|---|
| IP アドレス | | このネットワークインタフェースの IP アドレス |
| 状態 | | このネットワークインタフェースの状態 : OK か空白 |
| ネットワークエラー | | このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ。 |

WCI

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン構成リーダーの Sun Fire Link インタフェース (WCI) の属性をまとめています (表 6-55)。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 6-55 ドメイン構成リーダー - WCI

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|----------|-----------|--|
| WCI ID | | FRU ID(スロット ID) の形式の Sun Fire Link インタフェースの識別子 : WCI (IOx/WCI) の形式で、x は WCI がある拡張スロットの番号 |
| 名前 | | ドライバまたはデバイス名 : SUNW, wci |
| 互換 | | WCI と互換性があるドライバ : wrsm か wssm |
| Paroli 数 | | 並列光通信数 |

ドメイン構成リーダーのアラーム規則

この節では、ドメイン構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。これらアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

CPU 状態規則 (scCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-56)。注意アラームは注意を促すためだけで、エラーではありません。

表 6-56 ドメイン構成リーダー - CPU 状態規則

| CPU 状態 | アラームレベル | 意味 |
|----------|---------|-------------|
| ONLINE | | CPU はオンライン。 |
| OFFLINE | 注意 | CPU はオフライン。 |
| POWEROFF | | CPU の電源がオフ。 |
| UNKNOWN | | POST 状態は不明。 |

対処法: `psradm(1M)` で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

DIMM エラー数規則 (scDimmErrCnt)

DIMM エラー数規則は、メモリーモジュールで発生した誤り訂正コード (ECC) エラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-57)。

表 6-57 ドメイン構成リーダー - DIMM エラー数規則

| エラー数 | アラームレベル | 意味 |
|------|---------|---------------------------|
| 5 | 注意 | ECC メモリーエラー数が 5 個を超えている。 |
| 10 | 警告 | ECC メモリーエラー数が 10 個を超えている。 |
| 15 | 重大 | ECC メモリーエラー数が 15 個を超えている。 |

対処法: 技術者にメモリーモジュールのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

ディスクエラー数規則 (scDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-58)。

表 6-58 ドメイン構成リーダー - ディスクエラー数規則

| エラー数 | アラームレベル | 意味 |
|------|---------|---|
| 5 | 注意 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。 |
| 10 | 警告 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。 |
| 15 | 重大 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。 |

対処法: 技術者にディスクのテストを依頼してください。

POST 状態規則 (scPOSTStatus)

電源投入時セルフテスト (POST) 状態規則は、POST 状態が OKAY 以外の場合に注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-59)。

表 6-59 ドメイン構成リーダー - POST 状態規則

| POST 状態 | アラームレベル | 意味 |
|---------------|---------|------------------------|
| OKAY | | POST 状態は問題なし。 |
| UNKNOWN | 注意 | POST 状態は不明。 |
| BLACKLISTED | 注意 | コンポーネントは要注意リストに載っている。 |
| REDLISTED | 注意 | コンポーネントは使用禁止リストに載っている。 |
| DISABLED | 警告 | コンポーネントが使用不可。 |
| UNDEFINED | 警告 | コンポーネントは定義されていない。 |
| MISCONFIGURED | 警告 | コンポーネントは正しく構成されていない。 |
| FAIL-OBP | 重大 | コンポーネントの OBP に問題あり。 |
| FAIL | 重大 | コンポーネントの POST に失敗。 |

対処法:

- 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。詳細は、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。
- 警告アラームは必ずしも問題があることを示すわけではありませんが、発生した場合は、システム管理者または Sun に問題が発生する可能性があることを伝えてください。
- 重大アラームは問題があることを示します。Sun に連絡してください。

詳細は、システムコントローラ上の POST ログファイルを調べてください。POST ログファイルは、`/var/opt/SUNWSMS/adm/[A-R]/post` にあります。

状態検査規則 (scStateCheck)

状態検査規則は、`cfgadm(1)` から報告されるボード、CPU、メモリーコントローラの接続点の状態が OK 以外の場合に注意アラームを生成します (表 6-60)。

表 6-60 ドメイン構成リーダー - 状態検査規則

| 状態 | アラームレベル | 意味 |
|---------|---------|---------------------------------------|
| OK | | <code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は正常。 |
| UNKNOWN | 注意 | <code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不明。 |
| FAIL | 注意 | <code>cfgadm</code> から報告された接続点の状態は不良。 |

対処法: 状態が OK 以外の場合は、`cfgadm(1M)` を実行して、接続点の状態を二重に検査してください。システム管理者に連絡してください。

テープエラー数規則 (scTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-61)。

表 6-61 ドメイン構成リーダー - テープエラー数規則

| エラー数 | アラームレベル | 意味 |
|------|---------|---------------------|
| 10 | 注意 | テープエラー数が 10 を超えている。 |
| 20 | 警告 | テープエラー数が 20 を超えている。 |
| 30 | 重大 | テープエラー数が 30 を超えている。 |

対処法: 技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

リンクの状態規則 (scLnkSt)

リンク状態規則は、リンクの状態が LINK UP の場合にアラームを生成します (表 6-62)。

表 6-62 ドメイン構成リーダー - リンク 状態規則

| リンク状態 | アラームレベル | 意味 |
|-----------------------------|---------|----------------------|
| LINK UP | | リンクが動作中。 |
| LINK DOWN | 重大 | リンクが停止中。 |
| LINK NOT PRESENT | 注意 | リンクが存在しない。 |
| WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN | 警告 | SC のリンク停止待ち状態。 |
| WAIT FOR SC LINK UP | 警告 | SC のリンク起動待ち状態。 |
| SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN | 警告 | SC エラーで、SC のリンク停止状態。 |
| UNKNOWN | 重大 | リンク状態は不明。 |

対処法: 技術者を派遣して、問題を分析・解決してください。syslog に詳細情報が含まれています。

リンクの妥当性規則 (scLnkVld)

リンクの妥当性規則は、リンクの妥当性が INVALID の場合に警告アラームを生成します (表 6-63)。

表 6-63 ドメイン構成リーダー - リンクの妥当性規則

| リンクの妥当性 | アラームレベル | 意味 |
|---------|---------|------------|
| VALID | | リンクの設定が正当。 |
| INVALID | 警告 | リンクの設定が不正。 |

対処法: 導入時のトポロジによって異なりますが、設定上の問題は、ストライプ化やスイッチノード、コンピュータノード、パーティションで発生することがあります。技術者を派遣して、問題を分析・解決してください。syslog に詳細情報が含まれています。

SC 構成リーダーモジュール

Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステム上の CP1500 または CP2140 システムコントローラのハードウェア構成情報を提供します。このモジュールは、Sun Fire ハイエンドシステムのエージェントの設定中に自動的に読み込まれ、あとで読み込み解除することができます。

図 6-3 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - 構成リーダー (Sun Fire High-End Systems SC) - を表しています。

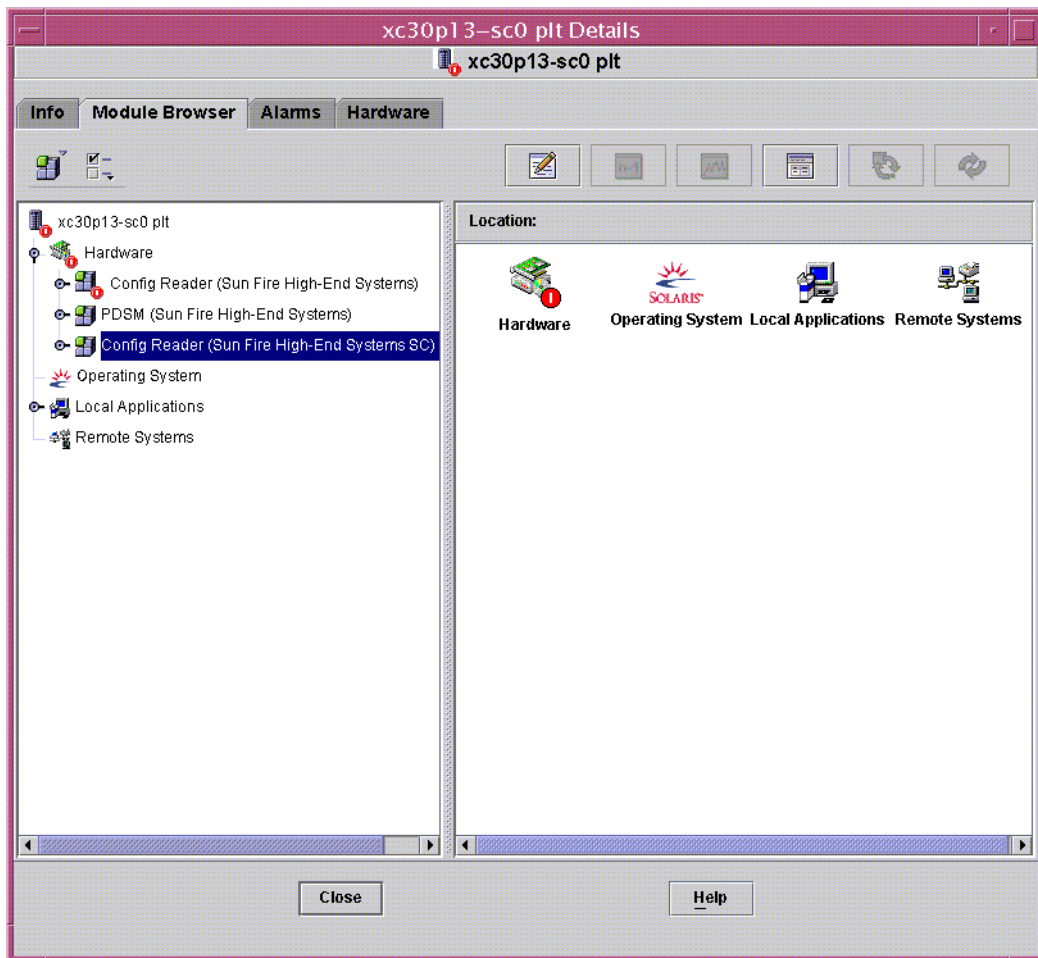


図 6-3 SC 構成リーダーモジュール

SC 構成リーダーの属性

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのオブジェクトごとに、表示可能な属性を表にまとめています。SC 構成リーダーが属性のデータを取得できなかった場合、属性値は -- になります。

システム

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのシステムの属性をまとめています (表 6-64)。

表 6-64 SC 構成 リーダー - システム

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------------|-----------|--|
| ノード名 | | システム |
| ホスト名 | | システムコントローラのホスト名 |
| ホスト ID | | システムコントローラのシリアル番号 |
| オペレーティングシステム | | システムコントローラ上で動作しているオペレーティング環境 |
| OS のバージョン | | 動作しているオペレーティング環境のバージョン |
| システムクロック周波数 (MHz) | | システムタイミングを供給しているクロックのメガヘルツ (MHz) 単位の周波数 |
| アーキテクチャー | | マシンのアーキテクチャー |
| 最終更新 | | 最後に更新が行われた日時 |
| 総ディスク数 | | このシステムコントローラに存在するディスク数 |
| 総メモリー容量 | | このシステムコントローラに存在するメモリーモジュールの、メガバイト (M バイト) 単位の総メモリー容量 |
| 総プロセッサ数 | | このシステムコントローラに存在するプロセッサ数 : 1 |
| 総テープデバイス数 | | このシステムコントローラに接続されているテープデバイス数 |

SC ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの CP1500 ボードか CP2140 ボード (システムコントローラ) 関連の属性をまとめています (表 6-65)。

表 6-65 SC 構成リーダー - CP1500/CP2140 ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------|-----------|--|
| SC ID | | FRU ID (ボード ID) 形式のシステムコントローラボードの識別子: CP1500 (CP31) か CP2140 (CP31) など |
| ボードのタイプ | | CP1500 または CP2140 |
| 電圧の状態 | cpBrdVolt | CP1500 ボードに対する入力電圧の状態: OK、FAIL、UNKNOWN のいずれか CP2140 ボードへの入力電圧の状態は UNKNOWN。 |
| メモリーモジュールリスト | | このボード上の 1 または 2 枚のメモリーモジュールの識別子: CP31/P0/MM0 など |
| プロセッサリスト | | このボード上のプロセッサの識別子: CP31/P0 など |
| リセット理由 | | 前回ハードウェアリセットのリセットタイプ: S-POR など |
| POST の結果 | | 電源投入時セルフテストの結果。前回リセット中に POST が実行されたかどうかを示されます。 |

プロセッサ

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのプロセッサの属性をまとめています (表 6-66)。

表 6-66 SC 構成リーダー - プロセッサ

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|------------|-----------|--|
| プロセッサ ID | | FRU ID (CPU ID) の形式のプロセッサの識別子: PROC (CP31/P0) など |
| プロセッサ番号 | | プロセッサの UPA (UltraSPARC Port Architecture) ポート ID |
| 温度 (°C) | cpCPUTemp | プロセッサの温度。温度を検出できない場合は -1。 |
| モジュールリビジョン | | このモジュールタイプのリビジョン番号 |
| モジュールタイプ | | プロセッサのタイプ: SUNW、UltraSPARC-III など |
| メーカー | | メーカー番号 |

表 6-66 SC 構成 リーダー - プロセッサ (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------------------|-------------|--------------------------------------|
| SPARC バージョン | | SPARC プロセッサアーキテクチャーのバージョン番号 |
| クロック周波数 (MHz) | | このプロセッサのメガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数 |
| I キャッシュサイズ (K バイト) | | このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の命令キャッシュサイズ |
| D キャッシュサイズ (K バイト) | | このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位のデータキャッシュサイズ |
| E キャッシュサイズ (K バイト) | | このプロセッサのキロバイト (K バイト) 単位の外部キャッシュサイズ |
| 状態 | cpCPUStatus | 現在のプロセッサの状態 : ONLINE か OFFLINE |

メモリーモジュール

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのメモリーモジュールの属性をまとめています (表 6-67)。

表 6-67 SC 構成リーダー - メモリーモジュール

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|--|
| MEMMOD ID | | FRU ID (メモリーモジュール ID) 形式のメモリーモジュールの識別子 : MEMMOD (CP31/P0/MM0) など |
| メモリーサイズ (M バイト) | | メモリーモジュールのメガバイト (M バイト) 単位のメモリーサイズ |

PCI デバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの PCI デバイスの属性をまとめています (表 6-68)。

表 6-68 SC 構成リーダー - PCI デバイス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|--|
| デバイス ID | | FRU ID (デバイスドライバ ID) 形式の PCI デバイスの識別子: PCI(<i>xxx</i>) の形式で、 <i>xxx</i> は <i>eri</i> 、 <i>glm</i> 、 <i>hci</i> 1394、 <i>hme</i> 、 <i>usb</i> のいずれか |
| デバイスタイプ | | 使用されているデバイスの入出力プロトコルタイプ: <i>pci</i> 、 <i>sbus</i> 、 <i>network</i> 、 <i>scsi-2</i> など |
| デバイスクラス | | 必要な PCI クラスコード: <i>Network Controller</i> 、 <i>Ethernet</i> 、 <i>Mass Storage Controller</i> 、 <i>SCSI</i> 、 <i>Serial Bus Controller</i> など |
| クロック周波数 (MHz) | | メガヘルツ (MHz) 単位のクロック周波数 |
| 名前 | | デバイスドライバの共通または記号名: <i>network</i> 、 <i>scsi</i> 、 <i>firewire</i> 、 <i>usb</i> など |
| メーカー | | メーカー番号 |
| モデル | | デバイスドライバのモデル番号: <i>SUNW</i> 、 <i>pci-eri</i> 、 <i>Symbios</i> 、 <i>53C875</i> など |
| バージョン | | ドライバのバージョン |
| リビジョン ID | | ドライバのリビジョン |
| ベンダー ID | | ベンダー番号 |

ディスクデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの ディスクデバイスの属性をまとめています (表 6-69)。

表 6-69 SC 構成リーダー - ディスクデバイス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-------------|---|
| ディスク ID | | ディスクデバイスの識別子: disk(xctydz) の形式で、x は PCI コントローラ番号 (0 か 1)、y はターゲット番号、z は論理装置番号 (c0t4d0) など。ディスクがデュアルポートの場合は、コンマで区切った 2 つのディスクデバイス識別子が表示される |
| パス | | ディスクデバイスへの物理的なパス: /pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/sd@0,0、...1,0、6,0 など |
| ブロックサイズ | | ディスクをパーティションに分割したときに指定したブロックサイズ |
| ブロック数 | | ファイルシステムに割り当てられているブロック数 |
| 使用可能なブロック数 | | ファイルシステムで使用可能なブロック数 |
| ファイル数 | | ファイルシステムに存在するファイル数 |
| 使用可能なファイル数 | | ファイルシステムで使用可能なファイル数 |
| 状態 | | このディスクの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ |
| ハードウェアエラー数 | cpDskErrCnt | ハードウェア関連のエラー数 |
| ソフトウェアエラー数 | cpDskErrCnt | ソフトウェア関連のエラー数 |
| トランスポートエラー数 | cpDskErrCnt | トランスポート関連のエラー数 |

テープデバイス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーの テープデバイスの属性をまとめています (表 6-70)。

表 6-70 SC 構成リーダー - テープデバイス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-------------|--|
| テープ ID | | テープデバイスに対する標準の命名規則に従ったテープデバイスの識別子: tape (0) など |
| パス | | テープデバイスへの物理的なパス: /devices/pci@1f,0/pci@1,1/scsi@2/st@4,0 など |
| デバイス名 | | テープデバイスを識別する名前: HP DDS-3 4MM DAT など |
| 状態 | | このテープデバイスの状態: OK か発生した問題を説明したメッセージ |
| テープエラー数 | cpTpeErrCnt | syslog ファイルに記録されたテープエラー数 |

ネットワークインタフェース

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC 構成リーダーのネットワークインタフェースの属性をまとめています (表 6-71)。

表 6-71 SC 構成リーダー - ネットワークインタフェース

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------------|-----------|--|
| ネットワーク ID | | ネットワークインタフェースの識別子: network(hme0)、network(scman1)、 network(scman1:1) など |
| 記号名 | | このネットワークインタフェースに関連付けられているホストコンピュータのホスト名 |
| Ethernet アドレス | | このネットワークインタフェースの Ethernet アドレス |
| IP アドレス | | このネットワークインタフェースの IP アドレス |
| 状態 | | このネットワークインタフェースの状態: OK か空白 |
| ネットワークエラー | | このネットワークインタフェースの属性に関する情報を取得できないか、エラーコードを取得したことを示すメッセージ |

SC 構成リーダーのアラーム規則

この節では、SC 構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。アラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

ボード電圧規則 (cpBrdVolt)

ボード電圧規則は、電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合にアラームを生成します (表 6-72)。ボードの電源がオフのとき、電圧アラームは生成されません。

表 6-72 SC 構成リーダー - ボード電圧規則

| 電圧しきい値 | アラームレベル | 意味 |
|---------|---------|--------------------------------|
| OK | | 電圧は適正範囲内。 |
| UNKNOWN | 注意 | 電圧が不明。CP2140 システムコントローラの唯一の応答。 |
| FAIL | 重大 | 電圧値は適正範囲外。 |

対処法:

- 重大アラームの場合は、購入先に連絡してください。



注意 - 電圧が公称値の 5% の範囲外になった場合は、システムコントローラを停止してください。電圧が公称値の 10% の範囲外になると、自動的に電源投入リセット (POR) が行われます。

詳細については『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。

- CP2140 の注意アラームは通常の状態です。何も行う必要はありません。CP1500 SC の注意アラームは、i2c デバイスドライバが読み込まれていないために、モジュールが電圧値を取得できないことを意味します。システムコントローラエージェントの設定を再実行して、必要な i2c デバイスドライバを読み込んでください。詳細は、15 ページの「Sun Management Center のセットアップウィザードによる Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定」を参照してください。

CPU 状態規則 (cpCPUStatus)

CPU 状態規則は、プロセッサが OFFLINE の場合に注意アラームを生成します (表 6-73)。

表 6-73 SC 構成リーダー - CPU 状態規則

| CPU 状態 | アラームレベル | 意味 |
|-------------|---------|-------------|
| ONLINE | | CPU はオンライン。 |
| OFFLINE | 注意 | CPU はオフライン。 |
| POWERED OFF | | CPU の電源がオフ。 |

対処法: 注意アラームは注意を促すためだけであり、エラーではありません。psradm(1M) で、必要に応じてプロセッサの動作状態を変更できます。

CPU 温度規則 (cpCPUTemp)

CPU 温度規則は、温度がデフォルトのしきい値を超えた場合にアラームを生成します (表 6-74)。ボードの電源がオフのとき、温度アラームは生成されません。

表 6-74 SC 構成リーダー - CPU 温度規則

| 温度しきい値 | アラームレベル | 意味 |
|---------|---------|--|
| Warning | 警告 | 温度がデフォルトのしきい値の摂氏 69 度を超えている。 |
| | 注意 | 温度の判定不能 (プロセッサテーブルの「温度」プロパティに -1 と表示)。 |
| Error | 重大 | 温度がデフォルトのしきい値の摂氏 74 度を超えている。 |

対処法: 重大アラームの場合は、Sun に連絡してください。

注 - デフォルトのしきい値は、OpenBoot PROM の設定で指定します。詳細については、『SPARCengine ASM Reference Manual』を参照してください。これらのしきい値を変更した場合は、ruleinit ファイルの値も変更する必要があります。

ディスクエラー数規則 (cpDskErrCnt)

ディスクエラー数規則は、ディスクで発生したハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-75)。

表 6-75 SC 構成リーダー - ディスクエラー数規則

| エラー数 | アラームレベル | 意味 |
|------|---------|---|
| 5 | 注意 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 5 個を超えている。 |
| 10 | 警告 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 10 個を超えている。 |
| 15 | 重大 | ハードウェア、ソフトウェア、トランスポートエラー数のいずれかが 15 個を超えている。 |

対処法: 技術者にディスクのテストを依頼してください。

テープエラー数規則 (cpTpeErrCnt)

テープエラー数規則は、テープドライブで発生したエラー数に従って、注意、警告、重大アラームのいずれかを生成します (表 6-76)。

表 6-76 SC 構成リーダー - テープエラー数規則

| テープエラー数 | アラームレベル | 意味 |
|---------|---------|---------------------|
| 10 | 注意 | テープエラー数が 10 を超えている。 |
| 20 | 警告 | テープエラー数が 20 を超えている。 |
| 30 | 重大 | テープエラー数が 30 を超えている。 |

対処法: 技術者にテープドライブのテストを依頼してください。syslog ファイル内のエラーの説明を参照してください。

プラットフォーム/ドメインの状態管理 モジュール

プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュールは、SMS ではコマンド行インタフェース (CLI) を使って行なっていたプラットフォームとドメインの管理、システムボードの動的再構成 (DR) 操作を、Sun Management Center の GUI だけで行うことを可能にします。

このモジュールは、Sun Management Center ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用する際には、自分で読み込む必要があります。このモジュールは、プラットフォームの詳細ウィンドウ (プラットフォーム構成リーダーが自動的に読み込まれるウィンドウ) から手動で読み込む必要があります。また、このモジュールは読み込み解除できますが、読み込んだままにしておくことを推奨します。Sun Management Center のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『Sun Management Center ユーザーガイド』を参照してください。

図 6-4 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - PDSM (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

注 - PDSM モジュールが不明なボードスロットを表示することはありませんが、プラットフォーム構成リーダー (PCR) は不明なボードスロットを表示します (126 ページの「不明なコンポーネント (構成部品)」)。

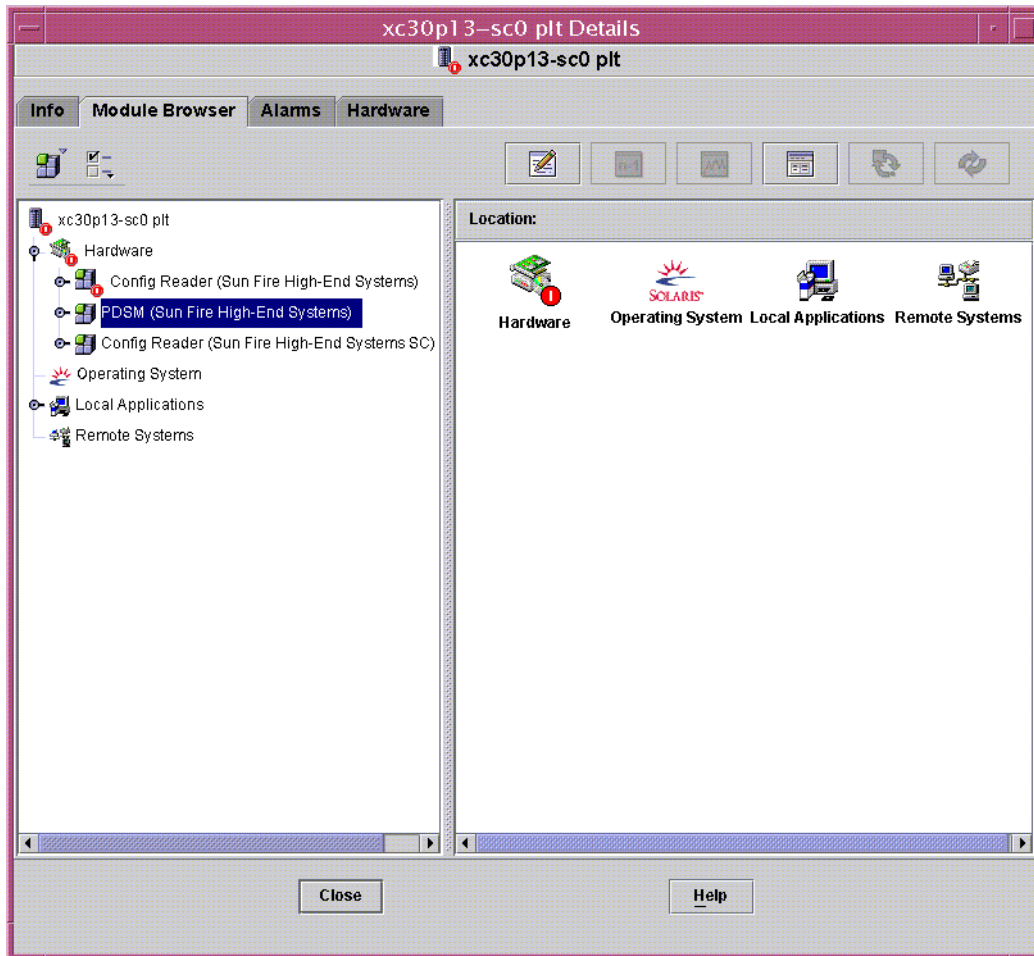


図 6-4 プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) モジュール

PDSM モジュールには、2通りの表示があります。

- プラットフォーム表示
- ドメイン表示 (A から R のドメインごとに1つ)

プラットフォーム表示

プラットフォーム表示には、次のテーブルがあります。

- プラットフォーム情報
- プラットフォームのスロット 0 のボード
- プラットフォームのスロット 1 のボード

- プラットフォームの空きスロット
- プラットフォームの拡張ボード
- 電源装置
- ファントレイ

プラットフォーム情報

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォーム情報の属性をまとめています (表 6-77)。

表 6-77 PDSM モジュール - プラットフォーム情報

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|------------------------------------|
| プラットフォーム ID | | プラットフォームの識別子 |
| プラットフォームタイプ | | プラットフォームのタイプ |
| 最大ドメイン数 | | 最大ドメイン数 (18) |
| アクティブなドメイン数 | | この Sun Fire ハイエンドシステム上のアクティブなドメイン数 |
| SC の電源 | | システムコントローラの電源状態 : ON か OFF |

プラットフォームのスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームのスロット 0 のボードの属性をまとめています (表 6-78)。

表 6-78 PDSM モジュール - プラットフォームのスロット 0 のボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------|-----------|---|
| ボード ID | | FRU ID (スロット ID) 形式のスロット 0 のボードの識別子 : CPU (SBx)、V2CPU(SBx)、V3CPU (SBx) のいずれかの形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV または UltraSPARC IV+ CPU ボードを示す |
| ボードの状態 | | スロット 0 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか |
| 電源の状態 | | スロット 0 のボードの電源の状態 : ON か OFF |

表 6-78 PDSM モジュール - プラットフォームのロット 0 のボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| テストの状態 | | CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| テストレベル | | ロット 0 のボードに対する POST テストのレベル |
| ドメイン ID | | ロット 0 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED |

プラットフォームのロット 1 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームのロット 1 のボードの属性をまとめています (表 6-79)。

表 6-79 PDSM モジュール - プラットフォームのロット 1 のボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|--|
| ボード ID | | FRU ID (ロット ID) 形式のロット 1 のボードの識別子 : HPCI (IOx)、MCP (IOx)、WPCI (IOx) のいずれかの形式で、x はボードがある拡張ロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードの状態 | | ロット 1 のボードの状態 : ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか |
| 電源の状態 | | ロット 1 のボードの電源の状態 : ON か OFF |
| テストの状態 | | ボードのテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| テストレベル | | ロット 1 のボードに対する POST テストのレベル |
| ドメイン ID | | ロット 1 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED |

プラットフォームの空きスロット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームの空きスロットの属性をまとめています (表 6-80)。

表 6-80 PDSM モジュール - プラットフォームの空きスロット

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| ボード ID | | 使用可能なボードの識別子: 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードの状態 | | 使用可能なボードの状態: FREE か ASSIGNED |
| 電源の状態 | | 使用可能なボードの電源状態: OFF か -- |
| テストの状態 | | 使用可能なボードのテスト状態: UNKNOWN か -- |
| テストレベル | | このボードに対する POST テストレベル |
| ドメイン ID | | 使用可能なボードに割り当てられているドメインの識別子: A ~ R か UNASSIGNED |

拡張ボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供する拡張ボードの属性をまとめています (表 6-81)。

表 6-81 PDSM モジュール - 拡張ボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|---|
| EXB ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の拡張ボードの識別子: EXB (EXx) の形式で、x は拡張ボード番号 (0 ~ 17) |
| 電源の状態 | | 拡張ボードの電源状態: ON か OFF |
| Slot 0 (スロット 0) | | スロット 0 を占有しているシステムボードの識別子: CPU (SBx)、V2CPU (SBx)、V3CPU (SBx) のいずれかの形式か NOT_PRESENT で、x はボードがあるセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)、v3 は UltraSPARC IV または UltraSPARC IV+ CPU ボードを示す |
| Slot 1 (スロット 1) | | スロット 1 を占有しているシステムボードの識別子: HPCI (IOx)、MCPU (IOx) の形式か NOT_PRESENT で、x は 0 ~ 17 |

電源装置

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するプラットフォームの電源装置の属性をまとめています (表 6-82)。

表 6-82 PDSM モジュール - 電源装置

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|--|
| 電源装置 ID | | FRU ID (スロット ID) 形式の電源装置の識別子 : PS (PSx) の形式で、x は電源装置番号 (0 ~ 5) |
| 電源の状態 | | DC 0 か DC 1 のいずれかがオンの場合 ON。DC 0 および DC 1 の両方がオフの場合 OFF。 |

ファントレー

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するファントレーの属性をまとめています (表 6-83)。

表 6-83 PDSM モジュール - ファントレー

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------|-----------|--|
| ファントレー ID | | FRU ID (スロット ID) 形式のファントレーの識別子 : FT (FTx) の形式で、x はファントレー番号 (0 ~ 7) |
| 電源の状態 | | ファントレーの電源状態 : ON か OFF |
| ファンの速度 | | ファンの速度 : OFF、NORMAL、HIGH のいずれか |

ドメイン X 表示

ドメイン X 表示 (X は A から R の範囲のドメイン識別子) には、そのドメインに関する次のテーブルがあります。

- ドメイン X の情報
- ドメイン X のスロット 0 のボード
- ドメイン X のスロット 1 のボード
- ドメイン X の空きスロット

ドメイン X の情報

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X 情報の属性をまとめています (表 6-84)。

表 6-84 PDSM モジュール - ドメイン X 情報

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-----------------|-----------|---|
| ドメイン ID | | ドメインの識別子: A ~ R |
| ドメインのタグ | | ドメインのタグ: domainX の形式で、X は A ~ R |
| ドメインの状態 | | SMS の showplatform コマンドから報告されたドメインの状態: Running Solaris、Powered Off など。詳細は、『System Management Services SMS リファレンスマニュアル』の showplatform(1M) を参照。 |
| Solaris ノード名 | | Solaris オペレーティングシステムノードのホスト名 |
| キースイッチ | | 仮想キースイッチの位置: ON、STANDBY、OFF、DIAG、SECURE、UNKNOWN のいずれか |
| ドメイン ACL | | ドメインのアクセス制御リスト - スペース区切りのリスト: 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| 主入出力ボード | | ドメインとシステムコントローラ間の通信に使用されている主入出力ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| 内部 Ethernet ボード | | アクティブな Ethernet コントローラがある入出力ボードの識別子: HPCI (IOx) の形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |

ドメイン X のスロット 0 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X スロット 0 のボードの属性をまとめています (表 6-85)。

表 6-85 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 0 のボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| ボード ID | | スロット 0 のボードの識別子: CPU (SBx)、V2CPU (SBx)、V3CPU (SBx) のいずれかの形式で、x はボードがある拡張スロットの番号、(0 ~ 17)、V3 は UltraSPARC IV または UltraSPARC IV+ CPU ボードを示す |
| ボードの状態 | | スロット 0 のボードの状態: ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか |
| 電源の状態 | | スロット 0 のボードの電源の状態: ON か OFF |
| テストの状態 | | CPU のテスト状態: UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| テストレベル | | スロット 0 のボードに対する POST テストのレベル |
| ドメイン ID | | スロット 0 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子: A ~ R か UNASSIGNED |

ドメイン X のスロット 1 のボード

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X スロット 1 のボードの属性をまとめています (表 6-86)。

表 6-86 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|--------|-----------|--|
| ボード ID | | スロット 1 のボードの識別子: HPCI (IOx)、MCPUI (IOx)、WPCI (IOx) のいずれかの形式で、x はボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードの状態 | | スロット 1 のボードの状態: ACTIVE、ASSIGNED、FREE のいずれか |
| 電源の状態 | | スロット 1 のボードの電源の状態: ON か OFF |

表 6-86 PDSM モジュール - ドメイン X のスロット 1 のボード (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|---|
| テストの状態 | | CPU のテスト状態 : UNKNOWN_TEST_STATUS、IPOST (in POST)、PASSED、DEGRADED、FAILED のいずれか |
| テストレベル | | スロット 1 のボードに対する POST テストのレベル |
| ドメイン ID | | スロット 1 内のこのボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED |

ドメイン X の空きスロット

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの PDSM モジュールが提供するドメイン X の空きスロットの属性をまとめています (表 6-87)。

表 6-87 PDSM モジュール - ドメイン X の空きスロット

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|---------|-----------|--|
| ボード ID | | 使用可能なボードの識別子 : 入出力カード番号 (IOx) か、システムボード番号 (SBx) の形式で、x はこのボードがある拡張スロットの番号 (0 ~ 17) |
| ボードの状態 | | 使用可能なボードの状態 : FREE か ASSIGNED |
| 電源の状態 | | 使用可能なボードの電源状態 : OFF か -- |
| テストの状態 | | 使用可能なボードのテスト状態 : UNKNOWN か -- |
| テストレベル | | このボードに対する POST テストレベル |
| ドメイン ID | | 使用可能なボードに割り当てられているドメインの識別子 : A ~ R か UNASSIGNED |

動的再構成 (DR) モジュール

動的再構成 (DR) モジュールの詳細は、第 8 章を参照してください。

SC 監視モジュール

SC 監視モジュールは、アクティブまたはメインのシステムコントローラ上の SMS (System Management Services) デーモンを監視します。Sun Fire ハイエンドシステムの SC 監視モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれ、必要ならば、後で読み込み解除できます。

図 6-5 は、プラットフォームの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ローカルアプリケーション」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコン - SC 監視 (Sun Fire High-End Systems) - を表しています。

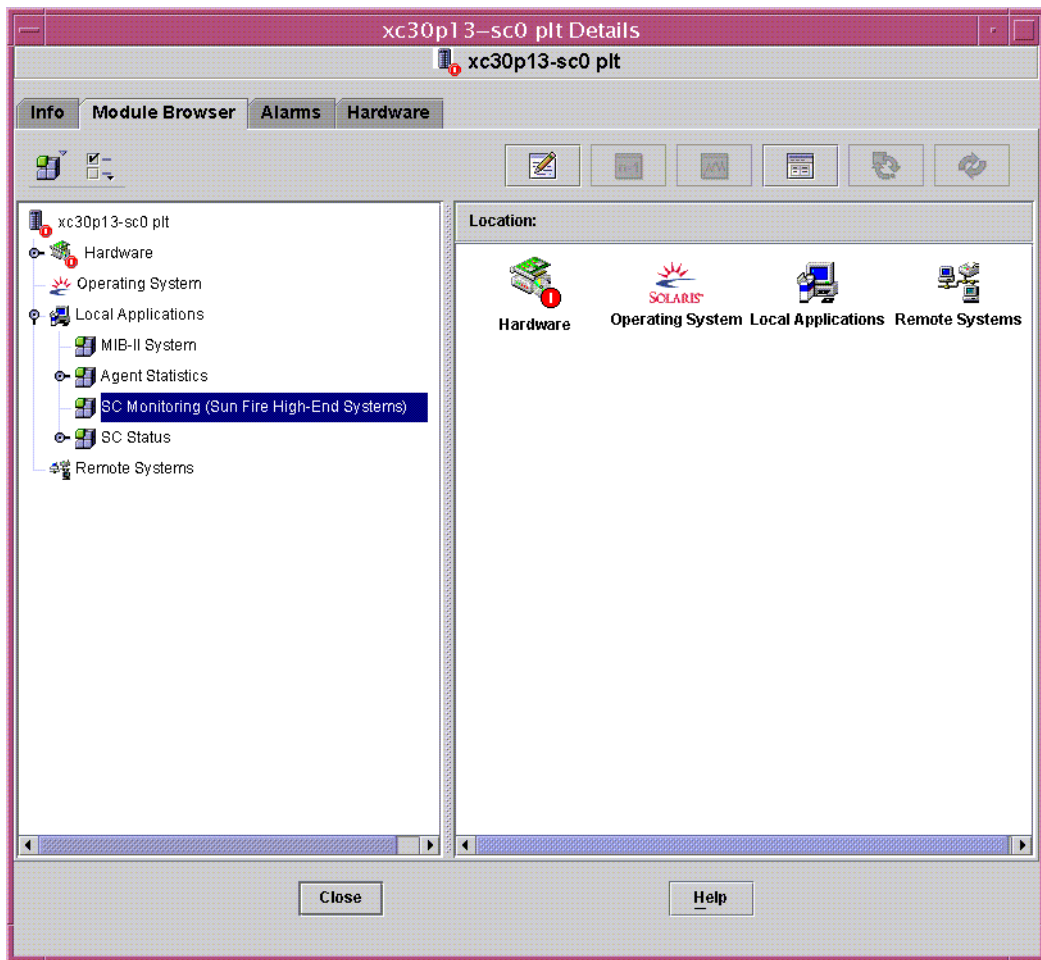


図 6-5 SC 監視モジュール

SMS デーモンの多くは Sun Fire ハイエンドシステムの動作にきわめて重要です。SC 監視モジュールは、SMS デーモンに問題が発生したとき (再起動を含む)、割り当てられている優先順位に従ってアラームを生成します。SMS デーモンについての詳細は、『System Management Services (SMS) 管理者マニュアル』を参照してください。現在のプロセスの状態の表示については、ps(1) コマンドを参照してください。

このモジュールは、次の SMS デーモンを監視します。

- Capacity-on-Demand デーモン (codd)
- ドメイン構成管理 (dca) - ドメインごとに 1 つ
- ドメインサービス監視デーモン (dsmd)
- ドメイン X サーバー (x/dxs, x は a ~ r の範囲)
- イベントフロントエンドデーモン (efe)

- Error and Fault handling デーモン (efhd)
- イベントログアクセスデーモン (elad)
- イベントレポートデーモン (erd)
- 環境状態監視デーモン (esmd)
- フェイルオーバー管理デーモン (fomd)
- FRU アクセスデーモン (frad)
- ハードウェアアクセスデーモン (hwad)
- キー管理デーモン (kmd)
- 管理ネットワークデーモン (mand)
- メッセージログ記録デーモン (mld)
- OpenBoot PROM サポートデーモン (osd)
- プラットフォーム構成デーモン (pcd)
- SMS 起動デーモン (ssd)
- タスクマネージャデーモン (tmd)

SC 監視属性 - SC デーモンプロセス

次の表は Sun Fire ハイエンドシステムの SC デーモンプロセスの属性をまとめています (表 6-88)。

表 6-88 SC デーモンプロセス

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|--|
| コマンド | | このデーモンのコマンド名 |
| プロセス ID | | このデーモンのプロセス識別番号 |
| 親プロセス ID | | このデーモンの親のプロセス識別番号 |
| ユーザー ID | | このデーモンが管理下にあるユーザー識別子 |
| ユーザー名 | | ユーザー ID に関連付けられているユーザー名 |
| 実効ユーザー ID | | 実行ユーザー識別子 |
| グループ ID | | ユーザーのグループ識別子 |
| 実効グループ ID | | ユーザーの実効グループ識別子 |
| セッション ID | | セッションリーダーのプロセス識別子 |
| プロセスグループ ID | | プロセスグループリーダーのプロセス識別子 |
| TTY | | このデーモン用の制御端末 (つねに空白) |
| 開始時刻 | | プロセスが起動された時刻 (24 時間以内の場合) か 日付け (24 時間を超える場合) |
| CPU 使用時間 | | このプロセスが動作している CPU 時間 |

表 6-88 SC デーモンプロセス (続き)

| 属性 | 規則 (ある場合) | 説明 |
|-------------|-----------|---|
| 状態 | | デーモンの状態: 動作中のとき R、休眠中のとき S など |
| 待ちチャンネル | | プロセスが休眠しているイベントのアドレス。空白の場合、プロセスは動作中。 |
| スケジューリングクラス | | このプロセスのスケジューリングクラス名 (使用可能な 3 つのスケジューリングアルゴリズムのいずれかを示す): <ul style="list-style-type: none"> • SYS - カーネルが所有するシステムプロセス (最高の優先順位) • RT - リアルタイムプロセス (スケジューラによって変更されることのない一定の優先順位のプロセス) • TS - タイムシェアリングプロセス (大量の CPU 時間を消費する場合は低い優先順位、大量の CPU 時間を消費しない場合は高い優先順位が動的に割り当てられるプロセス) |
| アドレス | | このプロセスのメモリーアドレス |
| サイズ | | スワップ可能なプロセスのイメージのメインメモリー上のサイズ (ページ単位) |
| 優先順位 | | プロセスの優先順位 |
| nice | | プロセスのシステムスケジューリング優先順位の 10 進値 (該当する場合) |
| CPU 使用時間率 | | 使用可能な CPU 時間に対する割合で表した、このデーモンの現在の CPU 使用量 |
| メモリー使用率 | | マシンの全物理メモリーに対する割合で表した、このデーモンの現在のメモリー使用量 |
| コマンド行 | rDownProc | このデーモンの起動に使用された完全なコマンド文字列 |

SC 監視アラーム規則 - プロセス停止規則 (rDownProc)

この節では、SC 監視モジュールのアラーム規則について説明します。このアラーム規則のしきい値を変更することはできません。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを生成します。

プロセス停止規則は、dca または dxs 以外の SMS デーモンが停止した場合に重大アラームを生成します。SC 監視モジュールテーブルの「コマンド行」欄が -- の場合、プロセスは停止しているとみなされます。

対処法: システム管理者に連絡してください。

SC 状態モジュール

SC 状態モジュールは、システムコントローラがメインまたは予備のどちらの状態であるかを監視し、どのシステムコントローラがアクティブ、すなわちメインのシステムコントローラであるかを簡単に判定できます。システムコントローラの状態についての詳細は、SC 構成リーダーのテーブルを参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムの SC 状態モジュールは、システムコントローラにエージェントをインストールしたときに自動的に読み込まれ、必要ならば、後で読み込み解除できます。

このモジュールを見つけるには、最初に SC の詳細ウィンドウを開きます。SC の詳細ウィンドウの表示の詳細は、158 ページの「SC 構成リーダーモジュール」を参照してください。

図 6-6 は、ホスト (SC) の詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示されるこのモジュールのアイコンを表しています。図 6-6 は「SC Status」アイコンの下にある「SC Information」アイコンを表しており、このアイコンをクリックすると、SC 情報テーブルを見ることができます。

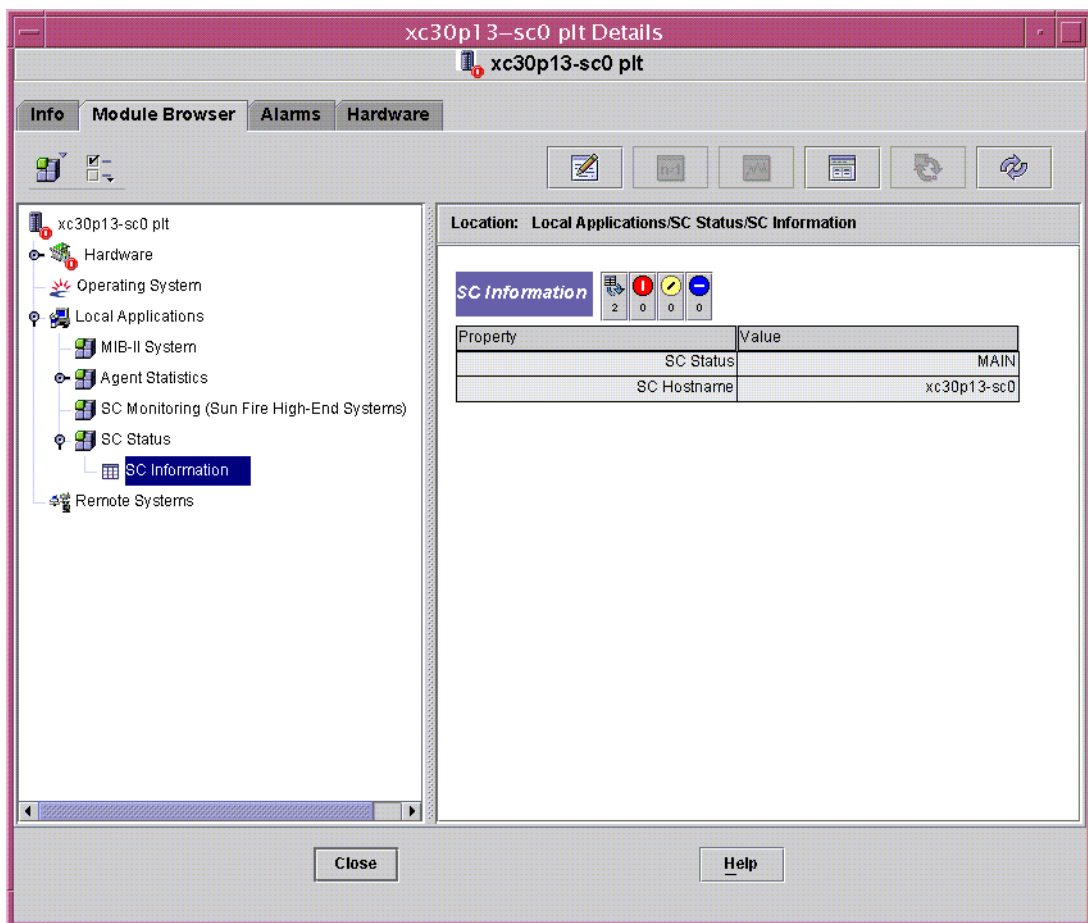


図 6-6 SC 情報 (MAIN の状態であることが示されている)

SC 状態属性

SC 状態属性値は、次の 3 つのうちのいずれかです。

- MAIN - このシステムコントローラはメインとして機能しています (図 6-6)。
- SPARE - このシステムコントローラは予備として機能しています。
- UNKNOWN - このシステムコントローラの役割は不明です。

SC 状態のアラーム規則 (rscstatus)

SC 状態アラーム規則は、システムコントローラの状態が MAIN 以外の場合に使用不可アラームを生成します。

プラットフォームおよびドメインログファイルの表示

エラーの診断のためにプラットフォームおよびドメインログファイルを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/platform.log  
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-run ccat /var/opt/SUNWsymon/log/agent.log
```

第7章

システムコントローラからのプラットフォーム/ドメインの状態管理

この章では、Sun Management Center コンソールと PDSM モジュールを使って Sun Fire ハイエンドシステムに対する動的再構成 (DR) 操作とその他の管理操作を行う方法を説明します。DR 操作とは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインに対するボードの追加や、ドメインからのボードの削除、ドメイン間のボードの移動などの操作のことです。こうした DR 操作の一部または他の操作の一部として、ボードのテストや ACL の更新、ボードの電源のオンまたはオフなどのその他の管理操作を行うことができます。

Sun Fire ハイエンドシステム専用の 2 つのモジュールには、Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームとドメインを管理するための機能が含まれています。

- プラットフォーム/ドメインの状態管理 (PDSM) - システムコントローラ上で動作するモジュールです (この章の後の節で説明)。
- 動的再構成 (DR) - Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン上で動作するモジュールです。このモジュールの使用方法については、第 8 章を参照してください。

Sun Management Center コンソールからの PDSM 監視および管理機能には、1 つのプラットフォーム表示と最高 18 個のドメイン表示が用意されています。このモジュールがある場所と表示可能なテーブルについては、168 ページの「プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュール」を参照してください。

前提条件

Sun Management Center の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解する必要があります。Sun Fire ハイエンドシステムにおける DR 操作については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire ハイエンドシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』および『Sun Fire ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』
- `cfgadm` のマニュアルページ - 第 8 章で取り上げている ドメイン DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説

DR 操作に関する一般的な事項と判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) ご使用にあたって』を参照してください。

サポートされるコンポーネント

現在のところ、PDSM モジュールは次のハードウェアコンポーネントでの DR 操作をサポートしています。

- スロット 0 のボード
- スロット 1 のボード
- 空きスロット
- 拡張ボード
- 電源装置
- ファントレイ

PDSM がサポートする SMS のコマンド

プラットフォーム/ドメインの状態管理モジュールは、System Management Services (SMS) のコマンド行インタフェース (CLI) コマンドの一部をサポートしています。言い換えれば、SMS の CLI コマンドを利用しなくても、Sun Management Center のグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使って同様にシステムコンポーネントを監視・管理することができます。SMS コマンドについての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』を参照してください。

表 7-1 は、PDSM がサポートしている SMS の CLI コマンドの一覧です。

表 7-1 PDSM がサポートする SMS の CLI コマンド

| SMS の CLI コマンド | Sun Management Center の GUI メニュー項目 | 説明 |
|---------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| addboard | ボードを追加 | ドメインにボードを割り当て、接続、構成します |
| addtag | タグを追加 | ドメインにドメイン名 (タグ) を割り当てます |
| deleteboard | ボードを削除 | ドメインからボードを構成解除、切断、割り当て解除します |
| deletetag | タグを削除 | ドメインに割り当てられているドメイン (タグ) を削除します |
| moveboard | ボードを移動 | 別のドメインにボードを移動します |
| poweroff | 電源オフ | ボードの電源をオフにします |
| poweron | 電源オン | ボードの電源をオンにします |
| rcfgadm -t | ボードのテスト | ボードをテスト |
| reset | ドメインのリセット | 指定されたドメインのすべての CPU ポートにリセットを送信します |
| setkeyswitch | キースイッチ | 仮想キースイッチの位置を変更します |
| setupplatform -a -r | アクセス制御リスト | 既存の ACL に対するボードの追加と削除 |

システムコントローラからのプラットフォーム管理操作

この節では、システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行う方法を説明します。具体的には、次の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、次の DR 操作手順も説明します。

- 「ボードまたは周辺装置の電源オン」
- 「ボードまたは周辺装置の電源オフ」

■ 状態の表示

注 – DR 操作を中止しても、必ずしも処理が中止されないことがあります。「中止」ボタンをクリックするタイミングによっては、DR 処理が中止できないところまで進んでしまっているためです。DR 操作の中止を選択すると、その操作に関するプロセス ID が終了しますが、そのことによって、コンポーネントの以前の状態が維持されることが保証されるわけではありません。

プラットフォーム情報の表示

システムコントローラからプラットフォーム全体の管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのプラットフォーム表示関係のテーブルを使用します。プラットフォーム表示のテーブルについての詳細は、170 ページの「プラットフォーム表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、プラットフォーム上のドメインにボードを割り当て、接続、または構成します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

注 – 空きスロットのみ割り当てることができます。

1. `platadmn` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボード、あるいは空きスロットのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードの追加」を選択します。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストからボードの追加先のドメインを選択します。

5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、プラットフォーム上のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の deleteboard(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードの削除」を選択します。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、プラットフォーム上の別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `moveboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. `plataadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. プラットフォームのスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードの移動」を選択します。
「ボードの移動」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ドロップダウンリストから、ボードの移動先のドメインを選択します。
5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。
6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。
パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードまたは周辺装置の電源オン

電源オン機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオンにします。ボードまたは周辺装置の電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `poweron(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオンにする

1. `platoper` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオンにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オン」を選択します。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードまたは周辺装置の電源オフ

電源オフ機能は、プラットフォーム上のボード、電源装置、ファントレーの電源をオフにします。ボードまたは周辺装置の電源オフ操作の詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `poweroff(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードまたは周辺装置の電源をオフにする

1. `platoper` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. 対応するプラットフォーム表示テーブル内の、電源をオフにするボード、電源装置、またはファントレーを右クリックします。
操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オフ」を選択します。
「電源オフ」パネルが表示されます。

- ドメインでアクティブになっている CPU または入出力ボードを選択した場合は、次のメッセージが表示されます。

This board is active in a domain. Powering down this board might crash the domain.Are you sure you want to power off?

- 空でない拡張ボードを選択した場合は、次のメッセージが表示されます。

This expander is not empty and might contain components that are active in a domain. Powering down this expander might crash the domain(s).Are you sure you want to power off?

4. 適切なボードまたは周辺装置を選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されません。

注 – 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. platadmн または platoper グループのメンバーとしてログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。

ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

3. メニューの「状態の表示」を選択します。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます(コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間(最長で1分)がかかることがあります。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、223 ページの図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

システムコントローラからのドメイン管理操作

この節では、システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン管理操作を行う方法を説明します。具体的には、次の DR 操作手順を説明します。

- 「ボードの追加」
- 「ボードの削除」
- 「ボードの移動」

またこの節では、次の DR 操作手順も説明します。

- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 「タグの追加」
- 「タグの削除」
- 「キースイッチ位置の変更」
- アクセス制御リストの更新
- ドメインのリセット
- 状態の表示

システムコントローラからのドメイン情報の表示

システムコントローラから Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン管理操作を行うには、「ハードウェア」タブにある PDSM モジュールのドメイン表示関係のテーブルを使用します。ドメイン表示のテーブルについての詳細は、174 ページの「ドメイン X 表示」を参照してください。

ボードの追加

ボードの追加機能は、特定のドメインにボードを追加します。ボードの追加についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `addboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを追加する

1. `platadm` か `dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。`x` は追加するボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン `X` のスロット 0 またはスロット 1 のボードのテーブル内の、追加するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードの追加」を選択します。
「ボードの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの追加先のドメインを選択します。
5. 追加後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。
6. 「ボードを追加」ボタンをクリックします。
パネルにボードの追加処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの削除

ボードの削除機能は、特定のドメインからシステムボードを構成解除、切断、または割り当て解除します。ボードの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の deleteboard(1M) コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを削除する

1. platadmн か dmnxadmн、dmnxrcfg グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。x は、削除するボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン X のスロット 0 またはスロット 1 のボードのテーブル内の、削除するボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードの削除」を選択します。
「ボードの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認します。
5. 削除後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。
6. 「ボードを削除」ボタンをクリックします。
パネルにボードの削除処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの移動

ボードの移動機能は、別のドメインにボードを移動します。移動するボードは、関係する両方のドメインの ACL に登録されている必要があります。ボードの移動の詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `moveboard(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードを移動する

1. Sun Management Center コンソールにログインします。

`platadm` グループのメンバーとしてログインした場合は、追加のアクセス権限は必要ありません。`dmnxadm` または `dmnxrcfg` グループ (x はドメイン) のメンバーとしてログインした場合は、操作に関係する両方のドメインに対するアクセス権が必要です。

2. ドメイン X のスロット 0 またはスロット 1 のボードのテーブル内の、移動するボードを右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューの「ボードの移動」を選択します。

「ボードの移動」パネルが表示されます。

4. 適切なボードを選択したことを確認して、ボードの移動先のドメインを選択します。

5. 移動後のボードの状態を指示する適切なラジオボタンを選択します。

6. 「ボードを移動」ボタンをクリックします。

パネルにボードの移動処理の進行状況が表示されます。

7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。

パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオンにします。ボードの電源オン操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `poweron(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオンにする

ボードの電源をオンにするには、そのボードの電源状態が OFF である必要があります。

1. `platadm` か `platoper`、`dmnxradmn`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、電源をオンにするボードが存在するドメインの ID です。
2. 適切なドメイン X 表示のテーブル内の、電源をオンにするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オン」を選択します。
「電源オン」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、特定のドメインにあるボードの電源をオフにします。ボードの電源オフ操作についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `poweroff(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ボードの電源をオフにする

ボードの電源をオフにするには、そのボードの電源状態が ON である必要があります。

1. `platadm` か `platoper`、`dmnxadm`、`dmnxrcfg` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、電源をオフにするボードが存在するドメインの ID です。
2. ドメイン X のスロット 0 または 1 のボードのテーブル内の、電源をオフにするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オフ」を選択します。
「電源オフ」パネルが表示されます。
4. 適切なボードを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、特定のドメイン内のボードをテストします。ボードのテストについての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `rcfgadm(1M)` コマンドのオプション `-t` の説明を参照してください。

▼ ボードをテストする

1. `dmnxadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、テストするボードがあるドメインの ID です。
2. ドメイン X 表示テーブル内の、テストするボードを右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ボードのテスト」を選択します。
「ボードのテスト」パネルが表示されます。
4. 適切なテストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. (オプション) テストを強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスを選択します。
このオプションを選択すると、メニューに注意書きが表示されます。テストを強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」のチェックボックスが選択されていないことを確認します。
6. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認して、「テスト開始」ボタンをクリックします。
パネルにボードのテスト処理の進行状況が表示されます。
7. 開始した処理を途中で中止する場合は、「中止」ボタンをクリックします。
パネルにボードの中止処理の進行状況が表示されます。

ドメインのタグの追加/変更

ドメインのタグの追加/変更機能は、ドメインに指定されたドメインタグ名を追加するか、ドメインタグ名を変更します。ドメインには、名前タグを1つだけ割り当てることができ、そのタグはすべてのドメイン間で一意である必要があります。ドメインタグの追加または変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `addtag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを追加または変更する

1. `platadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、タグを追加または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「タグの追加」を選択します。
「タグの追加」パネルが表示されます。
4. 適切なドメインを選択したことを確認して、「新規タグの設定」のテキストボックスに新しいドメインタグ名を入力します。
5. 「了解」ボタンをクリックします。

タグの削除

タグの削除機能は、ドメインに割り当てられているタグ名を削除します。タグの削除についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `deletetag(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインのタグを削除する

1. `plataadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン *X* 情報テーブル内の、タグを削除するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「タグの削除」を選択します。
「タグの削除」パネルが表示されます。
4. 適切なドメインを選択したことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

キースイッチ位置の変更

キースイッチ位置の変更機能は、ドメインの仮想キースイッチ位置を次のいずれかの値に変更します。

- オン
- オフ
- 診断
- 保護
- スタンバイ

仮想キースイッチとそれぞれの位置についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `setkeyswitch(1M)` の説明を参照してください。

▼ キースイッチ位置を変更する

1. `dmnxadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、キースイッチ位置を変更するドメインの ID です。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、キースイッチ位置を変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「キースイッチ」を選択します。
「キースイッチ」パネルが表示されます。
4. 設定する位置の横の適切なラジオボタンを選択します。



注意 – キースイッチ位置をオンからオフに直接変更しようとする、エラーメッセージが返されることもなく、単にその操作が失敗します。キースイッチ位置をオンからオフに変更するには、まずスタンバイ位置に変更します。つまり、オンからスタンバイに変更してからオフに変更します。

5. 「了解」ボタンをクリックします。

アクセス制御リストの設定/変更

アクセス制御リスト (ACL) の設定/変更機能は、特定のドメインのアクセス制御リストを設定または変更します。デフォルトではドメインの ACL リストは空です。このため、最初に ACL リストを設定して、ドメインに割り当てるすべてのボードを追加する必要があります。ドメインの ACL リストに登録されていないボードをドメインに割り当てることはできません。ACL の設定/変更についての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `setupplatform(1M)` の説明を参照してください。

注 – Sun Management Center GUI のアクセス制御リストは、Systems Management Services (SMS) の `setupplatform(1M)` コマンドで Available Component List (使用可能な構成要素リスト) と呼ばれているリストと同じものです。

▼ アクセス制御リストを設定または変更する

1. `plataadm` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、ACL を設定または変更するドメイン (A ~ R) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「アクセス制御リスト」を選択します。
「アクセス制御リスト」パネルが表示されます。
4. 次のどちらかの操作を行います。
 - ドメインの ACL にスロットを追加する場合は、左の「追加先の ACL リスト:」リストボックスからスロットを選択し、「追加」をクリックします。
 - ドメインの ACL からスロットを削除する場合は、右の「ACL 内のスロット:」リストボックスからスロットを選択し、「削除」をクリックします。
5. 変更が終了したら、「了解」ボタンをクリックします。

ドメインのリセット

ドメインのリセット機能は、特定のドメインのすべての CPU ポートのリセットして、ドメインのハードウェアをクリーンな状態に戻します。ドメインのリセットについての詳細は、『System Management Services (SMS) リファレンスマニュアル』の `reset(1M)` コマンドの説明を参照してください。

▼ ドメインをリセットする

ドメインをリセットするには、仮想キースイッチが `secure` (保護) 以外の位置である必要があります。キースイッチが `secure` 位置の状態ではドメインをリセットしようとすると、エラーメッセージが返されます。キースイッチ位置の変更方法については、203 ページの「キースイッチ位置の変更」を参照してください。

1. `dmnxadmin` グループのメンバーとして Sun Management Center コンソールにログインします。 x は、リセットするドメインの ID です。
2. ドメイン X 情報テーブル内の、リセットするドメイン ($A \sim R$) を右クリックします。
ドメイン操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「ドメインのリセット」を選択します。
「ドメインのリセット」パネルが表示されます。
4. ドメインをリセットしてもよいことを確認して、「了解」ボタンをクリックします。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。コマンドがエラーで停止した場合は、エラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されません。

注 – 許可されていない DR 操作を行おうとすると、状態メッセージが返されます。今回のリリースにおける DR 操作の制限事項については、『System Management Services (SMS) ご使用にあたって』を参照してください。

▼ 状態を表示する

1. platadmн か platoper、dmnxradmn、dmnxrcfg グループのメンバーとしてログインします。 x は、状態を表示するシステムボードまたはスロットが存在するドメインの ID です。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットを右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。
3. メニューの「状態の表示」を選択します。
「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が表示されます (コマンドが実行されている場合)。最新の状態が表示されるまでに、少し時間 (最長で 1 分) がかかることがあります。
このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。
構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 8-7 に示すようなメッセージが表示されます。
4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

DR 操作に失敗した場合の対処方法

動的再構成 (DR) 操作に失敗する原因はいくつか考えられます。

- ユーザーがその操作を行う権限を持っていない。多くの場合、操作はコンソールレベルでは行うことができません。しかし、コンソールに問い合わせないと操作権限を判定できないケース (特にボードの移動操作) もあります。この場合は、ユーザーはその操作を行うことができますが、「Generic data request error」というエラーで、操作は失敗します。
- Sun Management Center サーバーとエージェント間のグループ設定の矛盾、あるいは 16 個のグループ数制限を超えているという問題があるために、ユーザーがその操作に対する適切な権限を持っていない。この場合は、「Insufficient security privilege」または「Not writable error」というエラーで、操作は失敗します。セキュリティアクセス権に関する詳細は、第 3 章を参照してください。具体的には、55 ページの「1 つのユーザー ID に対するグループ ID 数の制限」にグループ数制限 (16) に関する詳しい説明があります。
- プラットフォームエージェントとのネットワーク接続が停止している。この場合は、「Timeout error」というエラーで操作は失敗します。

「Timeout error」以外のエラーメッセージが返された場合は、次のファイルを参照して、エラーの詳細情報を入手してください。

- /var/opt/SUNWsymon/log の platform.log および pdsm.log ファイル
- /tmp/pdsm.log ファイル
- コンソールログファイル
- /var/opt/SUNWSMS/SMS_version/adm/platform/messages (SMS_version は、SMS1.4.1 などの動作中の SMS のバージョン)

ドメインからの動的再構成 (DR)

この章では、Sun Management Center のコンソールと動的再構成モジュールを使って Sun Fire のハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムのドメインから動的再構成 (DR) 操作を行う方法を説明します。DR 操作は、Sun Fire ドメインに対するボードのアタッチ、ドメインからのボードのデタッチ、Sun Fire ドメインへのボードの構成などの操作です。DR 操作やその他の操作の一部として、ボードのテスト、ボードの電源のオンまたはオフなどの、その他の管理操作を行うことができます。

前提条件

Sun Management Center の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解する必要があります。Sun Fire システムにおける DR 操作については、次のマニュアルを参照してください。

- Sun Fire ハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムの『Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - Sun Fire ハイエンドシステムに対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。Sun Fire のハイエンドシステムでの DR 操作に関する一般的な注意事項、判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) ご使用にあたって』を参照してください。
- `cfgadm(1M)` のマニュアルページ - DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説しています。

DR モジュール

DR モジュールでは、ドメインの表に示されている接続点を通じて、ドメインに対する DR 操作を行うことができます。これらの操作は、**Sun Management Center** のコンソールを使用してのみ、`cfgadm(1M)` コマンドのときと同じ方法で行うことができます。このモジュールは、**Sun Fire** のハイエンドシステムおよびミッドレンジシステムで機能します。

このモジュールは、**Sun Management Center** ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、自分で読み込む必要があります。また、このモジュールは、必要に応じて読み込み解除することができます。**Sun Management Center** のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『**Sun Management Center ユーザーガイド**』を参照してください。

図 8-1 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示される、このモジュールのアイコン (**DR Sun Fire** のハイエンドシステムおよびミッドレンジシステム) を表しています。図 8-1 はまた、DR データテーブル例と使用可能な DR コマンドも示しています。

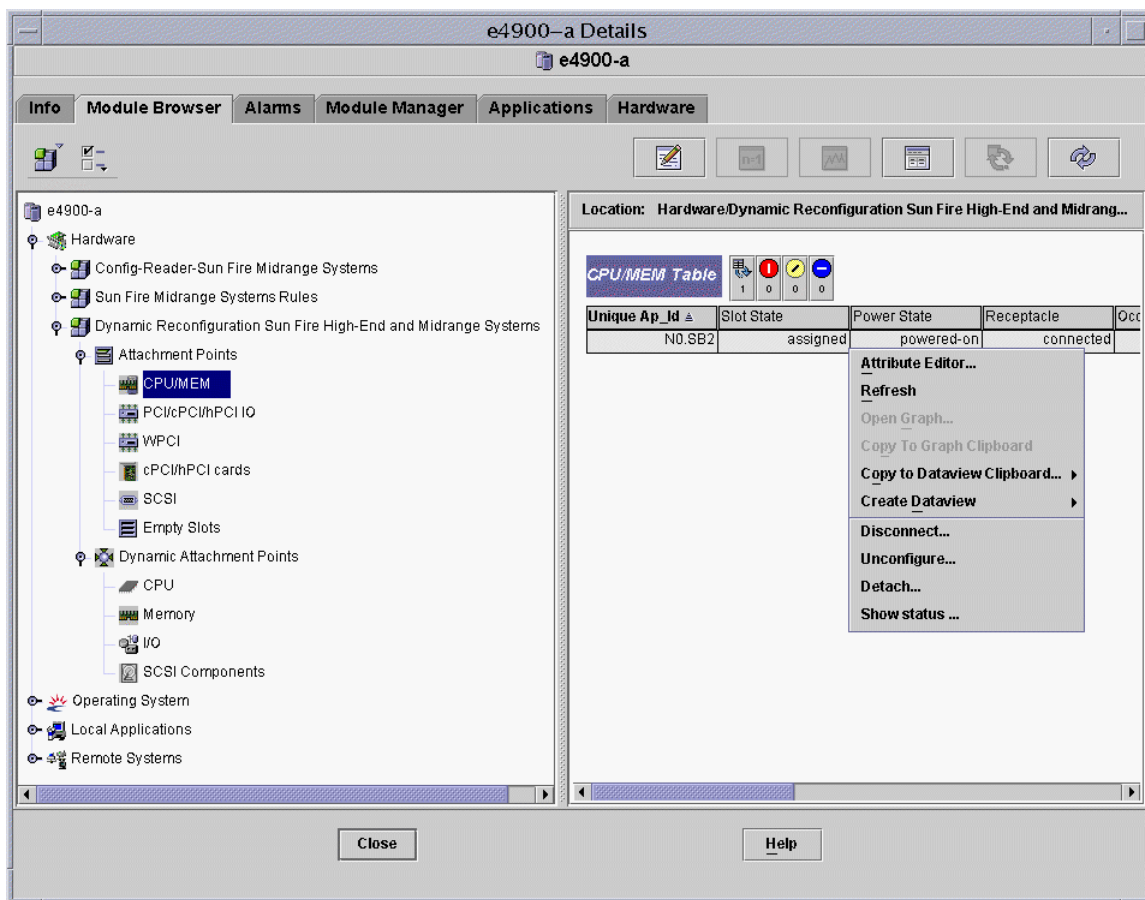


図 8-1 DR の機能

DR の属性

動的に再構成可能なボードまたはデバイスの最新の状態は、詳細ウィンドウの右側にある DR 関係のデータテーブルを使用して調べます。

DR モジュールが提供するテーブルは、次の 2 つのセクションに分かれています。

- 接続点 - システムボードや入出力ボードなどの大きな構成部品の単一接続点
- 動的接続点 - CPU モジュール、DIMM、SCSI ドライブなどの、個別デバイスとコンポーネントの動的接続点

接続点

接続点はボードとそのスロットの総称です。接続点テーブルは、次のタイプのボードスロットに関する情報を提供します。

- CPU/メモリー
- 入出力
- WPCI
- cPCI/hPCI カード
- SCSI
- 空きスロット
- MaxCPU (Sun Fire ハイエンドシステムのみ)

CPU/メモリー

表 8-1 は、CPU/メモリーボードの接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-1 CPU/メモリーボードの接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured |
| タイプ | ボードのタイプ。CPU |
| 状態 | ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など |

表 8-1 CPU/メモリーボードの接続点属性 (続き)

| 属性 | 説明 |
|-------|--|
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |

入出力

次の表は、入出力ボードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-2)。Sun Fire ハイエンドシステムの場合は、hPCI および hPCI+ 入出力カードの属性のみ表示されません。

表 8-2 入出力ボードの接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 IOx の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。 assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。 powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。 connected、 disconnected、 empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | ボードの種別。 PCI_I/O_Boa、 PCI+_I/O_Bo、 HPCI、 HPCI+ など |
| 状態 | ボードの状態。 ok、 unknown、 failed、 unusable のどれか |
| 情報 | このボードタイプの一般的な情報。 powered-on、 assigned など |

表 8-2 入出力ボードの接続点属性 (続き)

| 属性 | 説明 |
|-------|--|
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |

WPCI

表 8-3 は、WPCI ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured |
| タイプ | ボードのタイプ。WPCI |
| 状態 | ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など |

表 8-3 WPCI ボードの接続点属性 (続き)

| 属性 | 説明 |
|-------|--|
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17) |

cPCI/hPCI カード

次の表は、cPCI/hPCI カードの接続点属性を簡単にまとめています (表 8-4)。Sun Fire ハイエンドシステムの場合は、hPCI カードの属性のみ表示されます。

注 - SCSI カードも、システムから cPCI/hPCI と見なされます。構成された SCSI カードは DR モジュール内の 2 つのテーブル、SCSI テーブルと cPCI/hPCI テーブルに表示されます。SCSI カードを構成解除すると、その時点でカードタイプがシステムから「不明」になるため、cPCI/hPCI テーブルだけに表示されるようになります。

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|--|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pci_pci0:e05b1slot0、pcisch2:e04b1slot3 など |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | タイプ。pci-pci/hp など |
| 状態 | ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | 一般的な情報。unknown など |

表 8-4 cPCI/hPCI の接続点属性 (続き)

| 属性 | 説明 |
|-------|---|
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,7000000:e04b1slot3 など |

SCSI

表 8-5 は、SCSI の接続点属性を簡単にまとめています。

注 – SCSI カードをこの SCSI テーブルから構成解除すると、そのカードのエントリがテーブルに表示されなくなります。SCSI カードはシステムから cPCI/hPCI カードとも見なされ、構成された SCSI カードは DR モジュール内の 2 つのテーブル、SCSI テーブルと cPCI/hPCI テーブルに表示されます。カードを構成解除すると、その時点でカードタイプがシステムから「不明」になるため、cPCI/hPCI テーブルだけに表示されるようになります。

表 8-5 SCSI の接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch3:e04b1slot2 |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | タイプ。scsi/hp など |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | このコンポーネントの一般的な情報。unknown など |

表 8-5 SCSI の接続点属性 (続き)

| 属性 | 説明 |
|-------|---|
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,600000:e04b1slot2 など |

空きスロット

表 8-6 は、空きスロットの接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-6 空きスロットの接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch0:e17b1slot1 など |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | ボードのタイプ。unknown |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | このボードタイプの一般的な情報。assigned または unknown |
| 構成日時 | このスロットがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,6000000:e17b1slot1 など |

MaxCPU

表 8-7 は、MaxCPU ボードの接続点属性を簡単にまとめています。この属性テーブルは、Sun Fire ハイエンドシステムの場合にだけ表示されます。

表 8-7 Sun Fire ハイエンドシステムの MaxCPU ボードの接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた MaxCPU ボードの一意の論理接続点 ID |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured |
| タイプ | ボードのタイプ。MCPUCPU |
| 状態 | ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか |
| 情報 | このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など |
| 構成日時 | このボードがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | MaxCPU ボードの物理的な接続点 ID |

動的接続点

動的接続点とは、システムボード上の、CPU、メモリー、入出力デバイスなどのコンポーネントを意味します。こうした動的接続点は、DR ドライバによって作成されます。DR ドライバについての詳細は、『Sun Solaris Reference Manual Collection』の dr(7D) のマニュアルページを参照してください。動的接続点テーブルは、次のタイプのコンポーネントに関する情報を提供します。

- CPU
- メモリー
- 入出力
- SCSI コンポーネント

CPU コンポーネント

表 8-8 は、CPU コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-8 CPU コンポーネントの動的接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | コンポーネントタイプ。cpu |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed のどれか |
| 情報 | この CPU タイプの一般的な情報。cpuid 2、speed 750 MHz、ecache 8 MBytes など。このフィールドについては、『Solaris Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照。 |
| 構成日時 | このコンポーネントがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3) |

メモリーコンポーネント

表 8-9 は、メモリーコンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-9 メモリーコンポーネントの動的接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::memory の形式で、x はボードが装着されている センタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 unconfigured または configured |
| タイプ | コンポーネントタイプ。memory |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed のど れか |
| 情報 | このメモリータイプの一般的な情報。base address 0x0、2097 152 KBytes total、420920 KBytes permanent など。このフィールドについては、 『Solaris Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照 |
| 構成日時 | このコンポーネントがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が 進行中のときは y、そのような操作が進行中でないと きは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::memory の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンスロッ トの番号 (0 ~ 17) |

入出力コンポーネント

表 8-10 は、入出力コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-10 入出力コンポーネントの動的接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 NO.IBx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、y は PIC 番号 (0 ~ 3) |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured |
| タイプ | コンポーネントタイプ。io |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed のどれか |
| 情報 | この io タイプの一般的な情報。 device/pci@23d,700000 referenced など。このフィールドについては、『Solaris Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照。 |
| 構成日時 | このコンポーネントがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | 物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:IOx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、y は PIC 番号 (0 ~ 3) |

SCSI コンポーネント

表 8-11 は、SCSI コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 8-11 SCSI コンポーネントの動的接続点属性

| 属性 | 説明 |
|-----------|---|
| 一意の接続点 ID | cfgadm から得られた SCSI コンポーネントの一意の論理接続点 ID |
| スロットの状態 | スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned |
| 電源の状態 | 電源の状態。powered-on または powered-off |
| 受容装置 | 受容装置の状態。connected |
| 占有装置 | 占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured |
| タイプ | コンポーネントタイプ。disk、CD-ROM、tape のどれか |
| 状態 | コンポーネントの状態。ok、unknown、failed のどれか |
| 情報 | このタイプの一般的な情報 |
| 構成日時 | このコンポーネントがドメインに構成された日時 |
| ビジー | 状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n |
| 物理 ID | SCSI コンポーネントの物理的な接続点 ID |

ドメインからの DR 操作

この節では、Sun Management Center の DR モジュールを使って、Sun Fire ドメインから DR 操作を行う方法を説明します。ドメインからのすべての DR 操作は、`cfgadm(1M)` コマンドに依存しています。`cfgadm(1M)` コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

Sun Fire のドメインには、論理的な側面と物理的な側面の両方があります。

- 「論理」ドメインは、特定のドメインに所属するものとしてグループ化されたスロットの集まりです。スロットには、システムボードが存在することもあれば、存在しないものもあります。
- 「物理」ドメインは、物理的に相互接続された、論理ドメイン内のボードの集まりです。

占有されているか空いているかに関係なく、スロットは論理ドメインのメンバーになることができますが、物理ドメインの構成要素になることはありません。起動後、ボードまたは空きスロットは、論理ドメインに割り当てたり、論理ドメインから割り当て解除したりできます。**Solaris** オペレーティングシステムから要求があると、ボードは物理ドメインの構成要素になります。空きスロットが物理ドメインの構成要素になることはありません。

この節では、次に挙げる、ドメインからの DR およびその他の管理操作について説明します。

- ボードの割り当て
- ボードの割り当て解除
- ボードのアタッチ
- ボードのデタッチ
- ボードの接続
- ボードの切断
- ボードまたはコンポーネントの構成
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除
- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 状態の表示

サポートされている cfgadm のオプション

表 8-12 は、DR モジュールがサポートする cfgadm(1M) のオプションの一覧です。cfgadm(1M) コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

表 8-12 DR がサポートする cfgadm のオプション

| cfgadm のオプション | Sun Management Center の GUI メニュー項目 | 説明 |
|------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| -c configure | アタッチ | ボードをアタッチ |
| -c disconnect | デタッチ | ボードをデタッチ |
| -x assign | 割り当て | ボードを割り当て |
| -c disconnect -x unassign | 割り当て解除 | ボードを割り当て解除 |
| -c connect | Connect | ボードを接続 |
| -c disconnect | Disconnect | ボードを切断 |
| -c configure | Configure | ボードまたはコンポーネントを構成 |
| -c unconfigure | 構成解除 | ボードまたはコンポーネントを構成解除 |
| -x poweron | 電源オン | ボードの電源をオンにする |
| -x poweroff | 電源オフ | ボードの電源をオフにする |
| -t | テスト | ボードをテスト |

ドメインからのドメイン情報の表示

Sun Fire のドメインから DR 操作を行うときは、「ハードウェア」タブにある DR モジュールの接続点と動的接続点テーブルを表示します。

ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認

ドメインからシステムボードに対して DR 操作を行うには、そのボードがドメインの ACL リストに登録されている必要があります。

ボードの割り当て

この操作により、システムボードが論理ドメインに追加されます。

▼ ボードを割り当てる

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの割り当て先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当てるボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「割り当て」を選択します。
次のメッセージの入った「割り当て」確認ボックスが表示されます。

```
Assign a slot.  
Are you sure you want to assign?
```

4. 選択したボードを割り当てる場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当てない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て操作を取り消します。

ボードの割り当て解除

この操作により、システムボードが論理ドメインから削除されます。

▼ ボードを割り当て解除する

1. esadm グループのメンバーとして、割り当て解除するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当て解除するボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「割り当て解除」を選択します。
次のメッセージの入った「割り当て解除」確認ボックスが表示されます。

```
Unassign.  
Are you sure you want to unassign?
```

4. 選択したボードを割り当て解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当て解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て解除操作を取り消します。

システムボードのアタッチ

ボードのアタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティングシステムに指定されたシステムボードをアタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- システムコントローラ経由でのドメインへのシステムボードの物理的な接続
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボード上のコンポーネントの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できるようになります。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってアタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをアタッチする

1. `esadm` グループのメンバーとして、システムボードのアタッチ先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、アタッチするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「アタッチ」を選択します。
次のメッセージの入った「アタッチ」確認ボックスが表示されます。

```
Attach a board.  
Attach will connect and configure the selected board.  
Are you sure you want to attach?
```

4. 選択したボードを接続し構成する場合は、「了解」ボタンをクリックします。そうしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、アタッチ操作を取り消します。

システムボードのデタッチ

ボードのデタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティングシステムから指定されたシステムボードをデタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボード上のコンポーネントの構成解除。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できなくなります。
- システムコントローラとの通信を通じての、ドメインからのシステムボードの物理的な切断。これ以降、システムボードは論理ドメインの構成要素ではありますが、物理ドメインの構成要素ではなくなります。
- システムボードの電源オフ

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってデタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをデタッチする

1. `esadm` グループのメンバーとして、デタッチするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、デタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「デタッチ」を選択します。
「デタッチ」確認ボックス (図 8-2) が表示されます。

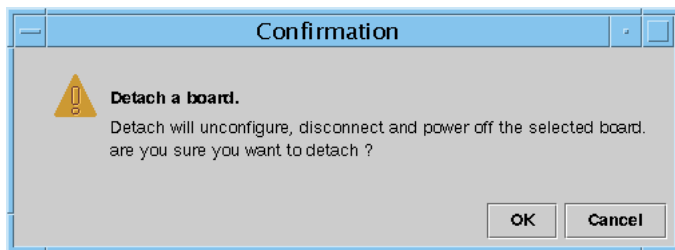


図 8-2 「デタッチ」確認ボックス

4. 選択したボードを構成解除し、切り離して電源オフする場合は、「了解」ボタンをクリックします。そうしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、デタッチ操作を取り消します。

ボードの接続

この操作により、次の処理が行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て (ボードが使用可能で、論理ドメインの構成要素でない場合)
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- 物理ドメインへのシステムボードの接続

▼ システムボードを接続する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの接続先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、接続するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューの「接続」を選択します。

次のメッセージの入った「接続」確認ボックスが表示されます。

Connect
Are you sure you want to connect?

4. 選択したボードを接続する場合は、「了解」ボタンをクリックします。接続しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、接続操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボードの切断

この操作により、次の処理が行われます。

- システムボードの構成解除 (必要な場合)
- 物理ドメインからのシステムボードの切断

▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する

1. esadm グループのメンバーとして、切断するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、切断するシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「切断」を選択します。
「切断」パネル (図 8-3) が表示されます。

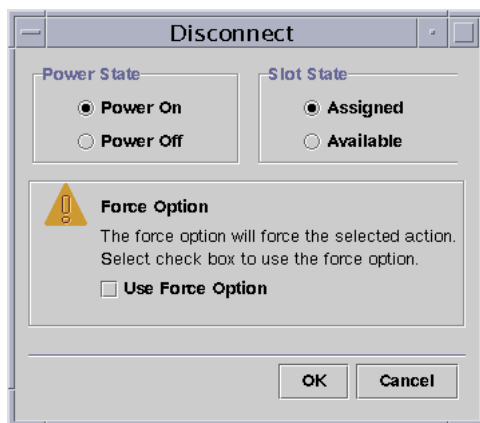


図 8-3 「切断」パネル

4. 適切な「電源の状態」オプションのラジオボタンを選択します。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
5. 適切な「スロットの状態」オプションのラジオボタンを選択します。切断後、ボードは指定されたスロット状態になります。
6. 切断操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」を選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。

7. 選択したボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ SCSI ボードを切断する

esadm グループのメンバーとして、切断する SCSI ボードがあるドメインにログインします。

8. 適切なボードテーブル内の、切断する SCSI ボードの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

9. メニューの「切断」を選択します。

次のメッセージの入った「切断」パネルが表示されます。

```
Disconnect
Are you sure you want to continue?
```

10. 選択した SCSI ボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

ボード、コンポーネント、メモリーの構成

この操作により、次の処理が行われます。

- システムボードの接続 (必要な場合)
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボードまたはボード上のコンポーネントかメモリーの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがボード、ボード上のコンポーネント、またはボード上のメモリーを利用できるようになります。

▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードかコンポーネント、メモリーの構成先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成するシステムボード、コンポーネント、またはメモリーの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード、コンポーネント、またはメモリー操作のメニューが表示されます。

3. メニューの「構成」を選択します。

次のメッセージの入った「構成」確認ボックスが表示されます。

Configure
Are you sure you want to configure?

4. 選択したボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除

構成解除機能は、システムコントローラ、またはボード上のコンポーネント、メモリーを構成解除します。この処理により、ドメイン上で動作するアプリケーションは、ボード、コンポーネント、またはメモリーを利用できなくなります。

▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューの「構成解除」を選択します。
次のメッセージの入った「構成解除」パネルが表示されます。

```
Select Force Option
The force option will force the selected action.
Select check box to use the force option.
```

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. 選択したボードまたはコンポーネントを構成解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ メモリーを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するメモリーがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するメモリーコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
メモリーコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューの「構成解除」を選択します。
「メモリーの構成解除」パネル (図 8-4) が表示されます。

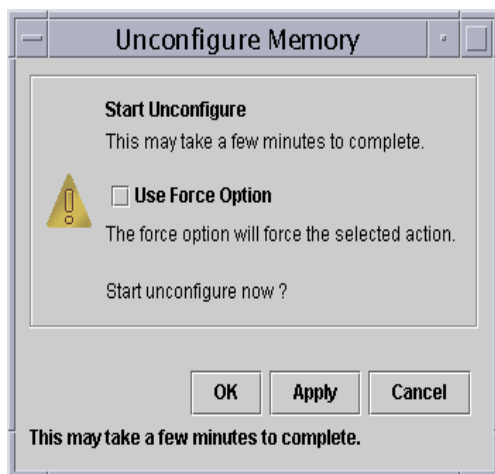


図 8-4 「メモリーの構成解除」パネル

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. メモリーの構成解除を開始する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、システムボードの電源をオンにします。システムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオンにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオンにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオンにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オン」を選択します。
次のメッセージの入った「電源オン」確認ボックスが表示されます。

```
Power On a board.  
Are you sure you want to power on?
```

4. システムボードの電源をオンにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オンにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オン操作を取り消します。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能では、システムボードの電源がオフされます。システムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオフにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオフにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオフにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「電源オフ」を選択します。
次のメッセージの入った「電源オフ」確認ボックスが表示されます。

```
Power Off a board.  
Are you sure you want to power off?
```

4. システムボードの電源をオフにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オフにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オフ操作を取り消します。

ボードのテスト

ボードのテスト機能では、システムボードがテストされます。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられ、電源がオンになっている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードをテストする

1. esadm グループのメンバーとして、テストするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、テストするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューの「テスト」を選択します。
「ボードのテスト」パネル (図 8-5) が表示されます。

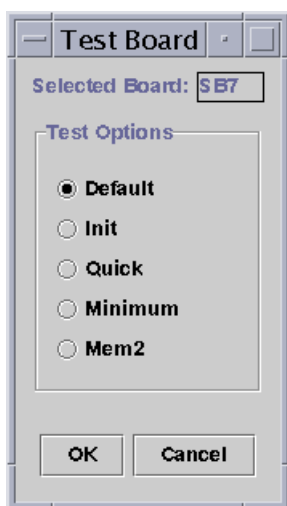


図 8-5 「ボードのテスト」パネル

4. 適切なテストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認したら、「了解」ボタンをクリックして、テストを開始します。テストしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、テストを取り消します。

注 – Sun Fire ハイエンドシステムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。実行中のコマンドがエラーで停止した場合は、`cfgadm(1M)` プログラムからエラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

▼ 状態を表示する

1. `esadm` グループのメンバーとして、状態を表示するシステムボードまたはスロットがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。
3. メニューの「状態の表示」を選択します。
「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます (コマンドが実行されている場合)。
このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 8-6 に示すようなメッセージが表示されます。



図 8-6 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 8-7 に示すメッセージが表示されます。

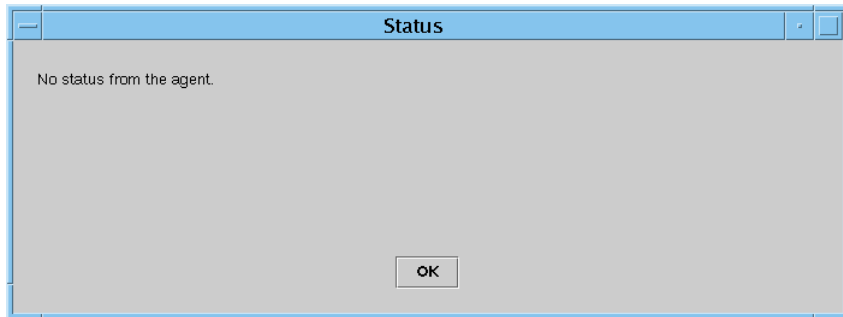


図 8-7 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合)

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

CLI によるインストールと設定

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアのインストール

Sun Management Center サーバーとシステムコントローラ、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン、コンソールには、Sun Management Center ベースソフトウェアと Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアをインストールします。



注意 – システムコントローラが CP2140 ボードの場合は、そのサポートのために、システムコントローラと Sun Management Center サーバーの両方にシステムコントローラ用エージェントソフトウェアを再インストールする必要があります。

詳細なインストール方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-inst による Solaris プラットフォームへのインストール」を参照してください。

インストール作業の過程で、各追加製品の一覧が表示され、製品をインストールするかどうか問い合わせがあります。次の 2 つは、Sun Fire ハイエンドシステムに固有の製品です。

- Sun Fire High-End Systems Monitoring
- Sun Fire ハイエンドおよびミッドレンジシステムのプラットフォーム用動的再構成ドメインで動的再構成を使用する場合

インストールが完了すると、インストールされた製品の一覧が表示され、Sun Management Center コンポーネントを設定するかどうか、問い合わせがあります。

Sun Fire ハイエンドシステムまたはミッドレンジシステムのプラットフォームエージェントは、Sun Management Center ソフトウェアが動作している任意のマシンにインストールできます。

注 – Sun Management Center ソフトウェアのインストールまたはセットアップでは、**y** (はい)、**n** (いいえ)、**q** (終了) のいずれかを入力します。

CLI による Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定

Sun Management Center サーバーとシステムコントローラ、Sun Fire ハイエンドシステムのドメイン、コンソールで、Sun Management Center ベースソフトウェアと Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定をします。

詳細な設定方法については、『Sun Management Center インストールと構成ガイド』の付録 B の「es-setup による Solaris プラットフォーム上の設定」を参照してください。

インストールで追加製品を選択していて、主要製品の設定を完了すると、選択された製品ごとにセットアップスクリプトが実行されます。Sun Management Center サーバーまたはコンソールの場合、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定は特に必要ありません。ただし、システムコントローラと Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの場合は、Sun Fire ハイエンドシステム用アドオンソフトウェアの設定が必要になります。

システムコントローラの設定

ここでは、システムコントローラに Sun Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法を説明します。このソフトウェアのインストールと設定は、両方のシステムコントローラで行う必要があります。両方とも手順は同じです。システムコントローラに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールする場合は、その前に、そのシステムコントローラから Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールしてください (33 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームの設定が開始されると、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems Platform Setup  
-----
```

```
....
```

```
Is this Sun Fire High-End Systems platform configured with a spare SC?[y|n|q]
```

1. Sun Fire ハイエンドシステムに予備のシステムコントローラが構成されている場合は、*y* (はい)、予備のシステムコントローラがない場合は *n* (いいえ) を入力します。
y を選択した場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Enter the alternate SC hostname (not main_hostname) for this platform  
Alternate SC hostname: alternate_hostname
```

2. 予備 (または代替) のシステムコントローラがある場合は、そのシステムコントローラのホスト名を入力します。
次のメッセージが表示されます。

```
The Platform agent will create a composite object that includes Sun Management  
Center agents loaded on Sun Fire High-End Systems domains.
```

```
The default port to be checked for Sun Fire High-End Systems Domains is: 161.
```

```
Do you want to change the port that will be checked?[y|n|q]
```



注意 – すべての Sun Fire ハイエンドシステムのドメインについて、ドメインエージェントのセットアップで指定したのと同じポート番号を指定してください。ポート番号が異なると、Sun Fire ハイエンドシステムの複合オブジェクトが機能しません。

3. デフォルトのポートを変更しない場合は *n*、変更する場合は *y* を入力します。*y* を入力すると、新しいデフォルトのポート番号を指定するよう求められます。新しいポート番号を入力してください。

Sun Management Center Sun Fire ハイエンドシステムのシステムコントローラのエージェントの設定が開始されると、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems System Controller Agent  
Setup  
-----
```

SC 用に使用されているマシンに従って、次のメッセージのうちのいずれかが表示されます。

■ CP1500 が使用されていることが検出された場合

```
Proper setup requires loading the drivers i2c, i2cadc, i2cgpio.  
This will enable us to collect voltage and temperature data for the CP1500.  
Please refer to the SPARCengine ASM Reference Manual for more information.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```

注 - y (はい) を入力して続行すると、es-start スクリプトによって、CP1500 上で次に示すドライバが自動的に読み込まれます。

■ CP2140 が使用されていることが検出された場合

```
Proper setup requires loading the Solaris Management Console software and  
patches for CP2140 support.  
This will enable us to collect temperature data for the CP2140.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```

■ CP1500 と CP2140 のどちらも使用されていないことが検出された場合

```
Error, an unsupported SC type has been detected.  
SC is neither CP1500 nor CP2140.
```

```
Would you like to continue?[y|n|q]
```


4. `y` を入力して、システムコントローラのエージェントの設定をします。設定をしない場合は `n`、終了する場合は `q` を入力します。

`y` と入力すると、システムコントローラのエージェントの設定が最後まで行われて、次のメッセージが表示されます。

```
Do you want to start Sun Management Center agent now?[y|n|q]
```

5. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire ハイエンドシステムのプラットフォームエージェントとシステムコントローラエージェントを起動する場合は、`y` を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、`n` を入力します。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定

ここでは、Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントの設定方法を説明します。このための手順は、監視するすべてのドメインで同じです。ドメインに Sun Management Center ソフトウェアを再インストールする場合は、その前に、そのドメインから Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールしてください (33 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照)。

Sun Fire ハイエンドシステムのドメインの設定が開始されると、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
Starting Sun Management Center Sun Fire High-End Systems Domain Setup  
-----
```

```
.....
```

```
The Domain Config Reader for Sun Fire High-End Systems will collect configuration  
and status information for your tape drives at regular polling intervals.This  
can be disruptive to tape drive controllers that do not allow concurrent access.
```

```
Would you like to disable this feature?[y|n|q]
```

1. テープドライブに対するポーリングを無効にする場合は `y`、無効にしない場合は `n` を入力します。

テープドライブコントローラによって同時並行アクセスが禁止されている場合は、この機能を無効にできます。

いずれの場合も、次のメッセージが表示されます。

Do you want to start Sun Management Center agent now [y|n|q]

2. ここで Sun Management Center の主要エージェントと Sun Fire ハイエンドシステムのドメインエージェントを起動する場合は、`y` を入力します。これらのソフトウェアを起動しない場合は、`n` を入力します。

用語集

このリストは、このマニュアル、および Sun Fire ハイエンドシステム専用のモジュール用の Sun Management Center のコンソールで使用されている略語と頭字語をまとめたものです。

A

- ABUS** アドレスバス (Address Bus) の略語
- AC** 交流 (Alternating Current) の略語で、電源装置からの入力交流電流を意味します。
- ACL** アクセス制御リスト (Access Control List)。Sun Management Center の GUI で使用されているこの用語は、System Management Services (SMS) で使用されている使用可能なコンポーネントリスト (Available Component List) と同じものです。
- AMX** アドレスマルチプレクサ (Address Multiplexer) ASIC を意味します。
- AR** アドレスレジスタ (Address Register) ASIC を意味します。
- ASIC** Application-Specific Integrated Circuit の略語
- ASM** Advanced System Monitoring の略語
- ASR** 自動システム回復 (Automatic System Recovery) の略語
- AXQ** システムアドレスコントローラ (System Address Controller) ASIC を意味します。

C

- °C 摂氏
- CBH コンソールバスハブ (Console Bus Hub) の略語
- CLI コマンド行インタフェース (Command-Line Interface) の略語
- COD Capacity on Demand オプションを意味します。
- codd Capacity-on-Demand デーモンを意味します。
- CP センタープレーン (Centerplane) の略語で、Sun Fireplane インターコネクトともいいます。
- CPU 中央演算処理装置 (Central Processing Unit) の略語
- CSN シャーシのシリアル番号
- CS または CSB センタープレーンサポートボード (Centerplane Support Board) の略語

D

- DARB データアービター (Data Arbiter) ASIC を意味します。
- DAT デジタルオーディオテープ (Digital Audio Tape) の略語
- DBUS データバス (Data Bus) の略語
- DC 直流 (Direct Current) の略語で、施設の電源からの直流電流を意味します。
- dca ドメイン構成管理 (Domain Configuration Administration) の略語
- DCR ドメイン構成リーダー
- DDS デジタルデータ記憶装置 (Digital Data Storage) の略語
- DIMM Dual Inline Memory Module の略語
- DMX データマルチプレクサ (Data Multiplexer) ASIC を意味します。
- DNS ドメインネームサービス (Domain Name Service) の略語
- DR 動的再構成 (DR)
- dsmcd ドメインサービス監視デーモン (Domain Service Monitoring Daemon) の略語
- DX データ抽出 (Data Extract) ASIC を意味します。
- D キャッシュ データキャッシュのことです。

E

- ECC** 誤り訂正コード (Error-Correcting Code) の略語
- efe** イベントフロントエンドデーモン (Event Front-end Daemon) の略語
- efhd** Error and Fault handling デーモンの略語
- elad** イベントログアクセスデーモンの略語
- erd** イベントレポートデーモンの略語
- esmd** 環境状態監視デーモン (Environmental Status Monitoring Daemon) の略語

E キャッシュ 外部キャッシュのことです。

EX または EXB 拡張ボードの略語

F

- fomd** フェイルオーバー管理デーモン (Failover Management Daemon) の略語
- frad** FRU アクセスデーモン (FRU Access Daemon) の略語
- FRU** 現場交換可能ユニット (Field-Replaceable Unit) の略語
- FT** ファントレイ (Fan Tray) の略語

G

- GUI** グラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface) の略語

H

- HK** ハウスキーピング (Housekeeping) の略語
- HPCI、hPCI、hsPCI** ホットスワップ PCI (Hot-swap PCI) 構成部品です。
- HPCI+、hPCI+、hsPCI+** ホットスワップ PCI (Hot-swap PCI) plus 構成部品です。

HUP ハングアップ (Hang-up) 信号を意味します。

hwad ハードウェアアクセスデーモン (Hardware Access Daemon) の略語

I

ICMP Internet Control Message Protocol の略語

ID 識別子 (Identifier) を意味します。

I/O 入出力 (Input/Output) の略語で、MaxCPU ボードや hsPCI ボードなどを意味します。

IOA 入出力アダプタ (Input/Output Adapter) の略語

IP インターネットプロトコル (Internet Protocol) の略語

I キャッシュ 命令キャッシュのことです。

J

JDK Java Development Kit の略語

K

kmd キー管理デーモン (Key Management Daemon) の略語

M

mand 管理ネットワークデーモン (Management Network Daemon) の略語

MCPU MaxCPU ボード

MHz メガヘルツ (Megahertz) を意味します。

MIB Management Information Base の略語

mld メッセージログ記録デーモン (Message Logging Daemon) の略語

MB または M バイト メガバイト (Megabyte) を意味します。

N

- NIC ネットワークインタフェースカード (Network Interface Card) の略語
NIS Network Information Services の略語

O

- OBP OpenBoot PROM の略語
OID オブジェクト識別子 (Object Identifier) を意味します。
osd OpenBoot PROM サポートデーモン (OpenBoot PROM Support Daemon) の略語

P

- Paroli 並列光リンクのことです。
pcd プラットフォーム構成デーモン (Platform Configuration Daemon) の略語
PCI Peripheral Component Interconnect の略語
PCR プラットフォーム構成リーダー
PDSM プラットフォーム/ドメインの状態管理
PFA 予測障害分析 (Predictive Failure Analysis) の略語
POR 電源投入リセット (Power-on Reset) の略語
POST 電源投入時セルフテスト (Power-On Self-Test) の略語
PROC プロセッサを意味します。
PROM Programmable Read-Only Memory の略語
PS 電源装置 (Power Supply) の略語です。

R

- RBUS** 応答バス (Response Bus) を意味します。
- RIO** 入出力読み取り (Read Input/Output) ASIC を意味します。
- RMX** 応答マルチプレクサ (Response Multiplexer) ASIC を意味します。
- RSM** 遠隔共有メモリー (Remote Shared Memory) の略語
- RT** リアルタイムプロセス (Real-time process) を意味します。

S

- SAN** ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network) の略語
- SB** システムボード (System Board) の略語で、CPU ボードなどのことです。
- SBBC** Sun Fire Boot Bus Controller の略語
- SC** システムコントローラ (System Controller) の略語
- SCM** システムコントローラの監視 (System Controller Monitoring) の略語
- SCSI** Small Computer System Interface の略語
- SDC** Sun Fire データコントローラ (Sun Fire Data Controller) ASIC を意味します。
- SDI** システムデータインタフェース (System Data Interface) ASIC のことで、拡張ボードには、この ASIC が 6 つあります。
- SDI0** システムデータインタフェース (System Data Interface) のマスター ASIC のことで、5 つあるシステムデータインタフェース ASIC のマスターです。
- SDI3** 5 つあるシステムデータインタフェース ASIC の 3 つ目です。
- SDI5** 5 つあるシステムデータインタフェース ASIC の 5 つ目です。
- SEEPROM** Serially Electrically Erasable PROM の略語
- SIMM** Single Inline Memory Module の略語
- SMS** System Management Services の略語
- SNMP** Simple Network Management Protocol の略語
- ssd** SMS 起動デーモン (SMS Startup Daemon) を意味します。
- SSM** スケーラブル共有メモリー (Scalable Shared Memory) の略語

SYS システムプロセス (System process) を意味します。

T

tmd タスクマネージャデーモン (Task Manager Daemon) の略語

TNG 次世代 (The Next Generation) を意味します。

TS タイムシェアリングプロセス (Time-sharing process) を意味します。

U

UPA UltraSPARCa Port Architecture の略語

V

V Volts (ボルト) または Voltage (電圧) の略語

VDC 直流電圧を意味します。

W

WCI Sun Fire Link Interface ASIC のことです。

WcApp Sun Fire Link および Sun Fire High-End の SMS インタフェースデーモンのことです。

WPCI Sun Fire Link PCI のことです。

wrsm Sun Fire Link Remote Shared Memory 用のドライバ

wssm Sun Fire Link Scalable Shared Memory 用のドライバ

X

x/dxs ドメイン X サーバー (Domain X Server) のことで、X は a ~ r の範囲の英字です。

索引

C

CP1500

ドライバ、インストール, 244

ボード、属性, 160

CPU/メモリーボード、属性

接続点, 212

ドメイン, 143

CPU コンポーネント、属性

動的接続点, 219

CPU ボード、属性, 108

D

DIMM、属性

ドメイン, 150

プラットフォーム, 124

H

hPCI、属性

カード, 146

接続点, 215

カセット, 119

ボード

ドメイン, 144

入出力, 213

プラットフォーム, 110, 112

M

MaxCPU ボード、属性

接続点, 218

ドメイン, 145

プラットフォーム, 117

N

NIS ネームサーバー, 47

P

Paroli カード、属性

ドメイン, 147

プラットフォーム, 121

PCI デバイス、属性, 162

S

SCSI コンポーネント、属性

動的接続点, 222

SCSI、属性

接続点, 216

SC 構成 リーダー

アイコン, 158

アラーム規則, 166

CPU

温度 (cpCPUTemp), 167

- 状態 (cpCPUStatus), 166
- エラー数
 - ディスク (cpDskErrCnt), 167
 - テープ (cpTpeErrCnt), 168
- ボードの電圧 (cpBrdVolt), 166
- 属性, 159
 - PCI デバイス, 162
 - SC ボード, 160
 - システム, 160
 - ディスクデバイス, 163
 - テープデバイス, 164
 - ネットワークインタフェース, 165
 - プロセッサ, 161
 - メモリーモジュール, 162
- SC デーモンプロセス、属性, 180
- SC の監視
 - アイコン, 178
 - アラーム規則
 - プロセスの停止 (rDownProc), 182
 - 監視対象の SMS デーモン, 179
 - 属性
 - SC デーモンプロセス, 180
- SC の状態
 - アイコン, 182
 - アラーム規則
 - SC の状態 (rscstatus), 184
 - 属性, 183

W

- WCI、属性, 153
- Web インタフェース, 42
- WPCI ボード、属性
 - ドメイン, 145
 - ドメインの DR, 214
 - プラットフォーム, 115

あ

- 空きスロット、属性
 - 接続点, 217
 - ドメイン, 177
 - プラットフォーム, 172

- アクセス制御 (ACL)
 - ACL の設定または変更, 204
 - ボードがドメインの ACL に登録されていること
の確認, 224
- アラーム規則
 - CPU
 - 温度 (cpCPUTemp), 167
 - 状態
 - システムコントローラ (cpCPUStatus), 166
 - ドメイン (scCPUStatus), 154
 - hPCI カード (scHPICId), 131
 - OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 132
 - OK/FAIL 規則 (scOkFail), 133
 - ON/OFF 規則 (scOnOff), 133
 - POST の状態
 - POST の状態 (scPOST), 134
 - ドメイン (scPOSTStatus), 155
 - SC の状態 (rscstatus), 184
 - エラー数
 - DIMM (scDimmErrCnt), 154
 - ディスク
 - システムコントローラ (cpDskErrCnt), 167
 - ドメイン (scDskErrCnt), 155
 - テープ
 - システムコントローラ (cpTpeErrCnt), 168
 - ドメイン (scTpeErrCnt), 156
 - リンク
 - 状態 (scLnkSt), 157
 - 妥当性 (scLnkVld), 157
 - システムボード
 - DR の状態 (scDrStat), 135
 - テストの状態 (scBTest), 135
 - 状態の検査 (scStateCheck), 156
 - 電源装置の遮断器 (scBreakr), 134
 - ドメイン停止と記録停止 (scStop), 130
 - フェイルオーバー状態 (scFoStat), 131
 - プロセスの停止 (rDownProc), 182
 - ボード
 - 温度 (scBTemp), 129
 - 電圧
 - システムコントローラ (cpBrdVolt), 166
 - 電圧 (scBVolt), 130
 - 電源 (scBPower), 129
 - 電流 (scBCurr), 128

い

インストール

- CP1500 のドライバ, 244
- 概要, 10
- 図, 10
- スクリプト, 3
- 注意事項, 3
- ホストと対応するレイヤー, 13

お

オブジェクト

- 検出、属性, 127
- プラットフォーム
 - 作成, 66
 - ポート番号, 67

温度

- アラーム規則
 - システムコントローラ (System Controller), 167
 - プラットフォーム, 129
- しきい値, 167
- 摂氏, 98

か

- 拡張ボード、属性, 102, 173

き

- キースイッチ、位置の変更, 203

く

グループ、管理

- Sun Fire ハイエンドシステムのモジュール, 53
- Sun Management Center, 48
- System Management Services
 - PDSM 操作, 53
 - デフォルト, 50
- スーパーユーザー, 46
- 制限, 55

け

- 検出オブジェクト、属性, 127

こ

構成解除、ドメインからの

- コンポーネント, 233
- ボード, 233
- メモリー, 234

構成、ドメインからの

- コンポーネント, 232
- ボード, 232
- メモリー, 232

コンソール

- 起動, 38
- 終了, 39
- セットアップ, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27

さ

サーバー

- 起動, 38
- 再構成, 41
- 最小メモリー容量, 12
- 選択, 12
- 停止, 39, 41
- ホスト名, 42

再インストール

- System Management Services ソフトウェア, 40

再構成

- サーバー, 41
- システムコントローラ, 40
- データの退避, 41
- ドメイン, 42
- プラットフォーム, 40

削除

- タグ、ドメイン, 202
- ボード
 - ドメイン, 196
 - プラットフォーム, 189

し

- システムコントローラ
 - CP1500 のドライバのインストール, 244
 - インストール, 242
 - エージェント, 5
 - 再構成, 40
 - 周辺装置、属性, 105
 - 状態, 183
 - 属性, 104
 - デーモンプロセス, 180
 - ハードウェアの概要, 85
 - 物理表示, 86
 - 予備, 243
 - 論理表示, 90
- システム、属性
 - システムコントローラ (System Controller), 160
 - ドメイン, 143
 - プラットフォーム, 98
- 詳細ウィンドウ
 - システムコントローラ (System Controller), 84
 - ハードウェアの概要, 85
 - 物理表示, 86
 - 論理表示, 90
 - ドメイン, 79
 - ハードウェアの概要, 80
 - 物理表示, 81
 - 論理表示, 83
 - 「ハードウェア」タブ, 70
 - ハードウェアの概要、概略, 70
 - 物理表示、概略, 71
 - プラットフォーム, 71
 - ハードウェアの概要, 72
 - 物理表示, 75
 - 論理表示, 77
 - モジュール、Sun Fire ハイエンドシステムの
 - エージェント, 69
 - 論理表示、概略, 71
- 状態の表示
 - PDSM
 - ドメイン, 205
 - プラットフォーム, 192
 - ドメインの DR, 238

す

- スーパーユーザーのアクセス権, 46
- スクリプト
 - インストール (es-inst), 3
 - セットアップ (es-setup), 3, 40
 - 注意事項, 3
- スロット 0 のボード、属性
 - ドメイン, 175
 - プラットフォーム, 171
- スロット 1 のボード、属性
 - ドメイン, 176
 - プラットフォーム, 172
- スロット、定義, 223

せ

- 切断、ドメインからの
 - SCSI, 231
 - ボード, 230
- セットアップ
 - ACL, 204
 - 概要, 10
 - 図, 10
 - スクリプト, 3, 40
 - ネットワーク上の共通の場所, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27
 - ワークステーション, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 27
- センタープレーンサポートボード、属性, 103
- センタープレーン、属性, 100
- 前提条件, 185, 209

そ

- ソフトウェアの起動, 37
 - コンソール, 38
 - サーバー, 38
 - システムコントローラ, 37
 - ドメイン, 37
- ソフトウェアの終了、コンソール, 39
- ソフトウェアの停止, 38
 - コンソール, 39

サーバー, 39, 41
システムコントローラ, 39, 41
ドメイン, 39, 41

つ

追加

タグ、ドメイン, 201
ボード
ドメイン, 195
プラットフォーム, 188

追加製品 (ライセンス契約の下に使用許可)

Web インタフェース, 42
概略, 3

て

停止回数

記録 (rstop), 66
ドメイン (dstop), 66

ディスクデバイス、属性

システムコントローラ (System Controller), 163
ドメイン, 151

データの退避, 41

テープデバイス、属性

システムコントローラ (System Controller), 164
ドメイン, 152

電圧

アラーム規則
システムコントローラ (System
Controller), 166
プラットフォーム, 130
注意, 166

電源オフ

周辺装置

SC からの
プラットフォーム, 191
ボード
SC からの
ドメイン, 199
プラットフォーム, 191
ドメインからの, 236

電源オン

周辺装置

SC からの
プラットフォーム, 191
ボード
SC からの
ドメイン, 198
プラットフォーム, 191
ドメインからの, 235

電源装置、属性, 107, 174

と

ドメイン

インストール, 245
起動, 37
再構成, 40, 42
情報、属性, 175
属性, 124
停止, 39, 41
ハードウェアの概要, 80
表示へのアクセス, 54
物理表示, 81
リセット, 205
論理表示, 83

ドメイン構成リーダー

アイコン, 139
アラーム規則, 154
CPU の状態 (scCPUStatus), 154
DIMM エラー数 (scDimmErrCnt), 154
POST の状態 (scPOSTStatus), 155
状態の検査 (scStateCheck), 156
ディスクエラー数 (scDskErrCnt), 155
テープエラー数 (scTpeErrCnt), 156
リンクの状態 (scLnkSt), 157
リンクの妥当性 (scLnkVld), 157

再表示, 142

属性, 142

CPU/メモリーボード, 143
DIMM, 150
hPCI カード, 146
hPCI ボード, 144
MaxCPU ボード, 145
Paroli カード, 147
WCI, 153

- WPCI ボード, 145
 - システム, 143
 - ディスクデバイス, 151
 - テープデバイス, 152
 - ネットワークインタフェース, 152
 - プロセッサ, 148
 - メモリーコントローラ, 148
 - メモリーバンク, 149
- ドメインの動的再構成 (DR)
 - SCSI の切断, 231
 - アイコン, 210
 - サポートされている cfgadm のオプション, 224
 - 状態の表示, 238
 - 接続点, 211
 - 属性
 - CPU/メモリー, 212
 - CPU コンポーネント, 219
 - hPCI カード, 215
 - hPCI 入出力ボード, 213
 - MaxCPU, 218
 - SCSI, 216
 - SCSI コンポーネント, 222
 - WPCI, 214
 - 空きスロット, 217
 - 入出力コンポーネント, 221
 - メモリーコンポーネント, 220
 - 動的接続点, 211, 218
 - 物理、定義, 223
 - ボードのアタッチ, 227
 - ボードの構成、コンポーネント、メモリー, 232
 - ボードの接続, 229
 - ボードの切断, 230
 - ボードのテスト, 237
 - ボードのデタッチ, 228
 - ボードの電源オフ, 236
 - ボードの電源オン, 235
 - ボードの割り当て, 225
 - ボードの割り当て解除, 226
 - ボードまたはコンポーネントの構成解除, 233
 - メモリーの構成解除, 234
 - 論理、定義, 223
- ドメインのリセット, 205

に

- 入出力コンポーネント、属性
 - 動的接続点, 221

ね

- ネームサービススイッチ, 47
- ネットワークインタフェース、属性
 - システムコントローラ (System Controller), 165
 - ドメイン, 152

は

- 「ハードウェア」タブ, 70
- ハードウェアの概要
 - 概略, 70
 - システムコントローラ (System Controller)
 - 表示, 85
 - ドメイン
 - 表示, 80
 - プラットフォーム
 - 情報, 74
 - ハードウェア資源, 74
 - 表示, 72
- パッケージ
 - Sun Fire ハイエンドシステム, 4
 - 最小ディスク容量, 4

ひ

- 表示
 - ドメイン、アクセス, 54
 - 物理, 71
 - プラットフォーム、アクセス, 54
 - 論理, 71

ふ

- ファントレイ、属性, 106, 174
- 複合
 - アイコン, 58
 - 検出, 62

- 更新, 62
- 作成, 60
- 障害の追跡, 64
- プラットフォーム, 57
- 物理表示
 - 概略, 71
 - システムコントローラ (System Controller)
 - 表示, 86
 - ドメイン
 - 表示, 81
 - プラットフォーム
 - 表示, 75
- プラットフォーム
 - オブジェクト
 - 作成, 66
 - システムコントローラ, 66
 - 再構成, 40
 - 情報、属性, 171
 - ハードウェアの概要, 72
 - 表示へのアクセス, 54
 - 複合, 57
 - 物理表示, 75
 - 論理表示, 77
- プラットフォーム/ドメインの状態管理
 - ACL の設定または変更
 - ドメイン, 204
 - アイコン, 168
 - キースイッチ位置の変更
 - ドメイン, 203
 - グループ権限、要件, 53
 - サポートされる SMS コマンド, 186
 - 状態の表示
 - ドメイン, 205
 - プラットフォーム, 192
 - 属性
 - ドメイン
 - 空きスロット, 177
 - 情報, 175
 - スロット 0 のボード, 175
 - スロット 1 のボード, 176
 - プラットフォーム
 - 空きスロット, 172
 - 情報, 171
 - スロット 0 のボード, 171
 - スロット 1 のボード, 172
 - 電源装置, 174
 - ファントレー, 174
 - タグの削除
 - ドメイン, 202
 - タグの追加/変更
 - ドメイン, 201
 - ドメイン表示, 174
 - アクセス, 54
 - プラットフォーム表示, 170
 - アクセス, 54
 - ボードの移動
 - ドメイン, 197
 - プラットフォーム, 190
 - ボードの削除
 - ドメイン, 196
 - プラットフォーム, 189
 - ボードの追加
 - ドメイン, 195
 - プラットフォーム, 188
 - ボードのテスト
 - ドメイン, 200
 - ボードの電源オフ
 - ドメイン, 199
 - ボードの電源オン
 - ドメイン, 198
 - ボードまたは周辺装置の電源オフ
 - プラットフォーム, 191
 - ボードまたは周辺装置の電源オン
 - プラットフォーム, 191
 - リセット
 - ドメイン, 205
 - プラットフォーム構成リーダー
 - アイコン, 96
 - アラーム規則, 128
 - hPCI カード (scHPCId), 131
 - OK/BAD/UNKNOWN (scOBURul), 132
 - OK/FAIL 規則 (scOkFail), 133
 - ON/OFF 規則 (scOnOff), 133
 - POST の状態 (scPOST), 134
 - システムボード
 - DR の状態 (scDrStat), 135
 - テストの状態 (scBTest), 135
 - 電源装置の遮断器 (scBreakr), 134
 - ドメイン停止と記録停止 (scStop), 130
 - フェイルオーバー状態 (scFoStat), 131

- ボード
 - 温度 (scBTemp), 129
 - 電圧 (scBVolt), 130
 - 電源 (scBPower), 129
 - 電流 (scBCurr), 128
- 再表示, 97
- 属性, 98
 - centerplane support board (センタープレーンサポートボード), 103
 - CPU ボード, 108
 - DIMM, 124
 - hPCI カセット, 119
 - hPCI ボード, 110, 112
 - MaxCPU ボード, 117
 - Paroli カード, 121
 - WPCI ボード, 115
 - 拡張ボード, 102, 173
 - 検出オブジェクト, 127
 - システム, 98
 - システムコントローラ (System Controller), 104
 - システムコントローラの周辺装置, 105
 - センタープレーン, 100
 - 電源装置, 107
 - ドメイン, 124
 - ファントレー, 106
 - プロセッサ, 121
 - メモリーバンク, 123
- プロセッサ、属性
 - システムコントローラ (System Controller), 161
 - ドメイン, 148
 - プラットフォーム, 121

へ

- 変更
 - ACL, 204
 - キースイッチ位置, 203
 - タグ、ドメイン, 201

ほ

- ボードのアタッチ、ドメインからの, 227

- ボードの移動
 - ドメイン, 197
 - プラットフォーム, 190
- ボードの接続、ドメインからの, 229
- ボードのテスト
 - SC からの, 200
 - ドメインからの, 237
- ボードのデタッチ、ドメインからの, 228
- ボードの割り当て解除、ドメインからの, 226
- ボードの割り当て、ドメインからの, 225
- ポート番号
 - エージェント, 40, 67
 - 確認, 63
 - サーバーホスト, 40
 - 注意事項, 243
 - デフォルト, 5
 - トラップエージェント, 40
- ホスト
 - 監視対象, 59
 - 対応するレイヤー, 13
 - 名前
 - サーバー, 42
 - 非監視対象, 59

め

- メモリーコントローラ、属性, 148
- メモリーコンポーネント、属性
 - 動的接続点, 220
- メモリーバンク、属性
 - ドメイン, 149
 - プラットフォーム, 123

も

- モジュール
 - SC 構成 リーダー, 158
 - SC の監視, 178
 - SC の状態, 182
 - Sun Fire ハイエンドシステムエージェント, 2, 69, 93
 - アラーム規則, 96

- 属性, 95
- 読み込み解除可能, 93
- 読み込み可能, 93
- ドメイン構成リーダー, 139
- ドメインの動的再構成 (DR), 210
- プラットフォーム
 - 使用不可, 94
 - 必須の SMS デーモン, 95
- プラットフォーム/ドメインの状態管理, 168
- プラットフォーム構成リーダー, 96

よ

要件

- 各パッケージの最小ディスク容量, 4
- サーバーの最小メモリー容量, 12
- ネットワークポートの設定, 5

ろ

- ログファイル, 43, 184

論理表示

- 概略, 71
- システムコントローラ (System Controller)
 - 表示, 90
- ドメイン
 - 表示, 83
- プラットフォーム
 - 表示, 77

